

医療と社会

学期 スケジュール表による 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習, 実習

担当教員 竹村洋典

田口智博

北村大

家研也

森洋平

若林英樹

近藤諭

授業の概要 医療を取り囲む社会を、様々な医療側の視点と患者側の視点から見る。将来、患者中心の医療を実践できる医師となるために、様々なテーマで人に接することや複数の医療現場での体験を通して患者の世界や患者医師関係を学ぶ。また、医師としてのプロフェッショナルリズムを身に付けるために、その実際のあり方を考察する。さらに、地域の医療現場で情熱ある医療者に接して、地域医療のあり方を考える。講義・実習の体験を発表及び振り返りを通して学びを深める。

学習の到達目標

下記1～3のテーマについて理念ではなく実際のあり方を考察する

1. 患者中心の医療
2. 医師としてのあり方 (professionalism)
3. 地域医療
4. 体験型学習サイクル (振り返り・自己省察) を習得する。

教科書

- ・ Stewart, Brown, Weston, Mcwhinney: Patient-centered Medicine: Trans forming the Clinical Method 2014 日本語版は患者中心の医療 診断と治療社, 2002
- ・ ABIM (American Board of Internal Medicine) Foundation; ACP

授業計画・学習の内容

学習内容

”【講義室実習 内容】・実習場所は大学内講義室。ただし日時・場所については変更がありうるので注意すること。出席管理システムを用いて出欠の確認をするので、講義に出席したときにシステムを利用すること。学生証を忘れた時は教員に申し出ること。他人の学生証を代わりにタッチする、講義開始時に学生証をタッチし、すぐに退出するなどの不正行為には厳重に対応するので注意すること。

- ① オリエンテーション
- ② 患者中心の医療
- ③ 三重県の地域医療
- ④ シネメデュケーション
- ⑤ 在宅医療・福祉・保健
- ⑥ 個人の語り
- ⑦ 看護師の仕事

・②～⑦の実習で振り返りシートに記入して各回実習後1週間以内に提出する。
・合計、6つの振り返り用紙を提出することになる。
・別途で小試験や小論文が行われることがある。”

”【現場体験実習 内容】

・実習場所は以下のとおり。ただし実習施設については変更がありうる。

- ① 地域の診療所
- ② 保健・福祉施設 (保健所、老人保健施設、特別養護老人施設など)
- ③ 大学附属病院の基本診療科
- ④ 地域の病院

・実習に行く前の7日前までには実習先へ連絡をすること。
・ローテーションに沿って、学生2人～数人のグループで週1回午後半日を2回、同じ実習場所に赴いて実習する。
・その度に、実習で経験したこと、それに対する考察をポートフォリオに記入して2回の実習後の報告会 (大学発表会) までに提出する (1つのポートフォリオ/2回の実習)。
・実習日は原則として金曜日午後半日であるが、実習先の都合に

(American College of Physicians) Foundation; European Federation of Internal Medicine. Medical professionalism in the new millennium: a physician charter. Ann Intern Med. 2002; 136: 243-246. Lancet. 359: 520-523.

※2015年度配布シラバスに概要が記載されているので参照のこと

成績評価方法と基準

”・講義室実習・現場体験実習・大学発表会の出席、講義室実習で提出される振り返り用紙 (8回分)、1つの医療施設につき2回の現場体験実習後の報告会で提出するポートフォリオ (4回分) および最終発表会にて提出される最終レポートと最終発表会スライド (パワーポイント) によって成績を判定する。

・講義室実習や現場体験実習の報告会において別途で小試験や小論文が行われた場合、それも評価の対象となる。

・現場体験の実習先の評価も成績に反映される可能性がある。

・合否判定基準: 現場体験実習にすべて出席できていること、8回分の振り返り用紙・4回分のポートフォリオ・最終レポート・最終発表会スライドがすべて提出されること、かつ真摯な姿勢で書かれた内容であれば合格。別途の小試験や小論文、現場体験実習での評価も加味される。

よって曜日・時間は変更になることがある。大学附属病院内の実習は1.5～2時間を目安とする。

・実習中は入学時に受け取った名札をつけること。白衣は各自、生協などで購入のこと。

1) 地域診療所実習

原則として外来診療および／または訪問診療で患者の立場になって医療を観察する。また、その医師を含む医療者と会話をして地域の医療を引き受けている医師としてのあり方 (professionalism) について討論をする。さらに地域における診療所の役割やあり方について観察・討論を通して考察する。

2) 保健・福祉施設実習

原則として介護などの福祉サービスを体験し、利用者の立場になって福祉事業を観察する。また地域における保健・福祉施設の役割やあり方について観察・討論を通して考察する。

3) 大学附属病院実習

内科系は原則として入院患者の診療を見学し、患者の立場になって医療を観察する。また、指導医と医師としてのあり方 (professionalism) について討論をする。

外科系は入院患者診療および／または手術を見学し、患者の立場になって医療を観察する。また、指導医と医師としてのあり方 (professionalism) について討論をする。さらに地域における大学病院の役割やあり方について観察・討論を通して考察する。

4) 地域病院実習

内科系は原則として外来診療および／または入院患者の診療を見学し、患者の立場になって医療を観察する。また、指導医を含めた医療者と医師としてのあり方 (professionalism) について討論をする。

外科系は入院患者診療および／または手術を見学し、患者の立場になって医療を観察する。また、指導医を含めた医療者と医師としてのあり方 (professionalism) について討論する。さらに地域における地域病院の役割やあり方について観察・討論を通して考察する。

※実習施設や診療科について実習前にあらかじめ、どのような施設や科かを調べておくことと有意義な実習になるので、できるだけ調

べていくこと。

＊実習施設や診療科・病院の許可があれば、患者・利用者と話を
するのもよい。待合室や病室で患者・利用者の話をお聞きするの
も良いだろう。ただし、必ず指導医の許可を得て、指導医と患者
との関係に悪い影響がないように十分に配慮すること。

※いずれの実習においても、患者中心の医療、プロフェッショナ
リズム、地域医療について深められるように受け身ではなく積極
的に体験すること。見学であった場合でも、そこで働く医療従事
者に仕事に支障がない範囲で、質問をしたり意見を聞いたりする
などすること。”

”＜報告会（大学発表会）＞

・すべての学生が実習で経験したこと、それに対する考察をポ
ートフォリオに記入して2回の実習後の報告会（大学発表会）まで
にmoodleを使って提出する（1つのポートフォリオ／2回の実習）。
・実習で経験したことやそれに対する考察をお互いに共有して振
り返ることで、患者中心の医療・プロフェッショナリズム・地域

医療の3つのテーマについて洞察をさらに深める。

- ・現場で体験したことを共同で振り返ること自体が将来医師にな
るものにとって非常に大切なことであるので必ず出席すること。
- ・別途で小試験や小論文が行われることがある。

”

”【最終レポート及び発表会 内容】

- ・1年間の「医療と社会」の講義および実習で経験したことをふま
え、これまでの6つの振り返りシートおよび4つのポートフォリオ
を参考にしつつ、最終レポートを作成して最終発表会当日までに
提出する（1つの最終レポート）。
- ・さらに、すべての学生が発表用のスライドをパワーポイントで
作成する。内容は、最終レポートで記載したA患者中心の医療、
Bプロフェッショナリズム、C地域医療のテーマの中から1つを選
んで、発表用にアレンジすること。最終発表会当日までに提出す
る。

※詳細は2015年度シラバス参照”

医学概論

Introduce to Medicine

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○後藤道子、森尾邦正、若林英樹、那谷雅之、小林茂樹、西川政勝、田島和雄、岩本彰太郎、松原貴子、緒方正人、安積良紀、白石泰三、石倉健、梅本正和（非常勤講師）、金丸恵子（非常勤講師）、鈴木中人（非常勤講師）

授業の概要 最新の医科学研究、医療の現状、医の倫理、学習姿勢などのついて幅広く講義する。

学習の到達目標

- ・医師・医学生に求められる姿勢を説明できる。
- ・最新の医科学研究の事例をあげ、内容を概説できる。
- ・医療現場や医療をとりまく社会の現状について概説できる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 医科学の各専門科目。

教科書 指定なし

成績評価方法と基準

・成績評価は授業への取組み（60%）、レポート（40%）で評価する。出席やレポートの不正行為は不合格とする。病欠（要診断

書）、忌引きなど、やむを得ず欠席する場合は医学科学務グループに連絡すること。

・出席管理システムで出席の確認を行うため必ず学生証を持参すること。学生証の忘れは欠席扱いとする。

・レポートは以下のⅠ．Ⅱ．を、三重大Moodleを用いて提出すること【期限厳守】。

Ⅰ．出席した回の感想【講義終了後、次回講義日の13時まで（最終回は8月3日（月）の13：00まで）】＊ただし講義された先生が指定する課題があれば、感想ではなくそれに従う。

Ⅱ．最終レポート【8月6日（木）13：00まで】＊15回の講義の内、最も興味深いテーマを自分なりに調べ、新たにデータを付け、考察を行ったものを「レポート作成ハンドブック」に従った形式で作成すること。最終レポートの提出は2／3以上の出席によって提出が可能とし、単位認定に必須としますので、提出がないものは不合格とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

前期の毎週月曜日午後13：00～14：30、医学部臨床講義棟第2講義室。

なお、講義予定や講義室は変更がありうるので掲示板やメールに注意のこと。

講義テーマと講義日程については、初回講義で配布する。

国際保健と地域医療

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 医学部教員他によるオムニバス形式

授業の概要 医療と保健の課題を「国際」と「地域」のふたつの観点から考える授業である。地域医療の原点がある開発途上国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保健医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。

学習の到達目標

- ・日本の国際協力を理解する。
- ・日本の地域医療の課題を理解する。

発展科目 公衆衛生学、地域医療実習、医学臨床実習

教科書 必要がある場合、授業毎に提示。

成績評価方法と基準

- ・成績は出席および試験による。
- ・出席管理システムで出席の確認を行うため必ず学生証を持参すること。学生証の忘れは欠席扱いとする。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義予定や講義室は変更がありうるので、掲示板、メールに注意

のこと。

講義テーマと講義日程については初回講義で配布する。

医学英語（1年次）

Medical English course for 1st year medical students

学期 スケジュール表による 単位 通年・学科必修・3 対象 医学部医学科・初期医学科目・1年次 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必修 授業の方法 講義

担当教員 アルベルト ペリヤ ゲイル

授業の概要 Students will deepen and expand their ability to learn, analyze, and communicate medical information, in English, to improve students' capacities as members of their local, professional, and global communities.

学習の到達目標

International Medical Communications 1/2

- ☑ Explore and discuss the perspectives and unique values of the various core medical specialties
- ☑ Develop a broad understanding of the variety and depth of medical communication needs
- ☑ Interactive lecture with authentic videos & cases; require students to listen actively, and share & discuss medical topics in a realistic context

Semester 1 Vocabulary: Human Anatomy (ALC)

Semester 2 Vocabulary: Clinical Basics (ALC)

教科書 Personal computer accessing Mie University's online services, particularly the Moodle service. Course material available on Moodle.

成績評価方法と基準

● Students will be graded based on the scoring rubric (THE 4C'S).

<THE 4C'S>

- CORRECTNESS 正確さ（文法）
- CLARITY 説得力のある文章をまとめる力
- CRITICAL INSIGHT 建設的な議論を通じて考えを深めていく力
- CONFIDENCE （聞き手の立場を考慮した上で）自分の言いたいことを堂々とスピーチする力

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.Semester 1
- 1.Introduction
- 2.Coping with English in Medicine (1)
- 3.Purpose of Medicine in Society
- 4.Pediatrics
- 5.Internal Medicine (Endoscopy)
- 6.Surgery (HBP Transplant)
- 7.Anesthesiology

- 8.Vocabulary Exam 1 (Human Anatomy)
- 2.Semester 2
- 1.Coping with English in Medicine (2)
- 2.Psychiatry
- 3.Neurology
- 4.Emergency Medicine
- 5.Obstetrics/Gynecology
- 6.Family Medicine
- 7.Vocabulary Exam 2 (Clinical Basics)

医学英語 (2年次)

Medical English course for 2nd year medical students

学期 スケジュール表による 単位 1 対象 医学部医学科・初期医学科目・2年次 年次 学部(学士課程): 2年次 授業の方法 講義
担当教員 アルベルト ペリヤ ゲイル

授業の概要

Community Relations in Medicine

☑ Practical, small-group exercises exploring various models of medical and intercultural communication

☑ Interpersonal communication skills, including quick response and verbal precision, will be emphasized

☑ Short drills in an OSCE-style, small class setting; require students to actively collaborate to solve realistic problems, that are relevant to medicine

Students will review/discuss current Japanese-language medical coursework and health-related topics in English, while sharpening the skills and vocabulary needed to do so effectively. Focus is on better linking students' English learning experience with their (primarily Japanese) medical competencies.

学習の到達目標

Specific goals include:

- Expanding on and reinforcing the content learned in Japanese-language 2nd year medical courses, in English.

- Refining and expanding on the comprehension, communication, and research skills developed in Medical English 1

- Becoming familiar with and practicing "soft" communication skills essential for medical practice; these include:

○expressing degrees of probability; expressing necessity

○enquiring about the cause of unhappiness/dissatisfaction

○expressing regret/sympathy, condolence

○enquiring about fear/anxiety/worry

○expressing pain, anguish, suffering;

○enquiring about pain, anguish, suffering

○reassuring a worried or frightened person; comforting a sufferer

○enquiring about satisfaction/dissatisfaction

○expressing moral obligation

○giving advice, giving warnings

教科書 Students should purchase "Oxford English for Careers: Medicine 1 (Student's Book)", online or from the campus bookstore. Access to Mie University's "Moodle" service is also required.

成績評価方法と基準

●Students are expected to actively participate in all assigned activities, and will be graded as groups, based on the scoring rubric (THE 4C'S).

<THE 4C'S>

- CORRECTNESS 正確さ (文法)

- CLARITY 説得力のある文章をまとめる力

- CRITICAL INSIGHT 建設的な議論を通じて考えを深めていく力

- CONFIDENCE (聞き手の立場を考慮した上で) 自分の言いたいことを堂々とスピーチする力

授業計画・学習の内容

学習内容

1.Introduction

2.Presenting complaints

3.Working in general practice

4.Instructions and procedures

5.Explaining and reassuring

6.Dealing with medication

7.Lifestyle

8.Oral Examination 1

9.Parents and young children

10.Interpersonal Communication

11.Working in psychiatry

12.Terminal illness and dying

13.Working in a team

14.Diversity at work

15.Oral Examination 2

分子生命体科学

Molecular Biology of the Cell

学期 スケジュール表による 単位 6 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 市民開放授業
担当教員 溝口 明 (医学部医学科) 他

授業の概要

分子生物学・細胞生物学の基本を理解する。

Molecular Biology of the Cell

学習の到達目標

生命現象分子基盤の基礎を理解する。

成績評価方法と基準

毎回小テストと講義後ミニレポートを提出。学期末試験を施行。
学期末試験結果に、小テストとミニレポート結果を加味して成績評価を行う。

教科書

授業計画・学習の内容

学習内容

生命を構成する分子の機能やそれらが形成する法則についての基礎知識を理解していただくのが本科目の目的です。教科書は、Molecular Biology of the Cellの最新版を用います。

毎週1回の講義で1章ずつ進み、医学科の専門教員が交代でそれぞれの章を担当します。

前期 1. ガイダンス

2. 1章 細胞とは

3. 1章 細胞とは

4. 2章 細胞の化学成分

5. 2章 細胞の化学成分

6. 3章 エネルギー、触媒作用、生合成

7. 3章 エネルギー、触媒作用、生合成

8. 4章 タンパク質の構造と機能

9. 4章 タンパク質の構造と機能

10. 5章 DNAと染色体

11. 6章 DNAの複製、修復、組換え

12. 7章 DNAからタンパクへー細胞がゲノムを読み取る仕組み

13. 8章 遺伝子発現の調節

14. 試験

後期 1. 9章 遺伝子とゲノムの進化

2. 10章 遺伝子とゲノムの解析

3. 11章 膜の構造

4. 12章 膜輸送

5. 13章 細胞が食物からエネルギーを得るしくみ

6. 14章 ミトコンドリアと葉緑体における エネルギー生産

7. 15章 細胞内区画と細胞内輸送

8. 16章 細胞の情報伝達

9. 17章 細胞骨格

10. 18章 細胞周期

11. 19章 性と遺伝子

12. 20章 細胞の作る社会：組織、幹細胞、がん

13. 試験

解剖学（骨学実習）、解剖学講義（中枢神経、末梢神経、脈管、骨、筋、発生）

Anatomy

学期 スケジュール表による **単位** 「生体の構造と機能」として18 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 実習

担当教員 教授:成田正明

講師:大河原剛

助教:江藤みちる

(教養教育機構より) 准教授; 太城康良

授業の概要

解剖学の基礎・総論を学ぶ。

骨学実習。

発展科目 3年生の系統解剖学

教科書 以下の「参考書」参照

学習の到達目標 解剖学のはじめはどうしても覚えることが多く
なりがちだが、理解を通して学ぶようにする。

成績評価方法と基準 骨学実習; 実習は欠席できません。終了時
試問、筆記テスト

授業計画・学習の内容

学習内容

骨学実習4回、試問、

解剖学総論授業（骨学、中枢神経学、末梢神経学、筋学、発生学
1, 2、脈管学）

解剖学（系統解剖学）

Anatomy

学期 スケジュール表による **単位** 「生体の構造と機能」として18 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 実習

担当教員 教授: 成田正明

講師: 大河原剛、助教: 江藤みちる

授業の概要

心構え; 生前、自らのご意志で献体してくださった方、及びご遺族への敬意と尊厳を忘れない。

詳しくは実習初日の「オリエンテーション」でお話しします。

学習の到達目標 人体が内側から見るとどのような構造になっているのかを実感として、体験理解することが本課程の目的である。例えば、動脈と静脈の壁の弾力性の差や、鎖骨の内側何cmぐらいのところに肺が存在しているかなど、日常の臨床診断や治療上で必須不可欠の経験と知識を獲得してもらいたい（特に外科学、放射線科学を志す学生には、特に十分に体内の構造を理解する機会を与えたい）。また、内科診断学で高頻度に用いられるCT、MRI、X線、アンギオグラフィー、エコー等の画像診断が、生体のどの構造を写しているのかについて正確な理解を持っていたきたい。即ち、将来の内科診断学に必要なとされ、患者様の病気の診断に必要なとされる構造上の知識の獲得が、本課程の主題である。従って、人体各部位の構造の名称に関しては（従来は、1万カ所以上を英、独、ラテン、日本語と4カ国語で正しく記載することが望まれた）、しかし、現在では、必須構造約2000について、正しい日本語で銘記し、できれば英語名称をも記憶することを勧めている。

受講要件 2年生の骨学、解剖見学、脳実習、組織学を履修済みであること。

教科書

解剖学実習は、まず2階第1講義室でオリエンテーションを行います。

授業計画・学習の内容

学習内容

<実習>

午後1時～5時（月、火、木、金）。

すので、全員遅れることなく（13時00分）、集合してください。実習の手引き、白衣、実習器具、アトラス、名札は必ず持参してください。

以下の（1）、（2）、（3）を解剖実習前に購入してください。2年生の時に既に行った人は結構です。既に生協には伝えてありますので順次入荷します。一時的に品切れになってもすぐに追加の入荷あります。価格は変更になってるかもしれません。

- （1）実習の手引きとして「解剖実習の手びき」（寺田春水・藤田恒夫、南山堂、¥7665）
- （2）図譜として「ネッター解剖学アトラス」（南江堂）
- ・または「解剖学カラーアトラス」（医学書院）
- （3）及び教科書として
- ・または「日本人体解剖学上(¥12000)、同下(¥10000)」
- ・または「解剖学講義」（¥11000）
- ・または「グレイ解剖学」（¥10000）
- ・または「臨床のための解剖学（メディカルサイエンス）」 ¥14700円

実習器具についても生協にて購入してください。

購入申し込み用紙が第2生協店頭にありますので各自受け取り記入し締め切りまでに生協に提出してください。

成績評価方法と基準 口頭試問、系統解剖学筆記試験による。その他適宜行う小テスト、実習態度も加味する。実習の無断欠席は認めない（病欠、忌引などやむを得ない事情はできるだけ早く本人が直接教員に届けること）。

丁寧に時間をかけて予習・復習することを要望する。

系統解剖実習予定表

詳細は実習当日に配布します。

学期 スケジュール表による **単位** 「生体の構造と機能」として18 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 実習

担当教員 教授：山崎英俊（幹細胞発生学 システム神経科学兼任）

准教授：山根利之（幹細胞発生学）

助教：法貴葉子（システム神経科学）、経遠智一（幹細胞発生学）

石川英二（腎臓内科）

玉利健悟（三重大学教養教育機構）

非常勤講師：久留一郎, 富永真琴, 丸山淳子, 浅原俊弘, 西村嘉洋, 南部篤, 畠義郎, 齋藤康彦

授業の概要

生理学(Physiology)は、生命活動の動的機構の解析を目的とし、細胞や器官の機能解明と、これらの機能が統合された個体全体の生命現象の解明を目指す学問である。現在の学問領域の多くは解剖学、生理学から分化発展したものであり、医学知識の基本的な部分を占め、専門課程の最初に学習することになっている。生理学の守備分野は非常に広範な領域を含むが、大きく植物性機能と動物性機能に分けられ、「生体の構造と機能」の機能理解を担当している。

植物性機能とは、生物の生命維持に必須な機能であって、血液、循環、呼吸、消化、排泄、代謝内分泌などが含まれ、端的には、内臓機能とも表現しうる。これらは、自律神経およびホルモンによる調節を受けるので、これらの調節系も植物性機能として取り扱われる。

一方、動物性機能は、骨格筋や神経系に代表される機能であり、筋、神経細胞の共通の特徴である興奮性の理解から始め、筋肉特有の収縮機構、情報伝達部位であるシナプスの働きについて理解した上で、神経系の動作機序をシステムとして理解してゆく。具体的には、脊髄・延髄レベルでの反射機構から、感覚情報処理、運動調節系などの中枢神経機能の理解、個体として外部および内部環境の変化に対する反応系の理解などが含まれる。また、言語機能・脳波・精神活動などの高次脳機能の神経科学的な理解も試みる。このような事項は、将来PBLチュートリアルでの課題や関連

した神経内科学、脳神経外科学、精神神経科学などの講義でも再度学習することになる。

学習の到達目標

細胞・組織・器官系の機能統合を理解し、人体構造と機能の有機的再構築が出来ること。

基本的な専門用語、臓器名称は英語でも読み書き出来るようになること。

受講要件 1～2年次前期までの基礎的人体生物学、生化学などを理解していること。

発展科目 今後学習する「生体の構造と機能」その他関連領域科目

教科書

講義は丸善「ギヤノン生理学」を指定教科書とする。

その他参考図書としては、医学書院「標準生理学」、南山堂「Text生理学」、

欧文教科書としては「Physiology」 5th, Ed., Berne & Levy eds., Mosby, 2005

「Neuroscience ; exploring the brain」 3rd, Ed., 2006

「Principles of Neural Science」 4th, Ed., 2000などを推薦する。

成績評価方法と基準 成績評価は筆答試験によるが、実習点・レポート点・出席を加味する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義項目

<学年別概要>

2年生の9月から植物機能、動物機能を平行して講義してゆく。なお動物機能の講義理解のためには、2年生5月～10月に行われる組織学や脳実習での神経系の構造理解が必須である。

I 植物機能

- 1) 一般生理学の概念
- 2) イオンチャネルおよびトランスポーターによる膜輸送
- 3) 血液の生理学（赤血球の機能、血漿の機能を主として）
- 4) 循環の生理学
- 5) 自律神経の生理学
- 6) 呼吸の生理学
- 7) 内分泌生理学
- 8) 消化器の生理学
- 9) 腎臓の生理学

10) 酸塩基平衡の調節機構

II 動物機能

- 1) 興奮性膜とチャネル
- 2) シナプスの生理学
- 3) 筋肉生理学
- 4) 脊髄, 脳幹の機能（反射生理学）
- 5) 感覚生理学（視床、大脳皮質の感覚機能）
- 6) 運動生理学（小脳、大脳基底核、大脳皮質の運動機能）
- 7) 脳の高次機能（大脳皮質、辺縁系の機能）
- 8) 臨床神経生理学
- 9) 神経科学の最前線（非常勤講師）

III 生理学実習

骨組織におけるカルシウム濃度調節機構, 羊赤血球凝集反応

カエル坐骨神経の活動電位, ヒトの筋電図, ヒトの脳波および誘発電位などを実施する。

学期 スケジュール表による **単位** 「生体の構造と機能」として18 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 実習

担当教員 総論授業：吉田利通（医学部医学科）

組織実習：白石泰三（医学部医学科）

各論授業：病理学I・II教員（医学部医学科）

授業の概要 病理学は基礎医学と臨床医学の架け橋であり、病因論、病原論、病態論（病態生理）の正しい理解がなければ、学生にとって臨床医学は症状や経験論的な治療を暗記するだけになってしまいます。臨床医学を科学的に理解できる能力は、そのために必要な基礎医学の組織的かつ体系的な学習によって習得でき、その体系化を行うのが病理学の講義です。

学習の到達目標

総論の授業からの学生の到達目標は、医学書を読んで書いてあることが理解できる、医学用語（特に病理学用語）の概念を理解しそれを適切に使える、病気とその基盤となる組織・細胞・分子レベルでの現象を結びつけて考えられる、の3点です。

病理組織実習の学生の到達目標は、病理診断の手法を学ぶ、組織内の病変の探し方を獲得する、病理組織の自己学習の基盤をつくる、の3点です。

各論の授業からの学生の到達目標は、各臓器での基本的な病態（たとえば肝不全、腎不全など）を理解する、各臓器で生じる疾患のあらましを知る、臓器内およびその外で生じる病態の連関を理解する、の3点です。

予め履修が望ましい科目

他の基礎医学で履修した項目についてよく理解していなければならない。

授業計画・学習の内容

学習内容

病理学総論（90分全24コマ）

1. 細胞傷害・細胞死と適応
2. 急性・慢性炎症
3. 修復：細胞の再生、線維化と創傷治癒
4. 血液・循環の異常とショック
5. 免疫系の疾患（自己免疫疾患）
6. 腫瘍

病理組織実習（90分全7コマ）

病理学各論（一つのセクションごとに2~4コマ）

7. 遺伝性疾患、先天性・小児疾患（含む奇形）
8. 環境と疾患
9. 感染症病理学
10. 血管系の疾患

特に、2年生前期に講義のある免疫学、生化学、微生物学の豊富な知識を必要とするので、しっかり学習していることが必須である。

発展科目 臨床医学

教科書

Kumar, Cotran, Robbins: Basic Pathology (9th ed.)（日本語はロビンス基礎病理学第8版）

総論については要約のプリントを配布する。各論についても、同じ本に沿って授業を行う。

組織実習および自己学習のために、アトラスをひとつ購入することが望ましい。推薦する教科書としては、アンダーソン病理学カラーアトラスなどがある。

成績評価方法と基準

病理学総論の試験は、授業終了後に行う。本の持ち込みを許可する。60%を合格基準とし、再試は一回とする。

病理組織学実習はレポートの提出で可否を判定する。再提出は一回とする。

病理学各論の講義の試験は、チュートリアルのもジュール試験の中に、随時出題される。病理組織の自己学習の成果についても、同試験内で随時試される。

11. 心臓
12. 造血およびリンパ組織
13. 呼吸器系
14. 腎臓・泌尿器
15. 消化管（上部と下部にわけて行う）
16. 肝臓
17. 胆道系と膵臓（膵臓は内分泌系と外分泌系にわけける）
18. 男性生殖器
19. 女性生殖器
20. 内分泌（除く糖尿病）
21. 筋肉・骨格系
22. 神経系

について、チュートリアル期間内のモジュールのテーマにあわせて行う。

生化学

Biochemistry

学期 スケジュール表による 開講時間 火 5, 6, 7, 8 単位 「生体の構造と機能」として18 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 実習

担当教員 緒方 正人 (医学系研究科機能プロテオミクス), 藤川 隆彦 (非常勤講師), 樋廻 博重 (非常勤講師), 竹林 慎一郎大隈 (医学系研究科機能プロテオミクス), 貞嗣 (医学系研究科機能プロテオミクス)

授業の概要

生化学 (Biochemistry) は生命現象の全般を化学的に追求する学問である。具体的には、生体物質の化学構造とその性質、機能、代謝、代謝の調節機構、栄養等を学ぶと共に、各種疾患の化学的根拠を理解することを目的とする。

学部教育では生化学の基本的事項を理解し、全体を見渡す広い視野を獲得する事によって、この後医学を理解してゆくための基礎を確立する。大学院では、様々な生命現象と病態のしくみを明らかにすることで、疾患の治療と診断につながる基礎を築くことを目標とする。

学習の到達目標 生化学の基本的事項を理解し、全体を見渡す広い視野を獲得する事によって、この後医学を理解してゆくための基礎を確立する。

教科書 教科書：南山堂「図解よくわかる生化学」第1版、または、南山堂「新生化学入門」第5版、および講義プリント

成績評価方法及び基準

1) 出席点ならびに小テスト

講義毎に出席をとり、出席率100%に対し満点の10点を与える。

(以下、65%、3点、70%、4点、75%、5点、80%、6点、85%、7点、90%、8点、95%、9点、100%、10点)。また、講義内容についての小テストを行う場合もある。この場合は、基準を満たす答案を提出した場合に出席扱いとして出席点算出のデータに算入する (基準を満たさぬ場合は、出席していても出席点が与えられない場合がある)。

2) ペーパーテスト

本学の規定により、講義の2/3以上に出席しなかった者は、原則として受験資格を認め無い (正当な欠席理由のある者は、欠席届けを出すこと)。内容全般と教科書の関連箇所について、記述を中心とした試験を行う。代表的な物質の名称、構造式、化学反応、その意義などについての設問を含む。

3) 成績評価

・ペーパーテストと出席点 (10点満点) の合計が60点以上の者を合格とする。成績優秀者を公表する (公表を希望しない人は、試験前に緒方までその旨申し出ること)。

・不合格者には、再試験 (ペーパーテスト) を行う。ペーパーテストのみで60点以上の者を合格とする。

・病気、その他やむを得ない理由で試験を受けられなかった場合はその旨申し出ること。

授業計画・学習の内容

学習内容

4月14日 (火) 緒方 イントロダクション/代謝の基礎

4月21日 (火) 緒方・藤川 糖質代謝/エネルギー代謝

4月28日 (火) 樋廻 栄養と臓器、ビタミン/補酵素と酵素学

5月12日 (火) 樋廻 脂質代謝/脂質代謝

5月19日 (火) 緒方・藤川 血糖の調節/ホルモンのシグナル伝達

5月26日 (火) 緒方・藤川 代謝の統合/組織への燃料補給

6月2日 (火) 樋廻 テロメアと細胞老化、アポトーシス/癌遺伝子と発癌

6月9日 (火) 藤川・緒方 内分泌学/内分泌学

6月16日 (火) 藤川・緒方 アミノ酸代謝/アミノ酸代謝

6月23日 (火) 藤川・緒方 ミクロチド代謝/DNA合成と修復

7月6日 (月) 試験

7月17日 (金) 再試験

学期 後期後半 単位 「生体防御の分子基盤」として8 選択必修 授業の方法 講義, 演習, 実習

担当教員 田中利男（薬理ゲノミクス教授）、西村有平（薬理ゲノミクス講師）、西山成（香川大学薬理学教授）、伊藤 猛雄（名古屋市立大学教授）、吉栖 正典（奈良県立医科大学教授）、教授 玉置 俊晃（徳島大学教授）、加瀬 義夫（ツムラ研究所）、教授 小澤 修（岐阜大学教授）、萩原正敏（京都大学教授）

授業の概要

教育内容・目的

薬理学（pharmacology）は、生物系（biological system）と化学物質（chemical substance）の選択的相互作用（selective interaction）を研究し、薬物療法の基礎となる科学である。生物系は、集団、個体、器官、細胞、分子、遺伝子のレベルで解析し、化学物質は、生物系と選択的相互作用を持つものが対象となる。さらに、分子生物学の発展とともに、分子薬理学（molecular pharmacology）や逆薬理学（reverse pharmacology）が確立されつつある。すなわち、薬理作用から標的分子を解明（forward pharmacology）するだけではなく、逆に標的分子から新しい薬物を発見する薬理学が展開されている。また、ゲノムサイエンスの進展に伴い、薬理ゲノミクス（pharmacogenomics, ファーマコゲノミクス）が構築されつつある。すなわち、薬理作用をゲノムワイドに解析し、新しい治療薬の標的分子の発見とよりよい薬物治療学の確立を目的とする科学に発展しようとしている。薬理学の講義においては、主に「なぜ医薬品は、疾患病態において特定の分子に選択的に作用することにより治療が可能になるのか」の根本原理について個体から遺伝子までの薬理ゲノミクスの観点から解説し、新しい薬物治療学の全体像をシステム薬理学での理解に到達することを目的にする。さらに、現在依然として治療が困難な疾患に対する、新しい薬物治療学への試みを提示する。そのために、従来より多くの治療薬の標的システムである、細胞シグナリングを

中心に具体例を解説し、理解を促進する。

学習の到達目標

- 1) 薬物療法の基本原理を理解し、説明できる。
- 2) 薬物の作用機序をゲノム（遺伝子）、分子、細胞、器官、個体レベルで理解し、説明できる。
- 3) 薬理ゲノミクスの最近の発展と応用について説明できる。
- 4) 細胞シグナリングの種類と機能を説明できる。
- 5) 受容体による情報伝達機序を説明できる。
- 6) 生体内におけるカルシウムイオンの多様な役割を説明できる。
- 7) 薬物・毒物の濃度変応曲線を描き、その決定因子を説明できる。
- 8) 中枢神経作用薬の薬理作用を説明できる。
- 9) 自律神経作用薬の薬理作用を説明できる。
- 10) 循環器作用薬の薬理作用を説明できる。

教科書

指定図書：「NEW薬理学」（南江堂）

参考図書：先端バイオ研究の進めかた（羊土社）、ゲノム機能研究ハンドブック（羊土社）

医科薬理学（南山堂）、ローレンス臨床薬理学（西村書店）

成績評価方法と基準

出席などの学習態度10%、レポート20%、期末試験70%、計100%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) 分子細胞薬理学
- 2) 薬理ゲノミクスとオミックス創薬科学
- 3) 細胞膜シグナリングと薬物治療学
- 4) 内分泌代謝の分子薬理学
- 5) 循環器薬理学の最前線
- 6) 細胞内シグナリングと薬物治療学
- 7) 受容体・イオンチャンネル
- 8) 血管平滑筋薬理学
- 9) 生理活用物質の薬理学
- 10) 高血圧治療薬の薬理
- 11) 臨床薬理学とトキシコゲノミクス
- 12) 免疫・アレルギー・炎症薬理
- 13) 体液調節と薬物
- 14) 循環器・血液・代謝薬理学
- 15) 臨床薬理学とトキシコゲノミクス
- 16) 末梢神経薬理学
- 17) RNAを標的とした難病治療薬の開発
- 18) 中枢神経作用薬の薬理学Ⅰ
- 19) 中枢神経作用薬の薬理学Ⅱ
- 20) 呼吸器・消化器作用薬
- 21) 漢方からのメッセージ ここまで進んだ漢方研究
- 22) 抗感染症薬の薬理学
- 23) 抗腫瘍薬の薬理学
- 24) 本試験

分子病態学

Molecular Pathobiology

学期 スケジュール表による **単位** 「生体防御の分子基盤」として8 **対象** 医学部医学科・生体防御の分子基盤・2年次 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 実習
担当教員 島岡要 (医学部医学科), 岡本 貴行 (医学部医学科)

授業の概要

”【講義形式】

ワークショップ形式で授業を進めるので、「予習とプレゼン準備→授業中のプレゼンテーションと質問・コメント→復習と宿題提出」のサイクルが必須である。授業に関する連絡と宿題の提出はムードルを通じて行う。

【実習】分子病態学では関連の教室と合同で「分子医学実習」を行っている。実習については下記の学習内容参照

学習の到達目標

1. 遺伝子や蛋白質の構造変異・機能異常と病気のメカニズムとの関係を理解できるようになる。
2. 大量の文章を短時間で読み込み、要点をまとめることができる。
3. 医師・研究者に必要な科学リテラシーと論理的思考法を身につける。
4. 英語科学論文を読解する方法を学ぶ。
5. 効果的なプレゼンテーションをするスキルを経験から学ぶ。チームで協力してプロジェクトを遂行する経験を積む。リーダーシップを学ぶ。
6. 分子生物学の基本的研究手技を理解し、経験する（実習）

受講要件

1. 遺伝子の構造と転写の機構について履修済であること。
2. 核酸の構造と遺伝の機構について履修済であること。
3. 蛋白質の構造と合成の機構について履修済であること。
4. 糖質の構造と種類について履修済であること。
5. 脂質の構造と種類について履修済であること。
6. 細胞の増殖と死について履修済であること。
7. 生体組織の構造と機能について履修済であること。

授業計画・学習の内容

学習内容

[講義内容]

担当者：島岡要、岡本貴行

- 1) 論理的思考法
- 2) 遺伝学・遺伝子クローニング・変異
- 3) 細胞内シグナル伝達異常
- 4) 癌遺伝子と癌抑制遺伝子
- 5) 細胞周期制御とアポトーシス
- 6) 細胞の不死化と多段階腫瘍形成
- 7) ゲノム不安定性
- 8) 血管新生と微少環境や幹細胞ニッチ
- 9) 細胞の接着・遊走と癌浸潤・転移
- 10) 腫瘍免疫と炎症
- 11) 臨床試験とトランスレーショナル医学

【授業日程】

[授業日程]

日時 教官 講義内容

- 1/5 (月) 1・2限 島岡 論理的思考法①
3・4限 島岡 論理的思考法②
1/7 (水) 1・2限 島岡 遺伝学・分子生物学①
3・4限 島岡 遺伝学・分子生物学②
1/14 (水) 1・2限 島岡 シグナル伝達異常①
3・4限 島岡 シグナル伝達異常②
1/19 (月) 1・2限 島岡 癌遺伝子
3・4限 島岡 癌抑制遺伝子
1/21 (水) 1・2限 島岡 細胞周期制御
3・4限 島岡 アポトーシス
1/26 (月) 1・2限 島岡 細胞の不死化

予め履修が望ましい科目 1. 分子生命体科学を履修済であること。

教科書

教科書1: ワインバーグ がんの生物学 (Robert A. Winberg 著、訳/武藤・青木) 第1版、2008年刊、南江堂、東京
教科書2: 知的複眼思考法 (刈谷剛彦 著) 講談社

成績評価方法と基準

1) 授業中レポート

授業の理解を問い、論理的思考法と質問する力を育成するレポートを毎回授業中に書き、授業終了時に提出 (点数化)。

2) 授業でのプレゼンテーション

教科書の指定された部分を予習し、プレゼンテーションを準備し事前にムードルにアップロードする。授業中に発表を行う (点数化)。

3) 宿題レポート

各授業に関連する科学論文を読んで、内容をまとめる宿題をムードルから提出する (点数化)。

4) 筆記試験

筆記試験を行います。問題は、講義・教科書・宿題の内容に沿い、英語で出題します。例年、授業に出席し、真剣に勉強した学生だけが合格するような問題を作成しています。

上記4つをすべて点数化し、その合計が60点以上を合格とします。

点数化の配分は最初の授業で説明します。

進級に関わる最終的な合否判定は教務委員会が行います。再試は行いますが、再々試験は行いません。授業中、レポート・宿題、試験における不正行為には、厳しく対処します。理由を問わず単位は無効になります。

以上は講義の成績評価方法です。実習の成績評価は実習初日のオリエンテーションで詳しく説明します。

3・4限 島岡 多段階ガン化

1/28 (水) 1・2限 島岡 ゲノム不安定性①

3・4限 島岡 ゲノム不安定性②

2/2 (月) 1・2限 島岡 血管新生

3・4限 島岡 がん微少環境とニッチ

2/4 (水) 1・2限 島岡 細胞接着と遊走

3・4限 島岡 癌浸潤と転移

2/9 (水) 1・2限 島岡 腫瘍免疫と炎症①

3・4限 島岡 腫瘍免疫と炎症②

2/16 (月) 1・2限 島岡 臨床試験

3・4限 島岡 トランスレーショナル医学

[実習内容]

担当：岡本貴行、大学院生 (Teaching assistant)

分子病態学では関連の教室と合同で「分子医学実習」を行っている。

分子病態学では授業内容を実践して理解する意味から、主に、血液凝固因子の遺伝子多型 (SNP) 解析に関する実習を行っている。具体的には、学生の血液細胞からの染色体DNAの分離とPCR法を用いた遺伝子増幅、及び増幅遺伝子の解析による多型解析を行う。

実習書を用意します。

[実習日程]

1/19 (月) 5・6・7・8・9・10限 岡本、大学院生

1/20 (火) 5・6・7・8・9・10限 岡本、大学院生

1/26 (月) 5・6・7・8・9・10限 岡本、大学院生

1/27 (火) 5・6・7・8・9・10限 岡本、大学院生

2/16 (月) 5・6・7・8・9・10限 岡本、大学院生

2/17 (火) 5・6・7・8・9・10限 岡本、大学院生

学期 スケジュール表による 単位 「生体防御の分子基盤」として8 選/必修 授業の方法 講義, 実習

担当教員 野阪哲哉 (医学部基礎医学系講座)、鶴留雅人 (医学部基礎医学系講座)、河野光雄 (医学部基礎医学系講座)、小埜良一 (医学部基礎医学系講座)、中瀬一則 (付属病院がんセンター)、駒田洋 (鈴鹿医療科学大学保健衛生学部)、山岡昇司 (東京医科歯科大学医学部)

授業の概要 分子生物学の素過程や基本原理はウイルスや細菌等の微生物の研究に負うところが多い。現代においても、微生物学の研究から、基礎生物学の基本的なコンセプトが続々と生み出されている。また、ウイルスは多彩な遺伝子存在形態を有することが明らかになっているが、RNA遺伝子を鋳型としてDNAを合成する酵素を持つレトロウイルスの発見は、分子生物学のセントラルドグマに重大な修正をもたらすことになった。この酵素 (逆転写酵素) は、細菌由来の制限酵素群と共に、今日の分子生物学研究には不可欠のツールとなっている。また微生物は遺伝子変異を起こすことにより、感染宿主域を拡大したり、宿主の防御機構を回避したり、また薬剤抵抗性を獲得したりすることができる。さらに近年、エイズやエボラ出血熱などの新しい感染症、あるいは克服されたと思われていた感染症で再び猛威をふるうものが出現してきたが、これらの新興・再興感染症への対応は医療にとって大きな課題となっており、その原因ウイルスあるいは原因菌の基礎研究の重要性は増大している。以上のように、微生物学には基本的生物学という側面と病原体を対象とする科学という側面とがあり、この両面が相まって統一した科学を形成している。したがって微生物学の授業では一般的な教科書に記載されている微生物学の基礎知識に加えてup-to-dateな情報を多く取り入れた教育を行う予定であり、そこでは現存の重要なパラダイムを紹介するだけでなく、そこに至るまでの学説の変遷など極めて流動性に富む微生物学の世界を紹介したい。

学習の到達目標 各種微生物の感染と伝搬の様式および病原性についての正しい認識を身につけ、臨床あるいは感染症に関わる研究の現場において適切な活動ができること。

予め履修が望ましい科目 特にありませんが (必修の) 分子生命体科学や (必修の) 基礎生物学の内容を十分に理解しておくことが必要です。

教科書 シンプル微生物学 (第5版、授業で使うわけではありません。コストパフォーマンスがよい。)、戸田新細菌学 (改訂34版、この本は素晴らしい。細菌、ウイルス、真菌、原虫、免疫、全てカバー。16000円と高価だが、金銭的に余裕がある人は是非購入されたし。内容が最新で明快。カラー。)

成績評価方法と基準

講義と実習の双方の試験に合格することが必要です。

講義の成績評価は筆記試験 (100点満点) で行ない、60点以上を合格とします。ただし講義に2/3以上出席することが前提です。実習の成績評価は口頭試問 (A、B、C、Dの4段階評価) およびレポート (A、B、C、Dの4段階評価) の成績を総合して行ない、Dを不合格とします。ただし実習にはすべて出席することが前提です。

(再試験) : 講義の筆記試験の再試験は実習前に行ないますが、その後の実習に出席して合格しなければ採点の対象となりません。実習の口頭試問のD判定者には再試験を行ないます。

授業計画・学習の内容

学習内容

4月17日 5~8時限 微生物学概論、ウイルスと疾患 (野阪)、真菌感染症-現場から (付属病院がんセンター長 中瀬)
4月20日 5~8時限 ウイルス学総論 (鈴鹿医療科学大学教授 駒田) この日のみ、13時半開始。
5月 8日 5~8時限 ウイルス感染の初期過程 (鶴留)
5月15日 5~8時限 ウイルスの転写複製機構 (河野)
5月22日 5~8時限 インフルエンザウイルス、エボラウイルス (鶴留)
5月29日 5~8時限 ウイルスベクター基礎編&応用編 (野阪)
6月 5日 5~8時限 細菌学総論 (河野)

6月12日 5~8時限 細菌学各論 (小埜)
6月19日 5~8時限 AIDSとATL発症の分子機構 (東京医科歯科大教授 山岡)
6月26日 5~8時限 ヒトがんウイルス、細菌毒素学 (野阪)
7月10日 5~8時限 筆記試験
7月21日 5~8時限 再試験
2月 1日 5~8時限 実習 (A班) (未定)
2月 2日 5~8時限 実習 (A班) (未定)
2月 8日 5~8時限 実習 (B班) (未定)
2月 9日 5~8時限 実習 (B班) (未定)
2月15日 5~8時限 口頭試問 (未定)

学期 スケジュール表による 単位 8 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必修 授業の方法 講義

担当教員 ガバザ・エステバン (医学部医学科)、戸田雅昭 (医学部医学科)

授業の概要

免疫学はジェンナー (Jenner, E.1749~1823) の創始した種痘を起源とする実学として発展してきた。20世紀とくにその後半には分子生物学的手法を駆使した研究の展開により医学・生物学の中にユニークな領域を形成している。

ヒトの健康はリンパ球を中心とした免疫反応により、外部からの感染性病原体を排除することにより保たれている。しかし、このような“健康な個体”にも自己に反応するリンパ球の存在することが明らかにされ、これが未だ不明のメカニズムで活性化されるとたちまち不治の“自己免疫病”に陥る。また、エイズウイルスはリンパ球そのものに感染し、“健康の基盤”といえる免疫反応を低下させ、通常では無害の細菌や真菌を有害化させる。

このように、免疫反応が中心的役割を果たす感染症の予防や自己免疫疾患の理解を通じた治療、アレルギー、臓器移植や癌の免疫治療など免疫生物学の基礎を学ぶことを通して理解する。

学習の到達目標 生体防御医学 (免疫学) の教育ではいまままでに解明された基本的事項を理解し、病気の予防を含む健康の保持に

果たす免疫反応の役割を理解するとともに、免疫反応と病気との関連を広く学ぶことを通し、EBM(evidence-based medicine)発展の基盤を習得することを目的としている。

予め履修が望ましい科目 生体の構造と機能に含まれる科目を充分に学習しておくこと

発展科目 病理学、組織学、生化学など

教科書

①Immunobiology: The Immune System in Health and Disease (6th ed.)

②Charles A.Janeway et al.(Taylor & Francis; ISBN: 0815341016)

③イラストレイテッド 免疫学 (原書2版)

④エッセンシャル 免疫学 (第2版)

⑤分子細胞免疫学 (原著第5版)

上記を指定教科書とする。

成績評価方法と基準 試験及び実習

授業計画・学習の内容

学習内容

4月16日 木曜日 13:00~16:10 ガバザ.....免疫総論

4月23日 木曜日 13:00~16:10 戸田.....自然免疫

4月27日 月曜日 8:50~12:00 戸田.....B細胞・T細胞の発生と分化

5月11日 月曜日 8:50~12:00 戸田.....抗原認識分子機構

5月18日 月曜日 8:50~12:00 戸田.....T細胞を介する免疫

5月25日 月曜日 8:50~12:00 戸田.....体液性免疫応答

6月1日 月曜日 8:50~12:00 ガバザ.....免疫応答とシグナル伝達

6月8日 月曜日 8:50~12:00 ガバザ.....免疫系における過剰反応

6月15日 月曜日 8:50~12:00 ガバザ.1)免疫応答による正常組織の破綻, 2)移植免疫・腫瘍免疫

6月22日 月曜日 8:50~12:00 ガバザ.1)感染に対する生体防御, 2)生体防御機構の破綻

7月14日 火曜日 13:00~16:10.....本試験

9月9日 水曜日 13:00~16:10.....再試験

医動物学

Medical Zoology

学期 スケジュール表による **単位** 「生体防御の分子基盤」として8 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 実習
担当教員 油田正夫 (医学部医学科), 岩永史朗 (医学部医学科), 安藤勝彦 (非常勤講師), 伊澤晴彦 (非常勤講師), 前川洋一 (非常勤講師)

授業の概要

医動物学 (Medical Zoology) は、ヒトの健康に直接間接に関わる動物を扱い、それらが関係する疾病の発生機序の解明を目的とする学問である。例えば寄生虫とその中間宿主、病原体媒介者であるVector昆虫、有毒な動物やアレルギーの原因となる昆虫やダニなど幅広い動物が対象で、それら動物についての基礎知識やそれらと人との関わり、即ちその病原性、感染や発病の機構、予防や治療、病害動物の防除法等について研究する学問分野である。医動物には歴史的には病理学の一分野から出発し、微生物学や生体防御医学・免疫学と共に感染症の防御が主要な課題であるが、基礎生物学的側面や熱帯医学・疫学や予防医学 (社会医学) の側面も合わせ持っている。医動物学は既知の知識と新しい展開を合わせて、動物とヒトとの関係・ヒトの疾病について医学と生物学の接点という観点から、以下の講義と実習をプレチュートリアル教育の一貫として行う。

学習の到達目標 外部寄生虫及び内部寄生虫による感染症の発生機序を理解することにより、それらの予防方法及び治療方法を自ら考える能力を修得する。

受講要件

教科書

図説人体寄生虫学 (第7版) 吉田幸雄著 南山堂 2006
標準医動物学 (第2版) 石井明・鎮西康雄・太田伸生編著 医学書院 2003
New寄生虫病学 小島莊明編 南江堂 1993
エマージングデイズ 竹田美文・五十嵐章・小島莊明編著 1999

成績評価方法と基準 ペーパーテストに、出席、実習レポートを加味して行う。ペーパーテストは各教員が担当した講義内容の範囲から別々に出題し、それを合計する。尚、実習に全て出席していなければテストは採点されない。

授業計画・学習の内容

学習内容

日程表

平成27年度 医動物学 講義/実習 日程表 (第2学年)

月日(平成28年) 時 限 担 当 講 義 実 習

1月12日 (火) 5,6 安藤 総論

// 7,8 安藤 線虫学①

1月14日 (木) 1,2 安藤 線虫学②

// 3,4 安藤 線虫学③

1月20日 (水) 5,6 安藤 線虫学④

// 7,8 安藤 線虫学⑤

1月21日 (木) 1,2 岩永 病害動物学①

// 3,4 岩永 病害動物学②

1月22日 (金) 5-10 全教員 線虫学実習

1月27日 (水) 5,6 伊澤 病害動物学③

// 7,8 伊澤 病害動物学④

1月28日 (木) 1,2 油田 原虫学①

// 3,4 油田 原虫学②

1月29日 (金) 5,6 前川 原虫学③

// 7,8 前川 原虫学④

2月3日 (水) 5,6 油田 原虫学⑤

// 7,8 油田 原虫学⑥

2月4日 (木) 1,2 岩永 吸虫学①

// 3,4 岩永 吸虫学②

2月5日 (金) 5-10 全教員 原虫学実習

2月10日 (水) 1,2 岩永 条虫学①

// 3,4 岩永 条虫学②

2月12日 (金) 5-10 全教員 吸虫・条虫学実習

2月29日 (月) 5-8 医動物学本試験

3月17日 (木) 5-8 医動物学再試験

学期 前期前半 **開講時間** 火 3, 4; 水 3, 4, 5, 6; 金 3, 4 **単位** 「社会と医学」として3 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必修** 必修

授業の方法 講義, 実習 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 村田 真理子 (医学部医学科)、及川 伸二 (医学部医学科)、平工 雄介 (医学部医学科)、非常勤講師 (川西正祐教授、小泉昭夫教授、酒井敏行教授、廣澤巖夫教授、井上純子准教授)

授業の概要 衛生とは「生を衛る」ことを意味し、衛生学は生命および生活を守り、Quality of Life を向上させることを目的とする。衛生学は環境科学と生命科学を含む学際的な学問領域であり、環境保全および疾病予防、健康増進、寿命延長を目指す。要因と宿主との相互作用を理解し、予防医学的見地を踏まえた環境医学および健康科学を学ぶ。

学習の到達目標 医学・医療の科学性と倫理性を学ぶとともに、社会制度と保健・医療に関する法について理解することを目標とする。

教科書 国民衛生の動向, 厚生統計協会.

成績評価方法と基準 ペーパーテストは各教員が担当した講義内容の範囲から別々に出題し、それを合計して100%とする。

授業計画・学習の内容

学習内容

衛生学総論：地球環境汚染による健康への影響を理解し、健康リスクアセスメントができるようになる。

労働と人間工学—騒音・振動を中心に—：振動騒音による健康への影響、産業現場における環境測定、健康障害の把握と被害防止について理解する。

環境衛生：ヒトと環境との相互作用による健康影響について、個人衛生環境を中心に学ぶ。

重金属、微量元素：金属中毒の歴史、現状、職業病と公害病の類似点と相違点、好発部位、金属中毒(鉛中毒、金属発がん、金属アレルギーなど)の機構について学び、産業現場における健康障害の状況と被害防止について理解する。

癌の分子標的予防医学：がんの遺伝子調節化学予防と分子標的療法について学ぶ。

職業がん：化学物質の毒性作用とその発現機構、特に職業癌について学び、環境毒性学の基礎を習得することにより、産業中毒に

ついて理解する。

学校保健：学校保健の意義を知り、学校保健行政および学校医の役割について理解する。

環境発がん：環境化学物質や生活習慣とがんの関係について学び、発がん機構について理解する。

食品保健：食生活と健康について理解し、栄養摂取と疾病・健康増進との関係を学ぶ。

環境保全：ダイオキシンをはじめとする地球環境汚染による諸問題および日本の公害問題についてその対策も含めて理解する。

食とがん予防：食による発がんとその機構について学ぶと共に、食事による積極的な癌予防について考える。

遺伝疫学入門：分子生物学的手法を取り入れた予防医学的アプローチについて学ぶ。

試験

衛生学実習：温熱条件の測定、照度および騒音の測定、室内空気環境中の汚染物質の測定

公衆衛生学

Public Health

学期 前期 **開講時間** 水 9, 10; 木 1, 2, 3, 4 **単位** 3 **対象** 医学部医学科・社会と医学・（「プレチュートリアル：社会と医学」のほか、1年次の医学概論、4年次のチュートリアル講義、6年次の社会医学集中講義を含む） **年次** 学部(学士課程): 3年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 実習

担当教員 ○そうけ島茂（医学研究科），村田真理子（医学研究科），那谷雅之（医学研究科），高木二郎（医学研究科），田島和雄（医学部附属病院），山崎亨（医学部附属病院），秋葉澄伯（非常勤講師），玉腰暁子（非常勤講師），高橋邦彦（非常勤講師），庵原俊昭（非常勤講師），飛田英祐（非常勤講師），圓藤吟史（非常勤講師），山口直人（非常勤講師）

授業の概要

疫学epidemiologyは、疾病の予防や診療に役立つ要因を、人間集団において探索、分析、そして検証するための科学である。そのような研究によって明らかにされたことを、他の諸科学と連携して健康な社会の実現を総合的な視点から考究・実践するのが公衆衛生学public health medicineである。本講座の教育では、ほかの社会医学講座と協力しながら、学生の皆さんが社会と医学・医療の関係を理解することを目標とする。

本講義では、公衆衛生学の中心的方法論である疫学を中心とした講義を通じ、研究デザインや疫学的指標の解釈等の基本となる知識を習得する。また、公衆衛生の第一線で活躍している非常勤講師を主体に、各分野（産業保健、母子保健、高齢者保健、医療経済、疫学の専門領域等）の各論に関する講義を行う。

講義と並行して、公衆衛生学の中心的方法論の両輪の一方である統計学実習を行う。統計パッケージ（SAS）を使用した実習を通じて、記述的な方法、各種検定方法から多変量解析による調整の理解を目指す。

学習の到達目標

- 1) 公衆衛生学/疫学の定義を理解する（Winslow/Last）。
- 2) 地域保健・産業保健の現状と課題について理解する。
- 3) 現代の公衆衛生学・疫学の問題点の指摘と解決方法を考察する

ことができる。

- 4) 疫学・臨床疫学上の諸指標を理解し実際に求めることができる
- 5) 疫学研究のデザインについて理解する。
- 6) 交絡の調整やバイアスの回避方法を理解している。
- 7) 主要疾患の疫学の現状を述べるができる。
- 8) 統計学的な推測・検定・解析方法の基礎を理解する。

発展科目 公衆衛生・産業医学分野と医学部附属病院疫学センターが実施する大学院セミナーにも積極的な参加を希望します。セミナー日程は随時案内します。

教科書

- 1) Leon Gordis（著）木原正博（訳）疫学—医学的研究と実践のサイエンス—、メディカルサイエンスインターナショナル
- 2) Roger Detels et al: Oxford text book of Public Health.5th ed., Oxford University Press, 2009
- 3) 国民衛生の動向、厚生労働統計協会（毎年刊）
- 4) 和田攻監修、産業保健マニュアル6版、南山堂

以上は推薦図書である。各講義で薦められる図書・論文も参考にすること。

成績評価方法と基準 出席、小テスト、実習レポート、期末試験などを総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

社会医学1: 4月16日(木) 1・2, 笠島茂, 「公衆衛生学入門」
社会医学2: 4月16日(木) 3・4, 田島和雄, 「がんの疫学1」
社会医学3: 4月23日(木) 1・2, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学1」
社会医学4: 4月23日(木) 3・4, 秋葉澄伯, 「放射線影響の疫学と公衆衛生」
社会医学5: 5月7日(木) 1・2, 玉腰暁子, 「大規模コホート研究」
社会医学6: 5月7日(木) 3・4, 高木二郎, 「産業医学1」
社会医学7: 5月13日(水) 9・10, 高橋邦彦・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習1」
社会医学8: 5月20日(水) 9・10, 高橋邦彦・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習2」
社会医学9: 5月21日(木) 1・2, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学2」
社会医学10: 5月21日(木) 3・4, 庵原俊昭, 「予防接種」
社会医学11: 5月27日(水) 9・10, 飛田英祐・高木二郎・山崎亨, 「疫

学・統計実習3」

社会医学12: 5月28日(木) 1・2, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学3」
社会医学13: 5月28日(木) 3・4, 圓藤吟史, 「産業医学2」
社会医学14: 6月3日(水) 9・10, 飛田英祐・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習4」
社会医学15: 6月4日(木) 1・2, 村田真理子, 「分子疫学」
社会医学16: 6月4日(木) 3・4, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学4」
社会医学17: 6月10日(水) 9・10, 高橋邦彦・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習5」
社会医学18: 6月11日(木) 1・2, 山口直人, 「電磁界疫学とリスクコミュニケーション」
社会医学19: 6月11日(木) 3・4, 田島和雄, 「がんの疫学2」
（社会医学20: 6月18日(木) 1・2, 那谷雅之, 「法医・法科学」 大学院生のみ対象）

学期 スケジュール表による **単位** 「社会と医学」として3 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義
担当教員 那谷 雅之（大学院医学系研究科）、小澤 周二（大学院医学系研究科）

授業の概要

人間の生命、健康に対する外的な侵襲があった際に、法的責任の所在を明らかにするために医学的判断が求められる。その目的で生まれた「法医学」は法の場合だけでなく、実際の医療の現場において必要な学問であり、将来医師になろうとするものは法医学的知識を習得し、法医学的な思考方法について理解しておく必要がある。

医療現場において、医師が最も遭遇する法医学的問題は、「死体検案書」の作成であろう。ある人の死について死因の決定、死因の種類の決定、死亡時間の推定、死を招いた因果関係の解明などが短時間のうちに求められる。この「死体検案書」は医師のみが作成することのできる書類であり、正しい知識と対応が求められる。この他に、医療関連死、労働災害の認定、中毒の発見・防止、被虐待児への対応、親子鑑定、個人識別など法医学が関与する問題は多々ある。

このような観点から、プレチュートリアルにおいて臨床医が必要とされる法医学的事項を中心に「社会と医学」として行う。なお、3

年以上の医学部学生の希望者に対して法医解剖の見学を随時行う（解剖で見聞したことを決して口外することのないよう注意していただきたい）。希望者は大阪府監察医事務所の見学・実習が可能であるので希望者は申し出ること。

学習の到達目標

臨床医として知るべき法医学に関する基本的知識を習得する。
 死体検案書が正確に作成できる。
 異状死体の届け出について正しい知識がある。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 医学部講義全般

教科書 プリント配布。

成績評価方法と基準 期末試験のみ。

授業計画・学習の内容

学習内容

- ① 法医学総論：法医学とは？医師と法律、「死」の社会的意義
- ② 死体現象：早期死体現象と晩期死体現象
- ③ 損傷論：鋭器、鈍器損傷、頭部外傷、交通外傷など
- ④ 窒息論：頸部圧迫、溺水、酸欠など
- ⑤ 異常環境による死：焼死、感電など
- ⑥ 小児に関する法医学：嬰兒殺、被虐待児、乳幼児突然死

- ⑦ 内因性急死：諸種内因性急死とその取り扱い上の問題
- ⑧ 親子鑑定、個人識別：DNA多型、血液型
- ⑨ 法医学中毒学：薬毒物の作用機序、死体所見、分析、中毒が疑われる際の臨床医の対応
- ⑩ 法医歯科学
- ⑪ 医療関連死、医療過誤
- ⑫ 死体検案書作成

環境生命科学

Environmental and Life Science

学期 後期 開講時間 木9, 10 単位 1 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択 授業の方法 講義

他研究科の学生の受講可 他専攻の学生の受講可

担当教員 村田真理子、及川伸二、平工雄介、栗冠和郎（非常勤）、

授業の概要 本授業科目では、地球レベルの環境変化などの様々な要因が、ヒト集団に与える影響（遺伝毒性、生殖毒性、個体発生毒性、老化等）および生態系に及ぼす影響について学び、分子疫学および生物資源学からの視点からの解析方法を理解し、その医学的意義などを学ぶ。

学習の到達目標 環境要因と宿主（ヒト）との相互作用を理解し、予防医学的見地を踏まえた環境医学および健康科学を学ぶ。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 特に指定しない。

成績評価方法と基準 レポート（最終講義にレポートの課題名と提出日を発表）

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 10月8日 木9・10限 環境分子医学 及川伸二 環境生命科学総論
2. 10月22日 木9・10限 環境分子医学 栗冠和郎（非常勤）微生物と分子生態学
3. 10月29日 木9・10限 環境分子医学 栗冠和郎（非常勤）地球温暖化と微生物

4. 11月5日 木9・10限 環境分子医学 栗冠和郎（非常勤）バイオエネルギーと微生物
5. 11月12日 木9・10限 環境分子医学 村田真理子 環境ホルモン
6. 11月19日 木9・10限 環境分子医学 及川伸二 老化とその制御
7. 11月26日 木9・10限 環境分子医学 平工雄介 環境発がん
8. 12月3日 木9・10限 環境分子医学 平工雄介 炎症とがん

臨床薬理・薬剤学

Clinical Pharmacy and Pharmacology

学期 後期 開講時間 木 11, 12 単位 2 対象 医学系研究科医科学専攻 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選択/必修 選択

授業の方法 講義 他研究科の学生の受講可 他専攻の学生の受講可

担当教員 奥田真弘 (医学系研究科臨床薬理学), 丸山一男 (医学系研究科麻酔集中治療学), 片山直之 (医学系研究科血液・腫瘍内科学), 竹内万彦 (医学系研究科耳鼻咽喉・頭頸部外科学), 西川政勝 (医学部附属病院臨床研究開発センター), 白木克哉 (医学系研究科消化器内科学), 岩本卓也 (医学系研究科臨床薬理学), 伊藤善規 (岐阜大学医学部附属病院薬剤部), 田辺正樹 (医学部附属病院医療安全・感染管理部), 矢野裕 (医学系研究科代謝内分泌内科学), 藤井英太郎 (医学系研究科循環器・腎臓内科学)

授業の概要 医薬品適正使用並びに創薬開発に不可欠な薬物体内動態と臨床試験の概要、並びに疾患領域別の薬物治療の現状と動向について理解する。

学習の到達目標

1. 医療において薬の果たす役割と安全に使用するための注意点を説明できる。
2. 臨床薬物速度論の概念を説明できる。
3. 薬物体内動態の概念とその制御因子について説明できる。
4. 腎疾患や肝疾患時の薬物体内動態変動について説明できる。
5. オーダーメイド医療における薬物血中濃度モニタリングの応用について説明できる。
6. 副作用の概要について説明できる。
7. 医薬品開発における臨床試験の役割と進め方について説明できる。
8. 種々の疾患時の薬物治療 (固形腫瘍、造血器腫瘍、精神疾患、循環器疾患、疼痛緩和、糖尿病、血栓) の概要について説明できる。

授業計画・学習の内容

学習内容

月 日 曜日 時限 講座名 担当教員名 講義題目
10月8日 木 11・12 臨床薬理学 奥田真弘 総論
10月22日 木 11・12 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹内万彦 耳鼻咽喉科の薬物療法
10月29日 木 11・12 臨床薬理学 奥田真弘 薬物体内動態と代謝酵素・トランスポータ
11月5日 木 11・12 臨床薬理学 奥田真弘 病態時の薬物体内動態
11月12日 木 11・12 臨床研究開発センター 西川政勝 医薬品開発と臨床試験
11月19日 木 11・12 岐阜大学医学部附属病院薬剤部 伊藤善規 医薬品の開発から適正使用まで
11月26日 木 11・12 臨床薬理学 奥田真弘 臨床薬物速度論

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書

加藤隆一、鎌滝哲也編、薬物代謝学 (第3版) — 医療薬学・医薬品開発の基礎として —、東京化学同人、2010
佐藤哲男、仮家公夫、北田光一編、医薬品トキシコロジー (改訂第4版)、南江堂、2010
林 正弘、谷川原祐介編、生物薬剤学改訂第2版、南江堂、2007
日本臨床薬理学会編、臨床薬理学 (第3版)、医学書院、2011
加藤隆一、臨床薬物動態学 (改訂第4版)、南江堂、2009
緒方宏泰編著、医薬品開発における臨床薬物動態試験の理論と実践、丸善、2004
乾賢一、奥村勝彦、堀了平監修、医療薬学第5版、廣川書店、2009

成績評価方法と基準 出席50%、レポート50%、計100%。

12月3日 木 11・12 臨床薬理学 奥田真弘 薬物動態情報の医薬品開発と治療への応用
12月10日 木 11・12 消化器内科学 白木克哉 肝疾患の薬物療法
12月17日 木 11・12 循環器・腎臓内科学 藤井英太郎 最新の循環器疾患の治療 - 心房細動と抗凝固療法 -
12月24日 木 11・12 医療安全・感染管理部 田辺正樹 感染症診療における抗菌薬の適正使用
1月7日 木 11・12 麻酔集中治療学 丸山一男 疼痛緩和の臨床薬理
1月14日 木 9・10 血液・腫瘍内科学 片山直之 造血器腫瘍の薬物療法
1月21日 木 11・12 代謝内分泌内科学 矢野裕 糖尿病の薬物療法
1月28日 木 11・12 臨床薬理学 岩本卓也 薬物の毒性・副作用

バイオメディカル経営学Ⅰ

Bio Medical Business Management I

学期 前期 単位 1 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業 他研究科の学生の受講可 他専攻の学生の受講可
担当教員 西村 訓弘(医学系研究科)

授業の概要 大学で得られた研究成果を産業界に橋渡しする一手法として研究成果をもとにした事業化がある。本講義では、医学・生物学領域で得られた先端技術・知見をもとにしたビジネス構築について実例を題材とした考察を行う。事例としては、欧米におけるビジネスの最前線で起こっていること、また、食・エネルギーの分野など、新領域への展開などを取り上げ、バイオメディカル・ビジネスの実際を紹介する。尚、ビジネス界で活躍する人材に必要な基礎知識として、技術開発マネジメント、特許戦略、資本政策、事業構築などの具体的項目についても教示する。

学習の到達目標 バイオ・メディカル分野のビジネスの最近の動向とビジネス構築に必要な基礎知識を習得させると共に、新規事業を企画、マネージメントするために必要な知識と心構えを習得させる。

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 バイオビジネス概論（本講義のガイダンス）
第2回 産業人としての基礎知識
第3回 バイオメディカル・ビジネス創業の実際
第4回 企業経営のための基礎知識
第5回 バイオ・ビジネスの実際1：創業ビジネスにおける新たな潮流①

受講要件 開放講義として実施するので、興味のある学生はどの学部、研究科からでも聴講可能。バイオ・メディカル創業プログラムに参加する学生は履修を義務とする。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目

バイオメディカル経営学Ⅱ
バイオメディカル経営学実習

教科書 パワーポイントで作成した資料を利用する。パワーポイント資料の印刷物については各授業において配布する。

成績評価方法と基準 レポートによる評価を行う。

第6回 バイオ・ビジネスの実際2：創業ビジネスにおける新たな潮流②
第7回 バイオ・ビジネスの実際3：医学的エビデンスを基にした新ビジネス
第8回 バイオ・ビジネスの実際4：農業分野における新たなビジネスの潮流

バイオメディカル経営学Ⅱ

Bio Medical Business Management II

学期 後期 **単位** 1 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **他研究科の学生の受講可** **他専攻の学生の受講可**
担当教員 西村 訓弘 (医学系研究科)

授業の概要 本講義では、受講者を複数のグループに分け、それぞれのグループにおいてバイオ産業分野での新たなビジネスを構想し、その実現に向けたビジネス・プランを作成することを実践する。グループにおいて立案したビジネス・モデルを発表し、受講生の間で内容についてのディスカッションを行うことで、考え方を高める取り組みを行う。

学習の到達目標 社会人として生きていくための心構えと意識付けを行う。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 バイオメディカル経営学I

発展科目 バイオメディカル経営学実習

教科書 特になし。

成績評価方法と基準 レポートによる評価。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 本講義に関するガイダンスとグループ分け
2. 各グループからのビジネスモデル発表と討議（プロジェクト案の立て方について）
3. 各グループからのビジネスモデル発表と討議（プロジェクト案をブラッシュアップする方法について）
4. 各グループからのビジネスモデル発表と討議（プロジェクトを取り巻く世界観の考え方について）

5. 各グループからのビジネスモデル発表と討議（プロジェクトの比較位置の認識と目指すべき方向性の整理の仕方について）
6. 各グループからのビジネスモデル発表と討議（より説得力のあるプレゼンについて）
7. 各グループからのビジネスモデル発表と討議（ビジネスプランを高める考え方について）
8. 各グループからのビジネスモデル発表（総括）

バイオメディカル経営学実習

Practice of Bio Medical Business Management

学期 後期 単位 1 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択 授業の方法 実習 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業 他研究科の学生の受講可 他専攻の学生の受講可
担当教員 西村 訓弘 (医学系研究科)

授業の概要 本実習では、バイオ・メディカル関連技術・製品への理解と企業における製品開発・マーケティングを経験させることを目的に企業、公的研究機関、医療機関などを訪問し、そこで働く方々との意見交換を行うことを通して、ビジネスの第一線の雰囲気を感じてもらうことを目的とする。本実習の履修にはバイオメディカル経営学Ⅰを履修することが望ましく、バイオメディカル経営学Ⅰで興味を持った機関・分野を中心に訪問先と日程、訪問目的を選択して実施する予定である。

学習の到達目標 バイオ・メディカル関連の企業を訪問し、企業で働く方々とのディスカッションを行うことで、将来、社会人として

生きていくための心構えと意識付けを行う。

受講要件 学外の企業を訪問するため学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

予め履修が望ましい科目 バイオメディカル経営学Ⅰ

発展科目 バイオメディカル経営学Ⅱ

教科書 特になし。

成績評価方法と基準 レポートによる評価。

授業計画・学習の内容

学習内容 バイオメディカル現場における実習（研修先、日程はめる）
バイオメディカル経営学Ⅰでの履修内容を題材に個別に相談して決

病理・病態学

Pathology and Pathophysiology

学期 後期 開講時間 月 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 他専攻の学生の受講可
担当教員 吉田 利通、今中 恭子、橋詰令太郎（修復再生病理学）
白石 泰三、広川 佳史（腫瘍病理学）

授業の概要

病理・病態学は病気の生物学を学ぶ科目です。さまざまな病気を共通した基本的な現象として捉え、遺伝子・分子・細胞・組織・個体の各レベルから、病気や病態を考えるための基本を学んでください。

教科書は、Kumar, Cotran, Robbins: Basic Pathology (8th ed., 訳本7版あり) に沿って行います。

プリントを配布しますので、必ずしも本は必要ありません。

学習の到達目標 病気のメカニズムを、遺伝子から個体までのさまざまなレベルと多方面の視点から考えられるようになる。

受講要件 なし

教科書 上記。

成績評価方法と基準 レポート100%

授業計画・学習の内容

学習内容

10月5日 月 11・12 修復再生病理学 吉田利通 細胞の損傷・細胞死と細胞の適応
10月15日 水 11・12 修復再生病理学 吉田利通 急性及び慢性炎症の分子メカニズムと組織変化1
10月19日 月 11・12 修復再生病理学 吉田利通 急性及び慢性炎症の分子メカニズムと組織変化2
10月26日 月 11・12 修復再生病理学 橋詰令太郎 細胞・組織の修復機構
11月2日 月 11・12 修復再生病理学 今中恭子 血液と血行状態の異常

11月9日 月 11・12 修復再生病理学 今中恭子 血液と血行状態の異常
11月16日 月 11・12 修復再生病理学 橋詰令太郎 免疫系の異常
11月30日 月 11・12 腫瘍病理学 白石泰三 腫瘍病理学1
12月7日 月 11・12 腫瘍病理学 白石泰三 腫瘍病理学2
12月14日 月 11・12 腫瘍病理学 白石泰三 腫瘍病理学3
12月21日 月 11・12 腫瘍病理学 白石泰三 腫瘍学の臨床的側面
1月18日 月 11・12 腫瘍病理学 広川佳史 遺伝性疾患1
1月25日 月 11・12 腫瘍病理学 広川佳史 遺伝性疾患2
2月1日 月 11・12 腫瘍病理学 広川佳史 感染症の病理学1
2月8日 月 11・12 腫瘍病理学 広川佳史 感染症の病理学2

オミックス創薬科学

Omics Drug Discovery Science

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 1 選/必 選択 授業の方法 講義 他研究科の学生の受講可 他専攻の学生の受講可

担当教員 田中（薬理ゲノミクス）、村上（非）、水谷（皮膚医学）、珠玖（がんワクチン治療学）、池田（遺伝子・免疫細胞治療学）、西村（トランスレーショナル医科学）、丸山（非）

授業の概要 21世紀において、国際的にも真にポストゲノムシーケンス時代に突入した。必然的に「生命現象をシステムとして理解する」システムバイオロジーが、世界中で勃興し、数多くの研究センターなどが欧米を中心に設立されている。その結果、世界中がシステムバイオロジーを核にした新しい生命科学の構築に集中している。しかしながらここで注目すべき点は、米国では早くも2002年5月からNIH Roadmap for Medical Researchを検討しており、ポストゲノムシーケンス時代の研究プロジェクトとして低分子化合物によるケモゲノミクスと分子イメージングプローブ開発に焦点をあて、ヒトゲノムプロジェクトの出口として創薬基盤構築を明確に宣言し急激に展開している。そこで、今回このような国際的動向を考慮して、具体的な医薬品の作用機構における薬理ゲノミクスネットワーク解析を試みる。この薬理ゲノミクスネットワーク解析は、医薬品の疾患に対する選択的作用機構を解明するだけでなく、薬物治療のゲノムの分子実体を描き出す。

すなわち、有史以来初めて、治療と何かという薬理学の根源的問いに対して、分子基盤をもつ解を提案することになる。そこで、具体的にその研究開発事例を中心に、解説する。

学習の到達目標

- 1) オミックス創薬科学概論を述べることができる。
- 2) オミックス創薬科学の基盤技術を説明できる。
- 3) オミックス創薬科学の具体例を説明できる。

発展科目 システムズ薬理学

教科書 先端バイオ研究の進め方（羊土社）、ゲノム機能ハンドブック（羊土社）

成績評価方法と基準

小テスト10%、レポート20%、期末試験70%、計100%
ただし、出席などの学習態度も考慮する。

授業計画・学習の内容

学習内容

薬理ゲノミクス 担当：田中利男

「オミックス創薬科学入門」

「オミックス創薬科学の展開」

構造ゲノム科学部門 担当：村上康文（非）

「トランスクリプトーム解析の現状と展望」

皮膚医学 担当：水谷仁

「皮膚を場としたゲノム医療」

がんワクチン治療学 担当：珠玖洋

「がん免疫療法-第4のがん治療？-」

遺伝子・免疫細胞治療学 担当：池田裕明

「実用化されるがん免疫療法」

トランスレーショナル医科学 担当：西村訓弘

「オミックステクノロジー入門 バイオインフォマティクスを活用した遺伝子研究の実例」

小野薬品工業 担当：丸山隆幸

「プロスタグランジン研究の最近の話題」

基礎生体科学

Basic organism science

学期 その他(学習要項・履修要項等を参照してください) **単位** 1 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択

授業の方法 講義 **他研究科の学生の受講可** **他専攻の学生の受講可**

担当教員 野阪 哲哉 (感染症制御医学・分子遺伝学) 他

授業の概要 感染症制御医学・分子遺伝学のJournal clubに出席し、最新の医学研究を学ぶ。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

学習の到達目標 医学科卒業の学生と同程度の生化学・分子生物学の基礎知識の習得を目標とする。

教科書 特になし

成績評価方法と基準 毎回の出席状況と発言(質問)内容

授業計画・学習の内容

学習内容 感染症制御医学・分子遺伝学のjournal clubに8回出席し、最新の実験医学を学ぶ。内容は最新の学術論文の紹介。Na-

ture, Science, Cell, J Virol, Bloodなど。

人体形態学実習

Anatomy

開講時間 木 7, 8, 9, 10 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **授業の方法** 実習
担当教員 成田正明

授業の概要 教科書では学べない解剖学を、主に見学を通して履修する。生命の尊厳を考える。

受講要件 献体されたことについて正しい理解の上、入室する

成績評価方法と基準 出席、レポート

授業計画・学習の内容 _____

臨床医学概論

Introduction of Clinical Medicine

学期 後期 開講時間 火 11, 12; 木 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 必修 授業の方法 講義

他研究科の学生の受講可

担当教員 中瀬 一則(血液・腫瘍内科学)、土肥 薫(循環器内科学)、矢野 裕(代謝内分泌内科学)、毛利 靖彦(消化管・小児外科学)、成田 有吾(神経病態内科学)、島本 亮(胸部心臓血管外科学)、伊佐地秀司(肝胆膵・移植外科学)、出口 隆生(小児科学)、和田 英夫(検査医学)、松峯 昭彦(運動器外科学)、神元 有紀(産婦人科学)、横地 歩(麻酔集中治療学)、生杉 謙吾(眼科学)、岡田 元宏(精神神経科学)、小林 正佳(耳鼻咽喉・頭頸部外科学)、鈴木 秀謙(脳神経外科学)、新井 直也(口腔・顎顔面外科学)、水谷 仁(皮膚科学)、佐久間 肇(放射線医学)、杉村 芳樹(腎泌尿器外科学)

授業の概要 臨床講座の各科における専門疾患の診断と治療の概要を講義するとともに、最新の情報と将来への展望について概説する。

学習の到達目標 臨床医学の理解を深める

成績評価方法と基準 出席状況(レポート提出の場合あり)

授業計画・学習の内容

学習内容

10月6日 火 11・12 血液・腫瘍内科学 中瀬 一則 先生 血液疾患に合併する感染症
10月8日 木 1・2 循環器内科学 土肥 薫 先生 最新の循環器内科治療
10月13日 火 11・12 代謝内分泌内科学 矢野 裕 先生 糖尿病の成因と病理生理
10月20日 火 11・12 消化管・小児外科学 毛利 靖彦 先生 消化器外科最前線
10月22日 木 1・2 神経病態内科学 成田 有吾 先生 神経内科領域の疾患および老年医学
10月27日 火 11・12 胸部心臓血管外科学 島本 亮 先生 肺癌の診断と治療
10月29日 木 1・2 肝胆膵・移植外科学 伊佐地秀司 先生 肝胆膵外科の最新治療
11月5日 木 1・2 小児科学 出口 隆生 先生 小児白血病診療の現状と課題

11月10日 火 11・12 検査医学 和田 英夫 先生 血栓症の診断と治療
11月12日 木 1・2 運動器外科学 松峯 昭彦 先生 骨・軟部腫瘍の診断と治療
11月17日 火 11・12 産婦人科学 神元 有紀 先生 糖尿病による先天奇形の発生機序
11月19日 木 1・2 麻酔集中治療学 横地 歩 先生 救急蘇生法
11月24日 火 11・12 眼科学 生杉 謙吾 先生 眼の老化と治療
11月26日 木 1・2 精神神経科学 岡田 元宏 先生 精神障害とは？
12月1日 火 11・12 耳鼻咽喉・頭頸部外科学 小林 正佳 先生 嗅覚障害の診断と治療法～現状と未来に向けた研究
12月3日 木 1・2 脳神経外科学 鈴木 秀謙 先生 脳神経外科学概論
12月8日 火 11・12 口腔・顎顔面外科学 新井 直也 先生 口腔・顎顔面外科学概論
12月10日 水 1・2 皮膚科学 水谷 仁 先生 皮膚と環境
12月15日 火 11・12 放射線医学 佐久間 肇 先生 画像診断学概論
12月17日 木 1・2 腎泌尿器外科学 杉村 芳樹 先生 泌尿器科学概論

生命科学特論

Human Life Science

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択 授業の方法 講義

他研究科の学生の受講可 他専攻の学生の受講可

担当教員 ○平山雅浩、出口隆生、井戸正流（非常勤）、伊藤正寛（非常勤）、豊田秀実、三谷義英、藤澤隆夫（非常勤）、岩本彰太郎、○山田芳司、田中雅嗣（非常勤）、加藤公彦（非常勤）、西田有

授業の概要 生命科学、分子生物学、分子疫学、ゲノム疫学の最先端の研究について講義を行う。

学習の到達目標 生命科学、分子生物学、ゲノム医学の最先端領域の研究を理解する。

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 2年次の研究領域選択の参考にする。

教科書 各講義担当教官が指示する。

成績評価方法と基準 全講義終了時のレポートにて評価する。レポート課題が、改めて指示する。

授業計画・学習の内容

学習内容

生命科学特論 14月13日 月 1・2 小児科学 井戸 正流（非常勤） がんの細胞内シグナル伝達機構
生命科学特論 24月20日 月 1・2 小児科学 三谷 義英 小児血管医学：肺高血圧を中心に
生命科学特論 34月28日 火 1・2 小児科学 藤澤 隆夫(非常勤) アレルギ－疾患の免疫療法
生命科学特論 45月11日 月 1・2 小児科学 岩本 彰太郎 急性白血球病細胞の薬剤耐性獲得機構における骨髓間質細胞の役割
生命科学特論 55月20日 水 5.6 小児科学 平山 雅浩 免疫系におけるNK細胞の役割
生命科学特論 65月25日 月 1・2 小児科学 伊藤 正寛（非常勤） パンデミックインフルエンザAについて
生命科学特論 76月1日 月 1・2 小児科学 出口 隆生 小児白血病細胞におけるアポトーシス分子機構
生命科学特論 86月8日 月 1・2 小児科学 豊田 秀実 ウイルスを用い

た癌の新しい治療法

生命科学特論 96月15日 月 1・2 遺伝子病態制御学 山田 芳司 生活習慣病のゲノム疫学研究とPredictive, Preventive, and Personalized Medicine

生命科学特論 106月22日 月 1・2 遺伝子病態制御学 西田 有 タンパク質の翻訳後修飾による生命機能の制御(1)

生命科学特論 116月29日 月 1・2 遺伝子病態制御学 加藤 公彦 心血管疾患の疾患感受性遺伝子研究

生命科学特論 127月6日 月 1・2 遺伝子病態制御学 田中 雅嗣 ミトコンドリア病の診断法と治療薬の開発

生命科学特論 137月13日 月 1・2 遺伝子病態制御学 西田 有 タンパク質の翻訳後修飾による生命機能の制御(2)

生命科学特論 147月23日 木 1・2 遺伝子病態制御学 西田 有 タンパク質の翻訳後修飾による生命機能の制御(3)

生命科学特論 157月27日 月 1・2 遺伝子病態制御学 西田 有 タンパク質の翻訳後修飾による生命機能の制御(4)

分子医科学

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択 授業の方法 講義

他専攻の学生の受講可

担当教員 緒方正人 (機能プロテオミクス), 島岡 要(分子病態), 白石泰三(病理学第二), 油田正夫(医動物学), 和田英夫(検査医学), 及川伸二/及川 (多田) 佐枝子(衛生学), 市原佐保子(遺伝子病態制御学), 矢野 裕(糖尿病内分泌内科), 藤原武志(解剖学第一), 中谷 中(臨床検査医学), 佐々木良元(神経内科), 大隈貞嗣(機能プロテオミクス)

授業の概要 講義

教科書 教科書はありません

学習の到達目標 分子生物学、細胞生物学の基礎、病態の分子機構についての基礎

成績評価方法と基準 出席点、場合によってレポートを課す場合がある。

授業計画・学習の内容

学習内容

10月6日 火 1・2 機能プロテオミクス 緒方正人 (教授) 遺伝子機能の研究1
10月13日 火 1・2 分子病態学 島岡 要 (教授) 遺伝子機能研究のための戦略的思考法 (基礎)
10月20日 火 1・2 分子病態学 島岡 要 (教授) 遺伝子機能研究のための戦略的思考法 (応用)
10月27日 火 1・2 分子病態学 島岡 要 (教授) 遺伝子機能研究のための戦略的思考法 (演習)
11月10日 火 1・2 機能プロテオミクス 緒方正人 (教授) 遺伝子機能の研究2
11月17日 火 1・2 医動物・感染医学 油田正夫 (教授) 遺伝子の発現調節機構
11月24日 火 1・2 環境分子医学 及川准教授 (及川 (多田) 先生) 細胞死の分子機構と発がん
12月1日 火 1・2 神経再生医学・細胞情報学 藤原武志 (准教授) 細

胞の増殖と分化
12月8日 火 1・2 機能プロテオミクス 大隈貞嗣 (助教) 老化の生物学と医療
12月15日 火 1・2 中央検査部 中谷 中 (講師) 遺伝性疾患の遺伝子解析
12月22日 火 1・2 腫瘍病態解明学 白石泰三 (教授) 遺伝子と疾患
1. 腫瘍
1月5日 火 1・2 遺伝子病態制御学 市原佐保子 (准教授) 遺伝子と疾患2. 循環器疾患
1月19日 火 1・2 検査医学 和田英夫 (准教授) 遺伝子と疾患3. 血栓性疾患
1月26日 火 11・12 糖尿病内分泌内科 矢野 裕 (准教授) 遺伝子と疾患4. 糖尿病・生活習慣病
2月2日 火 1・2 神経内科 佐々木良元 (助教) 遺伝子と疾患5. 脳・神経疾患

免疫学

Immunology

学期 前期 開講時間 火 9, 10; 金 9, 10 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 授業の方法 講義, 実習

他専攻の学生の受講可

担当教員 ○ガバザ・エステバン(免疫学), 戸田雅昭(免疫学)

授業の概要 免疫とは生体内に侵入する異物または細菌、真菌、原虫、ウイルスなどの病原微生物に対する認識・防御機構である。この防御機構が外来微生物抗原を排除することによりヒトの健康を保持する。しかし、免疫機構は外来抗原に対して過剰に反応すると過敏症やアレルギー疾患をきたし、また、自分の体内成分に病的に反応すると自己免疫疾患を引き起こすこともある。生体防御の教育では今までに解明された基本的免疫学を理解し、病気の予防を含む健康の保持に果たす免疫反応の役割を理解するとともに、免疫反応と病気との関連について広く学ぶことを目的としている。一方、免疫機構の失調であるアレルギー、自己免疫疾患、移植拒絶反応の発症機序について未だにわからない点が多いことから免疫学の分野ではやらなければならない研究はまだ沢山残されている。

学習の到達目標

- 1) 生体防御に関わる細胞の種類と組織を説明できる
- 2) 自然免疫と適応免疫の違いを説明できる
- 3) 細菌、真菌、ウイルス、寄生虫の形態学的特徴を説明できる
- 4) 免疫・アレルギー疾患の発症機序を説明できる
- 5) 細菌、真菌、ウイルス、寄生虫に対する免疫反応の特徴を概説できる
- 6) 細胞性免疫と体液性免疫の違いを説明できる
- 7) 免疫・アレルギー疾患に関わるサイトカイン、ケモカインの役割を説明できる
- 8) 免疫系細胞における細胞内伝達機構を概説できる

予め履修が望ましい科目 生体の構造と機能に含まれる科目を十分に学習しておくこと

発展科目 解剖学、組織学、生化学、病理学、生理学

授業計画・学習の内容

学習内容

4月3日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
4月10日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
4月17日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
4月24日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
5月1日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
5月8日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
5月12日 火 15:00-15:45...ガバザ.....実験医学実習セミナー

5月22日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
5月26日 火 15:00-15:45...ガバザ.....実験医学実習セミナー
5月29日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
6月2日 火 15:00-15:45...ガバザ.....実験医学実習セミナー
6月5日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
6月9日 火 15:00-15:45...ガバザ.....実験医学実習セミナー
6月12日 金 16:00-16:45...ガバザ、戸田.....免疫学セミナー
7月13日 金 17:30-18:30...ガバザ....生体侵襲ダイナミクス

学期 前期 開講時間 水 9, 10; 木 1, 2, 3, 4 年次 学部(学士課程): 3年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 実習

担当教員 ○そうけ島茂 (医学研究科), 村田真理子 (医学研究科), 那谷雅之 (医学研究科), 高木二郎 (医学研究科), 田島和雄 (医学部附属病院), 山崎亨 (医学部附属病院), 秋葉澄伯 (非常勤講師), 玉腰暁子 (非常勤講師), 高橋邦彦 (非常勤講師), 庵原俊昭 (非常勤講師), 飛田英祐 (非常勤講師), 圓藤吟史 (非常勤講師), 山口直人 (非常勤講師)

授業の概要

疫学epidemiologyは、疾病の予防や診療に役立つ要因を、人間集団において探索、分析、そして検証するための科学である。そのような研究によって明らかにされたことを、他の諸科学と連携して健康な社会の実現を総合的な視点から考究・実践するのが公衆衛生学public health medicineである。本講座の教育では、ほかの社会医学講座と協力しながら、学生の皆さんが社会と医学・医療の関係を理解することを目指す。

本講義では、公衆衛生学の中心的方法論である疫学を中心とした講義を通じ、研究デザインや疫学的指標の解釈等の基本となる知識を習得する。また、公衆衛生の第一線で活躍している非常勤講師を主体に、各分野（産業保健、母子保健、高齢者保健、医療経済、疫学の専門領域等）の各論に関する講義を行う。講義と並行して、公衆衛生学の中心的方法論の両輪の一方である統計学実習を行う。統計パッケージ（SAS）を使用した実習を通じて、記述的な方法、各種検定方法から多変量解析による調整の理解を目指す。

学習の到達目標 高学年・卒後の臨床医学・医療経験を経て公衆

衛生学的アプローチを見直すことにより社会における自己の役割をよく理解する。

発展科目 公衆衛生・産業医学分野と医学部附属病院疫学センターが実施する大学院セミナーにも積極的な参加を希望します。セミナー日程は随時案内します。

教科書

- 1) Leon Gordis (著) 木原正博 (訳) 疫学—医学的研究と実践のサイエンス—、メディカルサイエンスインターナショナル
 - 2) Roger Detels et al: Oxford text book of Public Health.5th ed., Oxford University Press, 2009
 - 3) 国民衛生の動向、厚生労働統計協会（毎年刊）
 - 4) 和田攻監修、産業保健マニュアル6版、南山堂
- 以上は推薦図書である。各講義で薦められる図書・論文も参考にすること。

成績評価方法と基準 出席、小テスト、実習レポート、期末試験などを総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 社会医学1: 4月16日(木) 1・2, 笠島茂, 「公衆衛生学入門」
 社会医学2: 4月16日(木) 3・4, 田島和雄, 「がんの疫学1」
 社会医学3: 4月23日(木) 1・2, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学1」
 社会医学4: 4月23日(木) 3・4, 秋葉澄伯, 「放射線影響の疫学と公衆衛生」
 社会医学5: 5月7日(木) 1・2, 玉腰暁子, 「大規模コホート研究」
 社会医学6: 5月7日(木) 3・4, 高木二郎, 「産業医学1」
 社会医学7: 5月13日(水) 9・10, 高橋邦彦・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習1」
 社会医学8: 5月20日(水) 9・10, 高橋邦彦・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習2」
 社会医学9: 5月21日(木) 1・2, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学2」
 社会医学10: 5月21日(木) 3・4, 庵原俊昭, 「予防接種」

- 社会医学11: 5月27日(水) 9・10, 飛田英祐・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習3」
 社会医学12: 5月28日(木) 1・2, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学3」
 社会医学13: 5月28日(木) 3・4, 圓藤吟史, 「産業医学2」
 社会医学14: 6月3日(水) 9・10, 飛田英祐・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習4」
 社会医学15: 6月4日(木) 1・2, 村田真理子, 「分子疫学」
 社会医学16: 6月4日(木) 3・4, 笠島茂, 「疫学・公衆衛生学4」
 社会医学17: 6月10日(水) 9・10, 高橋邦彦・高木二郎・山崎亨, 「疫学・統計実習5」
 社会医学18: 6月11日(木) 1・2, 山口直人, 「電磁界疫学とリスクコミュニケーション」
 社会医学19: 6月11日(木) 3・4, 田島和雄, 「がんの疫学2」
 社会医学20: 6月18日(木) 1・2, 那谷雅之, 「法医・法科学」

高度先進医療学

授業の方法 講義

授業の概要 未来を切り拓く先進医療について各分野での取り組みを講義

授業計画・学習の内容

学習内容

4月16日（木）9・10循環器内科学：土肥 薫：心不全に対する非薬物治療：最近の動向

4月24日（金）1・2遺伝子免疫細胞治療学：影山 慎一：がん免疫療法の最新の進歩

5月8日（金）1・2運動器外科学：長谷川正裕：運動器外科学の高度先進医療

5月15日（金）1・2神経病態内科学：富本 秀和：脳血管障害、認知症の高度先進医療

5月29日（金）1・2胸部心臓血管外科学：山本 真樹：冠動脈バイパス手術：最近の動向

6月5日（金）3・4脳神経外科学：鈴木 秀謙：脳血管系に対する先進外科治療

6月12日（金）1・2腎泌尿器外科学：有馬 公伸：尿路性器癌治療：最近の動向

6月19日（金）1・2血液・腫瘍内科学：片山 直之：造血器腫瘍の高度先進医療

6月26日（金）1・2肝胆膵・移植外科学：伊佐地秀司：肝移植の高度先進医療

7月3日（金）1・2産科婦人科学：田畑 務：子宮頸癌とHPVワクチン

7月10日（金）1・2細胞移植療法部：東 英一：小児造血細胞移植の先進医療

7月15日（水）11・12眼科学：生杉 謙吾：眼科学・視覚科学の最先端

7月24日（金）1・2放射線医学：佐久間 肇：循環器領域の先端的なCT, MR診断

7月31日（金）1・2消化管・小児外科学：毛利 靖彦：胃癌に対する高度先進医療

8月7日（金）9・10代謝内分泌内科学：矢野 裕：糖尿病の先進医療

医科学概論

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2

担当教員 竹村洋典（三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座家庭医療学分野 教授）

授業の概要 医学部の課程を経験していない修士学生が医科学の 礎的事項を学習することは非常に重要である。この医科学概論で研究を開始するに当たって、まず医科学全般にわたって、その基 は、さまざまな角度から医科学の基礎的概念を講義する。

授業計画・学習の内容

医療科学概論

Guideline of Medical Science & Ethics

学期 前期 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 福録 恵子 (医学部看護学科), 丸山 淳子 (鈴鹿医療科学大学), 伊藤 彰男 (名誉教授), 野口 孝 (名誉教授), 林 辰弥 (三重県立看護大学), 伊藤 正明 (三重大学医学部附属病院)

授業の概要 「医学・医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題を抱えているのか」を理解し、深く考える機会とする。

学習の到達目標 現代の医学・医療がどのように発展し、医療が健康の保持と病苦からの解放を願い、医学と一体のものであり、適正に実践されるものであることを学ぶ。さらに、変革期の医療や看護の特徴や課題に触れ、人々の健康やそれに関わる問題、医学看護学の相違や協働について学び考えることができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.オリエンテーション
- 2.医学・医療のあゆみ

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 すべての専門科目

教科書 指定なし ※必要時、資料を配付する

成績評価方法と基準 出席・態度・レスポンスカードによる評価 (オムニバスであるため、担当の教員によっては小テスト、レポート課題を課す場合がある)

- 3.健康と疾病・薬物療法
- 4.～7.現代医療・医療の実践と課題
- 8.看護実践と課題・まとめ

人体構造学

Human Anatomy

学期 前期 開講時間 木 5, 6, 7, 8, 9 単位 2 対象 看護学科1年次前期の履修科目 選/必 必修 授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 成田有吾 (医学部看護学科), 石川英治 (附属病院 腎臓内科学), 望木郁代 (医学部医学看護学教育センター), 大石晃嗣 (附属病院 輸血部)

授業の概要 講義、PBL形式のグループ学習 (討論と発表) および解剖学実習 (見学実習) を通して、看護職者に必要とされる人体構造の基本知識を学ぶ。

学習の到達目標 人体の基本的構造について理解し、基礎看護学実習や各専門領域履修の基礎知識ができる。

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 オリエンテーション 化学の基礎, 細胞と組織 概観
- 第2回 皮膚, 筋, 神経, 骨格 概観
- 第3回 胸腔 (循環器), 概観
- 第4回 胸腔 (呼吸器)
- 第5回 腹腔 (消化器)
- 第6回 腹腔 (泌尿器, 代謝)
- 第7回 解剖実習見学
- 第8回 内分泌, 他領域との関連

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 看護学科で学ぶ全ての専門科目の基礎的知識となる。

教科書 [教科書] 人体の構造と機能 エレイン N. マリーブ (著), (翻訳) 林正 健二, 小田切 陽一, 武田 多一, 浅見 一羊, 武田 裕子

成績評価方法と基準 レポート10%、宿題10%、小テスト40%、期末試験40%、計100% 但し、欠席や遅刻は減点対象

- 第9回 血液, 他領域との関連
- 第10回 生体防御, 他領域との関連
- 第11回 生殖系, 遺伝子, 機能
- 第12回 生殖系
- 第13回 神経, 脳
- 第14回 フィジカルアセスメント (循環, 呼吸, 代謝)
- 第15回 フィジカルアセスメント (筋, 骨格, 神経) (順序は未確定, 初回オリエンテーションで紹介します)

人体機能学

human physiology

学期 前期 開講時間 木 5, 6, 7, 8, 9 単位 2 対象 看護学科1年次前期に履修 選/必 必修 授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 PBL, Moodle
担当教員 成田有吾

授業の概要 看護を実践するときの基礎となる生体の細胞や器官の機能、あるいはこれらの機能が一つの個体としてどのように統合されているのかを知ることを目的とする。

学習の到達目標 人体を構成している細胞や器官が統合されて機能していることを習得する。

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 [教科書] 人体の構造と機能 エレイン N.マリーブ (著), (翻訳) 林正 健二, 小田切 陽一, 武田 多一, 浅見 一羊, 武田 裕子

成績評価方法と基準 レポート10%、宿題10%、小テスト40%、期末試験40%、計100% 但し、欠席や遅刻は減点対象

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回 オリエンテーション 化学の基礎、細胞と組織 概観
第2回 皮膚、筋、神経、骨格 概観
第3回 胸腔（循環器）、概観
第4回 胸腔（呼吸器）
第5回 腹腔（消化器）
第6回 腹腔（泌尿器、代謝）
第7回 解剖実習見学
第8回 内分泌、他領域との関連

第9回 血液、他領域との関連
第10回 生体防御、他領域との関連
第11回 生殖器系、遺伝子、機能
第12回 生殖器系
第13回 神経、脳
第14回 フィジカルアセスメント（循環、呼吸、代謝）
第15回 フィジカルアセスメント（筋、骨格、神経）
（順序は未確定、初回オリエンテーションにてお伝えします）

生化学・栄養学

Biochemistry & Nutrition

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 樋廻 博重（名誉教授）

授業の概要 食生活において食物を通じて栄養素を摂取する。これらの栄養素は人体内で代謝されて、人体をつくる材料になったり、生活のエネルギー源になっている。生化学においては代謝、生命現象全般について、栄養学においては栄養素の重要性について学ぶ。

学習の到達目標 後期に開講される食生活論のための基礎知識が得られる。

教科書

「図解よくわかる生化学」中島、柏保、樋廻 著（南山堂）
「テロメア寿命をめざして」樋廻 著（三重大学出版会）
「栄養学」中村、杉山 著（医学書院）

成績評価方法と基準 小テストを課し平常点とし、期末テストを行い評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 人体の構成成分
2. 臓器 細胞の働きと栄養
3. 酵素 補酵素とビタミン
4. 糖質の代謝
5. 脂質の代謝
6. アミノ酸の代謝
7. 血液成分・電解質

8. 栄養状態の評価 判定
9. 栄養素の種類と働き
10. エネルギー代謝
11. ライフステージと栄養（1）
12. "（2）
13. 臨床栄養
14. Nutrition Support Team(NST)
15. 演習

食生活論

Dietary Life

学期 後期 開講時間 水 1 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL
担当教員 樋廻 博重（名誉教授）

授業の概要 生化学・栄養学の内容をさらにレベルアップするのが目的である。

学習の到達目標 Nutrition Support Team (NST)の中で栄養評価および栄養指導ができるための知識を身につけることができる。

教科書

「栄養学」小野 杉山他著（医学書院）
「糖尿病のための食品交換表」（文光堂）

成績評価方法と基準 出席日数とレポートで評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 食と健康の考え方
2. 栄養 食事の基礎知識のまとめ
3. 看護における食事指導の実際
4. 疾患別食事指導の実際

1) 高脂血症 2) 高血圧 3) 脳卒中 4) 胃炎 胃十二指腸潰瘍
5) 肝臓病 6) 胆石 胆嚢炎 6) 膵炎 7) 糖尿病 8) 腎炎など
5. 栄養補給方法
1) 経口栄養 2) 経管栄養 3) 静脈栄養

看護病態学Ⅰ

basic medical science for nursing I

学期 後期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **対象** 看護学科1年次の受講が標準 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 鶴留雅人, 河野光雄, 広川佳史, ガバザ エステバン (Gabazza Esteban), 戸田雅昭, 林辰弥, 樋廻博重, 成田有吾

授業の概要 看護学科1学年の前期に履修した人体構造学(解剖学), 人体機能学(生理学)および生化学を踏まえて、基礎医学の観点から人体の基本病変の特徴を学ぶ。

学習の到達目標 看護学の基礎および専門領域を履修する上で必要な、微生物学、病理学、免疫学、血液学、生化学、病態生理学を学ぶことにより、人体の病気を理解する基礎を身につける。言い換えれば、ここで取り上げる基礎医学的知識は臨床と密接に関連しており、看護・支援での諸問題について、今後、自ら情報収集するための基本的語句(キーワード)や意味内容の理解ができるようになる。

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 人体機能学, 人体構造学, 生化学

発展科目 なし

教科書

1. 「微生物学」(医学書院)
2. 「血栓症の話」(中公新書)
3. 「図解よくわかる生化学」(南山堂)
4. 「エッセンシャル免疫学(第2版)」(メディカルサイエンス・インターナショナル)

成績評価方法と基準 各項目で実施される小テスト(含レポート)および期末試験結果で評価する。小テスト&レポート40%、期末試験60%、計100%(各自の合計得点60%以上で合格、なお規定未満の出席日数では期末試験受験資格を失う)

授業計画・学習の内容

学習内容

- (1-4) 微生物学: 病原性微生物、感染症、感染メカニズムなど
- (5-7) 基本病変: 奇形、進行性病変、炎症、腫瘍など
- (8-10) 生体における防御機構

- (11-12) 血液凝固の機構と病態
- (13-14) 代謝異常と遺伝病、発がんの機構、癌遺伝子、癌抑制遺伝子
- (15) 病態生理学 概観

看護病態学Ⅱ

Pathophysiology in Nursing II (clinical aspect)

学期 前期 **開講時間** 金9,10 **単位** 2 **対象** 看護学科2年次の受講が標準 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 成田有吾(医学部看護学科), 安井浩樹(名古屋大学医学部医学科), 櫻井洋至(医学・看護学教育センター), 大石晃嗣(附属病院輸血部), 藤本直紀(附属病院循環器内科), 石川英二(附属病院血液浄化療法部), 有馬公伸(医学部腎泌尿器外科学), 山中恵一(医学部皮膚科学), 笠井裕一(脊椎外科・医用工学講座), 竹内万彦(医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科学), 新居晶恵(附属病院 感染管理部)

授業の概要 全身の症状、疾患概念、診断・治療・予後、看護に関連する諸問題について、各専門分野の教員がオムニバス形式で担当します。

学習の到達目標

- 1) 看護病態について興味を持ち、後に取り組む専門教科や臨地実習に向けて、対象(患者)を幅広く理解できる能力を身につける。
- 2) 症状や病態の機序を学び、疾患の予防法・診断法・治療法・予後について理解する。

予め履修が望ましい科目 人体構造学, 人体機能学, 看護病態学Ⅰ

教科書

〔テキスト〕臨床病態学1, 臨床病態学2, 臨床病態学3 総編集 北村 聖, ヌーヴェルヒロカワ刊〔サブ・テキスト〕ナーシンググラフィカ3 臨床病理・病態学 (MCメディカ出版)

成績評価方法と基準 出席、テスト、授業時の態度・内容を総合的に評価する。欠席理由必要(診断書は不要)。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) オリエンテーション
- 2) 呼吸器系
- 3) 神経系
- 4) 外科トピックス
- 5) 循環器系
- 6) 内分泌系, 生活習慣病
- 7) 血液・アレルギー
- 8) 感染症
- 9) 消化器系

- 10) 腎疾患
 - 11) 腎泌尿・(男性)生殖器疾患
 - 12) 運動器疾患
 - 13) 皮膚科疾患
 - 14) 感覚器系疾患(耳鼻咽喉科系)
 - 15) 感覚器系疾患(眼科系)
 - 16) 試験
- (順序は未確定です。初回開講時のオリエンテーションで紹介します)

看護病態学III（薬理学）

Pathophysiology in Nursing III(Pharmacology)

学期 前期 開講時間 水 5, 6, 7, 8 単位 2 対象 看護学科2年次前期に履修 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 伊藤浩子

授業の概要

今日、薬害問題が注目されている。そこで薬物の効果、作用機序、薬物動態、副作用を理解させ、薬を正しく用いられるよう解説する。

薬物が人体や動物あるいは微生物にどのように働くか、どのような効果が現れるのか（薬理作用の研究）、薬物がどのように効くのか（薬物の作用機序の研究）、薬物がどの程度、体内に取り込まれ（薬物の吸収）、体内でどのような運命をたどり（薬物の代謝・分布）、体外へ出て行くのか（排泄）、また薬物の毒性（中毒学）や副作用などについて講義する。

学習の到達目標 受講学生が、処方された薬、市販薬、その他の薬剤の分類、期待される効果、安全性、副作用、相互作用など注意点の知識を、文献、資料（含むInternet）から得ることができ、必要な対象者に内容の概略を説明できるようになる。

教科書

系統看護学講座 専門基礎分野（疾病のなりたちと回復の促進3） 薬理学（吉岡 光弘 他2名） 医学書院

成績評価方法と基準 筆記試験(70%)、授業態度(20%)、レポート・課題(10%)

授業計画・学習の内容

学習内容

学習内容

- ①薬理学総論
- ②抗感染症薬
- ③免疫治療薬
- ④アレルギー・抗炎症薬
- ⑤末梢神経作用薬
- ⑥中枢神経作用薬
- ⑦心臓・血管系作用薬

- ⑧呼吸器・消化器・生殖器系作用薬
- ⑨物質代謝に作用する薬
- ⑩抗がん薬
- ⑪外用薬
- ⑫救急薬
- ⑬漢方薬
- ⑭検査・診断薬
- ⑮総合学習
- ⑯試験

ストレスと健康

Stress and Health

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた

授業

担当教員 井村香積（医学部看護学科）、林智子（医学部看護学科）

授業の概要 身体的、心理的、スピリチャル的、社会的側面からのストレスと健康との関連、コーピングの種類、コミュニケーションについての知識を学ぶことを目的とする。

学習の到達目標

1. ストレスとコーピングの意味を理解した上で、ストレスとコーピングを分析することができる。
2. ストレスとコーピングの情報収集するために必要なコミュニケー

ションについて理解できる。

3. 自己と他者のコミュニケーションパターンを理解した上で、よりよいコミュニケーションを見出すことができる。

教科書 ストレスと病い, 監修 吾郷晋浩, 看護出版

成績評価方法と基準 出席日数および課題レポートにより評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ストレスとは
2. ストレスと健康について
3. ストレスとコーピング
4. ストレスとコーピングの事例 (1)
5. ストレスとコーピングの事例 (2)
6. ストレスとコーピングの事例 (3)
7. まとめ

8. コミュニケーションとは
9. コミュニケーション (1)
10. コミュニケーション (2)
11. コミュニケーション (3)
12. コミュニケーション (4)
13. コミュニケーション (5)
14. コミュニケーション (6)
15. まとめ

医療倫理Ⅰ

Health care ethics

学期 後期 **開講時間** 火3,4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 今井奈妙 (医学部看護学科)

授業の概要 看護実践において欠かすことのできない倫理的視点を身につけ、人々の尊厳をまもる看護のあり方について考える。

学習の到達目標

1. 医療および看護において必要とされる倫理的基礎知識を得る。
2. 看護倫理学の観点が臨地実習において必要とされることを理解する。

発展科目 関係法規, 医療倫理Ⅱ

教科書 看護倫理学 看護実践における倫理的基盤, 松木光子 (編), ヌーベルヒロカワ

成績評価方法と基準 オリジナル倫理ノートの作成80%、レポート10%、授業への貢献度10%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス, 倫理学とは何か
2. 生命倫理の概要
3. 医療倫理の概要
4. 医療倫理に関する映画鑑賞

5. 看護倫理の基本理論・倫理的概念について
6. 倫理的意思決定モデルの理解
7. 看護倫理に基づくケアリング
8. 看護倫理と法的問題, まとめ

医療倫理Ⅱ

Health care ethics

学期 後期 **開講時間** 金3,4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 今井奈妙

授業の概要 医療倫理Ⅰにおける学習をもとに、看護の場面における様々な倫理的問題について検討する。

学習の到達目標

- ・医療倫理Ⅰで学んだ倫理的概念について説明できる。
- ・倫理的意思決定モデルに基づいた倫理的判断ができる。

受講要件 医療倫理Ⅰを履修済みであること

教科書 看護倫理学 看護実践における倫理的基盤, 松木光子 (編), ヌーベルヒロカワ

成績評価方法と基準 レポート50%, 授業への貢献度50%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス, 医療倫理Ⅰを振り返る
2. 倫理原則と手順論
3. ナラティブ (薬害被害を考える)
4. 臨床における倫理的ジレンマの検討 (1)

5. 臨床における倫理的ジレンマの検討 (2)
6. 臨床における倫理的ジレンマの検討 (3)
7. 臨床における倫理的ジレンマの検討 (4)
8. 医療倫理 (4年間のまとめ)

関係法規

Law and ethics relating medicine and nursing

学期 後期集中 **単位** 1 **対象** 看護学科1年次の受講を標準とする **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 稲葉一人 (中京大学法科大学院教授)

授業の概要 法は身近なところにあり、医療者が自律したプロフェッショナルになるには、法や倫理の最低限の知識と考え方が必要であり、そのための基礎を、DVD、判例等の具体的な事案を通じて、学ぶ。

学習の到達目標 各自、報道等からの情報に対して自らの意見を持って議論するための基礎知識と理解を得る。

教科書

【教科書】

Supple編集委員会 (稲葉一人) 編: 事例でなっとく 看護と法, メディカ出版, 2006

成績評価方法と基準

【評価】

出席し積極的に発言すること(30%)と、各講義時終了時に行うワークシートの提出 (70%)

授業計画・学習の内容

学習内容

【授業内容】
法の基礎的知識
医療訴訟 (刑事・民事)

守秘義務と個人情報保護
説明義務とインフォームド・コンセント
医療資格者の義務と権限

生涯発達論

Mental Health at Life Cycle Stages

学期 後期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 種田ゆかり, 磯和勅子, 井関敦子, 村端真由美 (医学部看護学科)

授業の概要 対象の発達段階に応じた看護の実践を行うために、人間のライフステージにおける発達の特徴と発達課題を知るとともに、ある時期の対象者の現象や行動には、それ以前の段階が影響していることを理解する。

学習の到達目標

- 1.看護の対象者を理解するためには、病態だけではなく、発達という観点からもアセスメントする必要があることを知る。
- 2.新生児期から老年期、誕生から死にいたるまでの各時期における身体的な特徴（形態・機能の両面から）を理解する。
- 3.新生児期から老年期における心理的・精神的な特徴、およびそれ

に伴う役割の変化など社会的な特徴について、発達課題と関連させながら理解する。

- 4.発達障害や発達課題上のつまずきが健康に及ぼす影響について理解する。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 基礎看護論

教科書 適宜提示する

成績評価方法と基準 出席状況、参加状況、課題レポートにより総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.発達のとらえ方、発達課題と健康
- 2.胎児・新生児期の身体的・心理的・社会的特徴と発達
- 3.子どもとは、小児期の身体的・心理的・社会的特徴と発達
- 4.小児期の身体的・心理的・社会的特徴と発達

- 5.成人期の身体的・心理的・社会的特徴と発達
- 6.老年期の身体的・心理的・社会的特徴と発達
- 7.発達障害と健康
- 8.まとめ

基礎看護論

Basic Nursing Concept

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 今井奈妙

授業の概要

1. 看護学の諸概念について学習し、看護の目的と役割機能について理解する。
2. 看護の歴史、理論、研究に関する基礎的要素を学び、看護学の奥深さと発展性をイメージする。

学習の到達目標

- 1.社会における看護とその対象および看護専門職の役割について理解する。
- 2.看護実践の重要性について理解し、看護学の発展性をイメージで

きる。

予め履修が望ましい科目 医療科学概論

発展科目 生涯発達論, 看護技術論, 看護理論と看護過程, 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書 看護学概論（ナーシング・グラフィカ16）, MCメディカ出版

成績評価方法と基準 課題レポート50%, 期末試験50%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス, 看護への導入
2. 看護の歴史と看護教育について
3. 看護の対象を理解する
4. ライフサイクルと健康, ウェルネスの促進
5. 保健医療システムと看護の役割
6. 看護援助の基本的役割と援助技術 (映画)
7. 問題解決型思考と看護過程

8. 看護実践のための理論的根拠
9. 看護の法的側面
10. 看護における倫理と価値
11. 看護実践と研究のつながり
12. 看護ケアのマネジメント
14. 災害看護
15. 特別講義
16. まとめ, 試験

看護技術論Ⅰ

Science and Art in Nursing I

学期 後期 **開講時間** 月 6, 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 ○林智子（医学部看護学科）、福録恵子（医学部看護学科）、井村香積（医学部看護学科）、種田ゆかり（医学部看護学科）

授業の概要 看護の対象の日常生活を支える看護実践に共通の基盤となる知識・技術を自らの主体的な学習によって修得し、その過程を通じて看護技術の創造性について理解する。

学習の到達目標

- 1)看護の対象の生活現象をイメージしながら、それをアセスメントするための知識を修得できる。
- 2)演習で実施する看護技術について自己学習を活用して修得レベルまで到達させることができる。
- 3)模擬対象に看護技術を実施するなかで、その看護技術の原理や方法の根拠を考えることができる。
- 4)模擬対象に実施した自分の看護技術が、対象の安全・安楽と自立への支援を考慮した内容になっているかを評価できる。
- 5)自分の実施した看護技術と他者の看護技術を比較検討し、看護技術の行為が看護者自身の看護観および科学的思考過程によって表現されることが理解できる。

予め履修が望ましい科目 人体構造学、人体機能学、基礎看護論

授業計画・学習の内容

学習内容

- Ⅰ．看護技術とは
- Ⅱ．看護過程と看護技術
- Ⅲ．療養生活の環境調整
1. 療養生活の環境
2. 安全
3. 感染予防
4. 環境調整を支援する看護技術
衛生的手洗い、ベッドメイキング、ボディメカニクス
臥床患者のリネン交換、体位変換
5. 実技試験
- Ⅳ．活動と睡眠
1. 活動とは
2. 睡眠とは

発展科目 看護技術論Ⅱ、看護技術論Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護実習Ⅱ

教科書

香春知永・齋藤やよい(2011)基礎看護技術, 南江堂.
任和子編集(2014)基礎・臨床看護技術, 医学書院.

成績評価方法と基準

- 1)授業の成績は総括的評価で行う。総括的評価は事前・事後課題レポート50%、筆記試験50%で計100%とする。なお、授業の出席状況（欠席・遅刻・早退）も加味して評価する。
- 2)事前・事後課題レポート評価は、すべての課題レポートが提出されていることが評価の前提になる。提出されていない課題レポートがある場合は、評価の対象とならない。なお、授業を欠席した場合は自分で課題を遂行し、課題レポートを提出する。また、事前課題が未提出の場合は、演習に参加できない。その場合も欠席時と同様に対処する。
- 3)実技試験は形成的評価とし、課題技術の修得を目標とする。課題技術の修得は総括的評価の前提条件である。

3. 睡眠を支援する看護技術
4. 活動を支援する看護技術
車椅子移乗・移送、ストレッチャー移送
5. 実技試験
- Ⅴ．清潔
1. 身体の清潔
2. 身体の清潔を保つ看護技術
清拭、足浴、洗髪、寝衣交換
3. 実技試験
- Ⅵ．フィジカルアセスメント
1. バイタルサインズ
2. バイタルサインの測定
3. 電法
4. 実技試験

看護技術論Ⅱ

Science and Art in Nursing II

学期 前期 **開講時間** 火 2, 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 井村香積、林 智子、福録恵子、種田ゆかり（医学部看護学科）

授業の概要 看護の対象の持つ力を維持、あるいは、最大限に発揮できるような知識と技術を学ぶ。

学習の到達目標

1. 体験学習の循環過程を使用し、看護技術を習得する。
2. 感染予防の知識を持ち、創の管理や排泄の処置技術を習得する。
3. 身体的苦痛となる要因と症状を理解し、安楽促進・苦痛の緩和、身体的機能の回復・賦活化などの技術を習得する。

予め履修が望ましい科目 人体構造学、人体機能学、基礎看護論、看護技術論Ⅰ

発展科目 看護技術論Ⅲ、基礎看護学実習Ⅱ

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1-3. コースガイダンス、感染を予防するための技術
- 4-5. 栄養状態を整える技術
- 6-9. 排泄処置の管理技術
- 10-11. 栄養状態を整える技術

教科書

編；香春知永, 齋藤やよい, 基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する, 南江堂
監；任和子, 秋山智弥, 根拠と自己防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院

成績評価方法と基準

総括評価は、出席15%、事前・事後課題レポート35%、筆記試験50%で計100%とする。
実技試験は形成的評価とし、合格レベルまで到達していないと筆記試験を受けることができない。
事前・事後課題レポートの提出は必須とし、授業を欠席した場合は自分で課題を遂行し、課題レポートを提出する。

- 12-13. 呼吸を整えるための看護
 14. 実技試験
 15. 実技試験
- 筆記試験
（＊詳細は第1回講義の際に説明する）

看護技術論III

Science and Art in Nursing III

学期 後期 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 福録 恵子 (医学部看護学科), 林 智子 (医学部看護学科), 江藤 由美 (医学部看護学科), 井村 香積 (医学部看護学科), 種田 ゆかり (医学部看護学科)

授業の概要 健康障害をもつ患者とその家族への看護について様々な視点から理解する。事例による複合的な看護技術演習により、看護技術を適用する方法を学ぶ。また患者・看護師関係の基盤となるコミュニケーションについて、自己の課題を明らかにする。

学習の到達目標

- 1.既習の看護技術を事例に適用し、対象の状況に応じた看護技術提供の方法を考え、実施し、評価ができる。
- 2.自己のコミュニケーション能力について内省に、自己の課題を述べることができる。
- 3.各領域の看護学実習に必要とされる看護技術の基本について、理

解し実施できる。

受講要件 基礎看護学実習Ⅱを履修済みであること

予め履修が望ましい科目 2年次前期までの学科必修科目

発展科目 各領域実習

教科書 看護技術論Ⅰ・Ⅱで購入済みのテキスト

成績評価方法と基準 事前・事後課題レポート50%, 試験50%, 計100%とする。原則欠席は認めない。欠席は減点とし, 出席日数が2/3に満たない者は原則として試験を受けることができない。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.コースガイダンス 与薬を受ける患者の看護
- 2～3.注射法 (筋肉注射・皮下注射・皮内注射)
- 4～6.検査看護技術・採血法
- 7～9.注射法 (静脈内注射・点滴静脈内注射)

10～13.複合的看護技術

14.まとめ

15.実技試験

16.筆記試験

※学習状況に応じて、内容を変更する場合がある。

看護理論と看護過程

Nursing Theory and Nursing Process

学期 前期 **開講時間** 金 2, 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 林 智子（医学部看護学科），井村香積（医学部看護学科）他

授業の概要 1年次に学習した看護学や医学的知識を基盤とし、看護の目的を達成するために必要な問題解決過程である看護過程の専門的な思考方法を学び、主体的に看護を学ぶための基本的な態度を修得する。

学習の到達目標

- 1.データ収集の方法を学び、コミュニケーション技法を使って模擬患者からデータを収集することができる。
- 2.データ解釈に必要な看護・医学的知識や心理社会的理論を学び、看護を必要とする現象である看護問題を導く視点として活用できる。
- 3.データをアセスメント(解釈・分析)した結果を仮の看護問題(問題らしき状況)と関連要因として検討し、その関連性を情報関連図に表わすことができる。
- 4.仮の看護問題(問題らしき状況)をフォーカスアセスメントとして取り上げ、データの解釈から原因や関連要因を特定し、目標とする状態や看護の方向性を導くことができる。

る状態や看護の方向性を導くことができる。

5.模擬患者に適した標準的看護計画を学習し、フォーカスアセスメントの内容を活かして、個別性のある看護目標と看護計画を立てることができる。

6.模擬患者役に対して看護計画の一部を実践し、実践の結果を評価することができる。

発展科目 基礎看護学実習Ⅱ

教科書

日本看護診断学会監訳(2012)NANDA-I 看護診断定義と分類2012-2014, 医学書院.

古橋洋子(2013)看護診断を導く情報収集・アセスメント[第4版], Gakken.

成績評価方法と基準 事前・事後課題レポート50%、筆記試験50%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.看護とは何か？看護実践とは何か？
看護過程と看護診断 看護過程展開の技術とは？
看護過程と看護理論 アセスメントの枠組み
- 2.事例1ー1：情報収集
対象理解(発達段階・健康の段階)
と情報収集のロールプレイ(ペアで)
- 3.事例1ー2：アセスメントと問題の抽出
アセスメントの枠組みとアセスメントの方法
事例2の提示
- 4.事例2ー1：疾患の理解と情報収集の方法
グループワークの発表
情報収集の方法（カルテ・患者から）
- 5.事例2ー2：情報収集の方法とアセスメント
情報収集のロールプレイ(SPと)
アセスメントの方法
- 6.事例2ー2：アセスメント1
健康認識・健康管理と栄養のグループ発表
中範囲理論1
- 7.事例2ー3：アセスメント2

- 排泄と活動のグループ発表
中範囲理論2
- 8.事例2ー4：アセスメント3
その他のグループ発表
中範囲理論3
- 9.事例2ー5：統合とフォーカスアセスメント
統合(情報関連図)のグループ発表
フォーカスアセスメント(看護問題の抽出・看護目標設定)のグループ発表
- 10.事例2ー6：看護計画立案
グループ発表
- 11.事例2ー7：看護計画の実施
ロールプレイ
- 12.事例2ー8：事例2の看護過程の展開まとめ
情報収集から評価まで
事例3の提示
- 13.事例3ー1：情報整理とアセスメント
- 14.事例3ー2：看護計画立案
- 15.事例3ー3：事例3のまとめ
ペーパーテスト

看護システム論Ⅰ

Nursing System and Management I

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○江藤由美 (医学部看護学科), 伊藤正明 (三重大学医学部附属病院), 門脇文子 (三重大学医学部附属病院)

授業の概要 看護サービスマネジメントを構成する概念や理論を用いて、実践を分析・解釈する思考過程を習得することができる。さらに、看護専門職として組織に参入する自己の役割と課題を意識化することができる。

学習の到達目標

1. 看護サービスマネジメントを構成する概念や理論を理解することができる。
2. 看護サービスマネジメントに関する概念や理論を用いて現象を分析・解釈することができる。
3. 看護実践をサービスの提供という視点からとらえ、サービス提供者としての役割を理解することができる。

4. 看護専門職として組織に参入する自己の役割と課題を意識化し、組織人になるレディネスを整えることができる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 看護システム論Ⅱ (選択)

教科書 ナーシンググラフィカ「看護管理」MCメディカ

成績評価方法と基準 レポート50%、小テスト25%、討論参加度25%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 看護システム論を学ぶ意義
2. 人々の生活と看護 看護の役割・看護活動の場
3. 看護管理過程 組織とマネジメント
4. 医療安全と看護の質保証①
5. 医療安全と看護の質保証②
6. 看護管理過程 看護師の仕事とその管理
7. 看護と経営 組織の理解

8. 看護と経営 病院経営
9. 人間関係を構築する技術①
10. 人間関係を構築する技術②
11. 組織の効率性を高める技術①
12. 組織の効率性を高める技術②
13. 看護情報管理
14. 看護に関する法律と制度
15. 最近の保健医療福祉政策の動向

看護システム論Ⅱ

Nursing System and Management II

学期 後期 **開講時間** 金 1, 2 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 江藤由美 (医学部看護学科)

授業の概要 看護システム論Ⅰで学習した看護管理の諸概念や理論を用いて、看護実践を分析し理解することができる。

学習の到達目標

1. 看護管理者の意思決定の場面を通して、看護管理者のあり方について記述することができる。
2. 看護管理者のリーダーシップについて分析し、リーダーシップのあり方について記述することができる。

受講要件 看護システム論Ⅰを履修済みであること

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 なし

成績評価方法と基準

実習参加度：30%
討論参加度：25%
小レポート：20%
最終課題レポート：25%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 医療政策について
2. 大学病院の看護管理の実際①
3. 大学病院の看護管理の実際②

4. 看護管理者へのインタビュー①
5. 看護管理者へのインタビュー②
6. インタビューの分析
7. まとめ

基礎看護学実習Ⅰ

Clinical Practice in Basic Nursing I

学期 後期 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○今井奈妙（医学部看護学科）、林 智子（医学部看護学科）、福録恵子（医学部看護学科）、江藤由美（医学部看護学科）、井村香積（医学部看護学科）、種田ゆかり（医学部看護学科）、医学部附属病院看護部の皆さん

授業の概要 病院内における様々な医療職の存在と働きを知り、病院の役割と機能について理解する。また、患者の療養生活とそれを支える看護実践を見学および実施することにより、看護の役割と機能について理解する。

学習の到達目標

- (1) 大学病院における様々な医療職の存在と働きを知り、病院の役割と機能について理解できる。
- (2) 人間の発達段階や健康モデルを踏まえ、患者の療養生活の特殊性を理解できる。
- (3) 看護実践を見学および実施することにより、看護職の機能と重要性を理解できる。

(4) 本実習の経験を通して学習モチベーションを向上させ、基礎看護学実習Ⅱに向かう姿勢を養う。

受講要件 実習中の事故に対応できる医療系学生対象の保険に加入しておくこと。

予め履修が望ましい科目 1年次必修科目全て

発展科目 2年次前期の科目全て、基礎看護学実習Ⅱ

教科書 水本清久ほか(2011)実践チーム医療論－実際と教育プログラム－、医歯薬出版。

成績評価方法と基準 基礎看護学実習Ⅰ評価表を用いて評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

三重大学医学部附属病院で実習をおこなう。

実習日程・実習方法の詳細は後日連絡する。

基礎看護学実習Ⅱ

Clinical Practices in Basic Nursing II

学期 前期 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 林智子（医学部看護学科）、今井奈妙（医学部看護学科）、福録恵子（医学部看護学科）、江藤由美（医学部看護学科）、井村香積（医学部看護学科）、種田ゆかり（医学部看護学科）他

授業の概要 入院という特殊な生活状況下にある対象に対して、看護過程の思考プロセスをたどりながら看護問題を抽出し、それを解決するための日常生活援助を対象の個別性に応じた形で提供する中で、看護実践過程の基礎を学ぶ。また、信頼される医療者としての知識・技術・態度を学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 受持ち患者の発達段階や健康障害、療養生活の特徴をふまえて情報を収集し、看護アセスメントの視点に沿って情報をアセスメントし、看護問題を導くまでの思考のプロセスを提示できる。
- (1) 受持ち患者の発達段階をふまえて、日常生活に関する情報を収集できる。
- (2) 受持ち患者の健康障害の種類と段階を理解し、健康障害や治療が日常生活に及ぼす影響について情報を収集できる。
- (3) 受持ち患者の療養生活に対する認識や心情について情報を収集できる。
- (4) 受持ち患者を観察して得た情報をNANDA-Iの枠組みを使って、看護アセスメントの視点から情報を解釈・総合し、仮の診断的推論(問題らしき状況)を導くことができる。
- (5) 総合で導かれた仮の診断的推論(問題らしき状況)をフォーカスアセスメントすることによってさらに分析・統合し、妥当性の高い看護問題として確定することができる。
- 2) 受持ち患者の看護問題を解決するために個別性のある日常生活援助を計画・実践し、それが受持ち患者に応じた実践であったかを評価できる。
- (1) 看護問題の関連因子(E)や症状・徴候(S)を解消・改善する具体的な成果(期待される結果)を設定できる。
- (2) アセスメントした内容を反映させ、個性性を考慮した看護計画の立案ができる。
- (3) 看護計画を患者の日常生活に取り入れて実践できる。
- (4) 実践した援助を看護の視点から評価できる。
- 3) 受持ち患者との人間関係を振り返り、治療的な関わりについて

考察することができる。

- (1) 受持ち患者の認識や心情を引き出すような関わりをもつことができる。
- (2) 受持ち患者の意思を尊重した気遣いのある態度で接することができる。
- (3) 受持ち患者との関わりの中から、治療的なコミュニケーションや自己のコミュニケーションの傾向を考える。
- 4) 受持ち患者との関係を通じた看護過程の展開を振り返り、看護の意味について考察することができる。

- (1) 看護過程展開の全過程を振り返り、実践した看護援助が受持ち患者への援助として適切であったかを評価できる。
- (2) 受持ち患者に実践した看護の意味を考え、看護の成果としてまとめることができる。

5) 主体的学習態度で実習に臨み、チームで助け合う姿勢を培うことができる。

- (1) 疑問な点は自己学習や質問することにより、積極的に解決することができる。
- (2) 実習グループのメンバーと協力し合って実習を遂行することができる。

受講要件

看護理論と看護過程、看護技術論Ⅰ及びⅡの各単位を取得、または2年次前期に取得見込みであること。

＊ 学生総合共済・学生賠償責任保険あるいは看護学生総合補償制度に、必ず加入すること。

＊ 健康診断および各種ワクチン接種を終了しておくこと。

予め履修が望ましい科目 2年次前期までの学科必須科目

発展科目 特になし

教科書 特に指定なし

成績評価方法と基準 基礎看護学実習Ⅱ評価表にそって実施する。

授業計画・学習の内容

学習内容

〔実習方法〕

・実習場所：三重大学医学部附属病院

＊詳細は、実習要項に記載する。

成人看護学Ⅰ

Adult Health Nursing I

学期 前期 開講時間 木7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 辻川真弓、吉田和枝、坂口美和、竹内佐智恵、犬丸杏里(医学部看護学科)、横井弓枝(医学・看護学教育センター) 他

授業の概要

ライフステージの中で最も長い成人期にあるひと及び家族の特徴を理解し、ヘルスプロモーションと看護者の役割について理解を深め、対象の健康レベル・状態に応じた看護実践について学ぶ。ひとの生命を救う立場である看護者に必要なBLS（Basic Life Support：心肺停止状態の人に対して行う救命処置）を習得する。

学習の到達目標

1. ライフサイクルにおける成人期および成人期にある人とその家族について理解できる。

2. 成人のライフスタイルと健康問題、健康レベル・状態に応じた看護実践について理解できる。
3. 成人期に健康問題・病や障害をもって生きることの意味について考えることができる。
4. 看護者に必要なBLSを習得する。

教科書 小松浩子、他：成人看護学総論 成人看護学①医学書院

成績評価方法と基準 課題レポート[20%] 定期試験 [70%] 出席 [10%]

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1 ガイダンス・成人看護学の概念と構成
- 2 BLS（Basic Life Support）講義
- 3 BLS（Basic Life Support）演習①
- 4 BLS（Basic Life Support）演習②
- 5 BLS（Basic Life Support）演習③
- 6 BLS（Basic Life Support）演習④
- 7 成人期の特徴と健康課題① PBL
- 8 成人期の特徴と健康課題② PBL

- 9 成人期の特徴と健康課題-青年期一発表
- 10 成人期の特徴と健康課題-壮年期一発表
- 11 成人期の特徴と健康課題-中年期一発表
- 12 急激な健康破綻をきたした人への看護
- 13 慢性病のある人・障害とともに生きる人への看護
- 14 成人に対する基本的アプローチ①
- 15 成人に対する基本的アプローチ②
- 16 試験

成人看護学Ⅱ

Adult Nursing II

学期 後期 開講時間 水5,6,7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田和枝、辻川真弓、坂口美和、竹内佐智恵、犬丸杏里（医学部看護学科） 他

授業の概要 成人期にある人の健康レベル・状態に応じた看護実践を行うための必要な基本概念を理解する。1) がん看護2) 侵襲的治療と看護3) 継続看護4) 障害と看護5) リハビリテーション看護について学ぶ。

学習の到達目標

1. がん患者および家族の治療を通して必要とされる看護、がんとともに生きるための援助について理解する。
2. 侵襲的治療を受ける患者および家族の看護と援助を理解する。
3. 障害をもつ患者のリハビリテーションを通して必要とされる看護

- 護を理解する。
4. 病気とともに生きる人と家族の病気とともに生きる援助を理解する。

予め履修が望ましい科目 成人看護学Ⅰ

発展科目 成人看護学Ⅲ 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ

教科書 成人看護学Ⅰで購入済み

成績評価方法と基準 試験90%、出席10%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. オリエンテーション・がん看護総論
- 2～3. がん看護
- 4～8. 危機的状況に陥った人の看護
- 9～15. 障害と看護

16～23. 病気とともに生きる人の看護
定期試験
なお、1回の授業は2コマ続きの場合と1コマの場合があるので留意すること。

成人看護学III

Adult Nursing III

学期 前期 **開講時間** 火 3, 4, 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL
担当教員 坂口美和、辻川真弓、吉田和枝、竹内佐智恵、犬丸杏里(医学部看護学科)、横井弓枝(医学・看護学教育センター)

授業の概要 成人看護学IIIでは、講義だけではなく、事前に調べたり課題を行ったりと自己学習をして、グループで討議をし、学びを深めていく授業形態をとる。緩和ケアの基盤となる考え方、周術期看護、継続看護の視点から退院支援の考え方・進め方を学ぶ。治療を受ける人と家族の事例を用いて入院から退院までの看護過程を展開する。また、2つ目の事例では、事例の中で着目した点を様々な情報と既習知識から患者の全体像を膨らませ、問題(課題)を見出し、実施可能なケアプランを立案し、実際に模擬患者に実施し、模擬患者と一緒に評価を行う。血糖測定方法、ストーマケア、栄養・食事のアセスメントについても学ぶ。実際に病気をもって生活をしている人の体験をきく。

学習の到達目標

- 1) 緩和ケアの基盤となる考え方を理解する。
- 2) 周術期(術前、術直後、術後回復期)の看護を理解する。
- 3) 退院支援の考え方・進め方を理解し、退院支援を計画する。
- 4) 自己血糖測定、ストーマケア、栄養・食事のアセスメントにつ

- いて習得する。
- 5) 治療を受ける人と家族の看護展開が行える。
 - 6) 事例の中で着目した点を様々な情報、既習知識からアセスメントし、プランを考え、実施し、評価をする。
 - 7) 病気をもって生活をしている人の体験を聞き、事例の病気をもつ人の体験を慮る力を高めるとともに、求められている看護を理解する。

予め履修が望ましい科目 成人看護学Ⅰ，成人看護学Ⅱ

発展科目 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

小松浩子他編：成人看護学総論，医学書院，2012.
鎌倉やよい他：周術期の臨床判断を磨く，医学書院，2011.

成績評価方法と基準 出席、レポート、ポートフォリオ、期末試験などを合わせて総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義：

- ・麻酔の基礎：痛みと神経線維、麻酔の性質、局所麻酔薬、全身麻酔導入の手順、麻酔記録
- ・周術期看護：術前看護、術中看護、術後看護
- ・退院支援の考え方と進め方
- ・緩和ケア：緩和ケア総論、トータルペインとケア、医療チームとしての緩和ケア、通院している人の緩和ケア、人生の終焉を生きる人のケア

- ・当事者の経験に学ぶ：疑いから現在に至るまでの患者の気持ち
 - ・血糖測定、ストーマケア、栄養/食事アセスメント
- グループ演習・討議
- ・事例1：手術をする人と家族の入院から退院までの看護過程
 - ・事例2：進行性の病気をもって入院治療をしている人の様子から状況の把握をし、ある日の一場面をきっかけにした看護計画の立案と模擬患者への実施と評価

クリティカルケア看護

Critical Care

学期 後期集中 **単位** 2 **対象** 集中治療を受ける患者のケアを通して病態アセスメントをし、看護ケアを考えます。講義と臨地での実地体験を組み合わせた構成です。全構成に必ず出席してください。 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習, 実習
授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 ○竹内 佐智恵（看護学部）、吉田 和枝（看護学部）

授業の概要

クリティカルケア看護は、生命の危機的の状態にある患者に対して身体的安全と安定化を図るために診療を補助し、合併症予防や早期リハビリへの取り組みを重視する。そして患者の人としての尊厳を保ち、患者および家族のニーズに応じた専門的な看護を提供することである。

本科目は、全ての臨地実習を修得した4年生に対する選択科目として位置付け、卒後の臨地実践能力を高める基盤となるよう、臨地の対象者の事例をもとにグループワークと臨地体験を組み合わせ、情報を整理、問題の構造の推測、看護実践の方向性の提示を目指した集中講義形式での授業を実践する。

学習の到達目標

- 1.クリティカルケアを必要とする患者の身体的・心理的・社会的な特徴を理解する。

- 2.クリティカルケアを必要とする患者に必要な基本的看護技術の原則を理解する。
- 3.クリティカルケアを必要とする患者とその家族の特徴およびその援助について理解する。
- 4.クリティカルケアを必要とする患者への生命維持、苦痛の緩和および尊厳を保つ看護を考える。

受講要件 受講要件は設けない。

教科書

指定教科書なし
授業中に必要資料を配布する

成績評価方法と基準 グループ演習およびグループ学習(30%)、実習記録(50%)、出席(20%)、計100%（合計が60%以上で合格）

授業計画・学習の内容

学習内容

講義：

クリティカルケア看護の特徴（概念、定義、歴史的変遷など）
生命危機の状態にある患者の特徴〔病態・身体的特徴〕
講義
生命危機の状態にある患者の特徴およびクリティカルケア看護
グループ演習、討議：
生命危機の状態にある患者についての事例学習

クリティカルケア看護についてのまとめ
臨地体験：
クリティカルケアを受ける患者への看護実践(2日間)[集中治療室]
スキルズラボでの演習（2日間）
特別講義：
クリティカルケアに携わる現役看護師との交流（講演、意見交換）

成人看護学実習Ⅰ

Adult Nursing Practice I

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 辻川真弓, 坂口美和, 吉田和枝, 竹内佐智恵, 犬丸杏里(医学部看護学科), 横井弓枝(医学・看護学教育センター) 他

授業の概要 成人期の特性を理解した上で、健康上の問題を持つ対象の健康レベル・状態に応じた看護実践をする力を養う。

学習の到達目標

1. 健康上の問題を持つ対象の健康レベル・状態に応じた看護実践をするために、必要な知識を整理し、正しく理解する。
2. 臨地実習で行う援助技術の必要性と援助のポイントを理解し、安全・安楽に実施することができる。
3. 対象を理解するために、事例の情報収集を行い、データベース作成、アセスメント、看護問題を抽出できる。

受講要件 成人看護学Ⅰ 成人看護学Ⅱ 成人看護学Ⅲを履修済みであること

授業計画・学習の内容

学習内容

詳細は実習要項に提示する。

実習期間は2週間とし、9月に一斉に実習を行う。課題学習に基づ

予め履修が望ましい科目

受け持ち患者の疾患や治療については、あらかじめ学習しておきましょう。

看護病態学、解剖学、生理学など。

発展科目 成人看護学実習Ⅱ

教科書 必要時実習の中で指示をする。

成績評価方法と基準 行動目標の達成度を実習記録、対象者との関係、看護の実施場面、カンファレンス等への参加、学生の自己評価等から総合的に評価する。出席を重要視する。

き、実習日程に従い病院で実践的に学習する。詳細はオリエンテーションで説明する。

成人看護学実習Ⅱ

Adult Nursing Practice II

学期 後期 単位 4 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 辻川真弓, 坂口美和, 吉田和枝, 竹内佐智恵, 犬丸杏里(医学部看護学科)、横井弓枝(医学・看護学教育センター) 他

授業の概要 成人期の特性を理解した上で、健康上の問題を持つ対象の健康レベル・状態に応じた看護を臨地実習を通して実践することができる。

学習の到達目標

- 1.成人期の特性を多面的に理解し、看護過程の展開を通して、対象の成長・発達、適応に向けた看護ができる。
- 2.手術などの侵襲に伴う対象の身体的、心理的变化を理解し、回復の促進および社会生活の適応に向けた看護ができる。
- 3.生活の再構築を必要とする対象を支援し、社会生活に適応するよう援助できる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) 成人期の特性の理解と対象のセルフケア能力を促進する看護
- 2) 手術などの侵襲の大きな治療が対象に与える身体的、心理的变化の理解。
- 3) 対象の回復促進および社会生活への適応に向けた看護。

- 4.苦痛をもつ人の特徴を理解し、緩和ケアのあり方を考え実践できる。

受講要件 成人看護学Ⅰ 成人看護学Ⅱ 成人看護学Ⅲを履修済みであること。

教科書 教科書、参考書 必要時実習中に指示する。

成績評価方法と基準 行動目標の達成度を実習記録、患者との関係、看護の実施場面、カンファレンス等への参加、学生自己評価等から総合的に評価する。特に出席は重要視する。

- 4) 終末期にある患者と家族の理解を理解と、緩和ケアの実践。
※受け持ち患者の状況に合わせて看護過程を展開しながら、ケアを実践することに
より上記の学習し、成人期にある患者への看護師の役割を考える。

精神看護学Ⅰ（精神看護学概論）

Psychiatric Nursing I

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 小森照久（医学部看護学科）

授業の概要

精神疾患の病態・治療の概要、および精神看護の機能を理解する。
青年期・成人期のライフサイクルに応じた精神的諸問題について理解する。

学習の到達目標

精神疾患（特に統合失調症と気分障害）の病態・治療について知る。
精神科看護の歴史的背景を知る。
精神看護の機能について考えることができる。

治療の関係を発展させる必要性を知る。

青年期・成人期の精神保健問題を知る。

青年期・成人期の精神保健問題に対する援助のあり方を考えることができる。

発展科目 精神看護学Ⅱ

教科書 授業開講時に提示する

成績評価方法と基準 毎回の小テストおよび期末試験により評価を行う。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.精神の機能と障害、精神科症候学
- 2.ライフサイクルにおける精神的健康と問題
- 3.生活の場（家庭・学校・職場）と精神保健
- 4.精神力動論、日常生活における防衛機制
- 5.精神医療看護の歴史と看護師の役割
- 6.統合失調症の病理と薬物療法、心理社会的療法
- 7.気分障害の病理と薬物療法、心理社会的療法
- 8.不安、ストレス関連障害、身体表現性障害

- 9.物質関連障害、人格障害、器質性精神疾患、てんかん、心身症
- 10.電気痙攣療法、精神療法、芸術療法
- 11.向精神薬、認知行動療法
- 12.治療環境と看護：作業療法、レクリエーション療法
- 13.精神保健福祉法と患者の権利
- 14.社会復帰施設と援助方法
- 15.地域支援の方法：SST、心理教育
- 16.リエゾン精神看護、災害による心の問題、新型うつ病

精神看護学Ⅱ

Psychiatric Nursing II

学期 前期 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 児玉 豊彦（医学部看護学科）、田村裕子（医学部看護学科）

授業の概要 精神に障害をもつ人々および家族への理解を深め、治療関係の成立と発展に基づく精神の健康へ向けての基本的援助を学ぶ。

学習の到達目標

精神科における効果的コミュニケーションについて知ることが出来る
患者-看護師の治療関係の発展について知ることが出来る。
精神疾患、症状に合わせた精神看護ケアについて知ることが出来る。

地域で暮らす精神障害者への援助をするための知識と技術を知ることが出来る。

精神科における人権の尊重と倫理的配慮について知ることが出来る

精神科看護の歴史的背景を知ることが出来る。

教科書 授業中に必要資料を配布する

成績評価方法と基準 毎回の小テスト30%、期末試験70%

授業計画・学習の内容

学習内容

- ①精神障害という病の捉え方。精神看護の目標と看護師の役割。
- ②患者-看護師関係における
- ③コミュニケーション法・演習・発表・意見交換
- ④精神看護におけるアセスメント
- ⑤セルフケア理論
- ⑥統合失調症をもつ人とその家族へのケア（急性期）
- ⑦統合失調症をもつ人とその家族へのケア（回復過程におけるケア）

- ⑧気分障害をもつ人とその家族へのケア
- ⑨パーソナリティ障害をもつ人とその家族へのケア
- ⑩精神障害者の家族とのかわり
- ⑪精神障害者への社会復帰支援
- ⑫精神科領域での看護の展開方法
- ⑬実際の看護計画の立案
- ⑭精神保健医療福祉の制度と社会資源
- ⑮精神科領域における権利擁護とリスクマネジメント

精神保健看護論

Mental health nursing

学期 前期 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL

担当教員 小森照久（医学部看護学科）、児玉豊彦（医学部看護学科）、長徹二

授業の概要 近年ストレスは増大傾向にあり、こうした状況の中で、人々の精神的健康の維持・増進を図り、様々なストレス反応や不適応状態に対応する精神保健の重要性は高まっている。学校、職場、地域での精神保健の問題、自殺予防、危機介入について学ぶ。

学習の到達目標

- 1.精神保健の問題を知る。
- 2.精神保健の問題への対応を知る。

- 3.家庭における精神保健の問題を学ぶ。
- 4.学校における精神保健の問題を学ぶ。
- 5.職場における精神保健の問題を学ぶ。
- 6.地域における精神保健の問題を学ぶ。
- 7.自殺予防について学ぶ。

教科書 授業で提示する。

成績評価方法と基準 レポート70%、小テスト30%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.精神保健の問題と対応
- 2.家庭における精神保健の問題
- 3.学校における精神保健の問題
- 4.職場における精神保健の問題

- 5.地域における精神保健の問題
- 6.危機介入
- 7.自殺予防
- 8.精神障害者へのスティグマの歴史と今後の課題

精神看護学実習

Clinical Practice in Psychiatric Nursing

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 小森照久（医学部看護学科）、児玉豊彦（医学部看護学科）、田村裕子（医学部看護学科）

授業の概要 精神看護学の知識を活用し、自己洞察力深め、対象の理解と看護活動および精神保健活動を実践する能力を習得する。

学習の到達目標

受け持ち患者を全人的に理解し、セルフケアをアセスメントできる。
患者の精神状態やその背景を理解し、患者の気持ちに寄り添った関わりができる。
効果的なコミュニケーションを通じて、患者－看護師間系を発展させることが出来る。
患者が今抱えている問題や起こりうるリスクを明確にし、看護過

程の展開ができる。
患者の健康的な側面を評価し、それを活かすできる。
治療環境・心理社会的環境が患者に及ぼす影響を理解できる。
精神科医療の特徴を説明できる。
プロセスレコードを活用し自己理解を深めることが出来る。
医師、看護師、その他の職種によるチーム医療の必要性について理解できる。

教科書 各実習施設にて配布

成績評価方法と基準 実習参加状況100%

授業計画・学習の内容

学習内容

- I. 事前学習
- II. 実習の展開
- 1.患者との適切なコミュニケーションを通じた信頼関係の形成
- 2.多様な視点から全人的な患者の理解と適切なアセスメント
- 3.患者に合った看護計画の立案と適切な展開
- 4.患者との関わりを通じた自己洞察
- 5.地域における精神障害者の理解と社会復帰への支援

- 6.精神科医療チームの協働関係
 - 7.精神障害者のリハビリテーション
 - III. 学びの統括（グループワーク）
- 実習場所
三重大学医学部附属病院精神神経科病棟
三重県立こころの医療センター病棟・デイケア
社会復帰施設「夢の郷」

小児看護学Ⅰ

Pediatric Nursing I

学期 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 ○仁尾かおり（医学部看護学科），村端真由美（医学部看護学科），鈴木敦子（四日市看護医療大学 看護学部）

授業の概要 子ども観や小児看護の歴史の変遷、小児看護の機能と役割の理解をふまえて、子どもの健康を維持するための理論、小児保健行政の動向と対策、小児保健活動の実践について学ぶ。

学習の到達目標

1. 小児看護の理念・目的・目標と役割について説明することができる。
2. 小児各期の成長と発達および発達課題について述べるができる。
3. 小児保健行政の動向と対策、小児保健活動の実践について説明できる。
4. 子どもの看護を実践するとき用いる基礎看護技術の基本を理解し、実施することができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 子どもの健康と医療
2. 子どもの保健衛生統計
- 3～4. 成長と発達，子どもの身体的成長
- 5～6. 子どもの機能的発達
- 7～8. 子どもの基礎看護技術

予め履修が望ましい科目 基礎看護学に関する科目

発展科目 小児看護学Ⅱ，小児看護学Ⅲ，小児看護学実習，統合実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

編集 松雄宣武 濱中喜代
新体系 看護学全書
小児看護学① 小児看護学概論 小児保健
小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護
メヂカルフレンド社

成績評価方法と基準 定期試験90%、レポート内容10%

小児看護学Ⅱ

Pediatric Nursing II

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 ○村端真由美（医学部看護学科），仁尾かおり（医学部看護学科），他

授業の概要 小児期に特有の健康問題や小児期によくある健康問題を理解し、病気や入院が小児と家庭に及ぼす影響を考え、家庭的・地域社会的背景をふまえた小児看護を実践する方法を学ぶ。

学習の到達目標

1. 小児期に特有の健康問題や小児期によくある健康問題を理解し、説明することができる。
2. 疾病・障害・入院が子どもと家族に及ぼす影響について、具体的に述べることができる。
3. 疾病や障がいをもつ子どもと家族への看護について理解し、具体的に述べるができる。
4. 小児がんをもつ子どものトータルケアについて理解し、具体的に

に述べるができる。

予め履修が望ましい科目 小児看護学Ⅰ

発展科目 小児看護学Ⅲ，小児看護学実習，統合実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

編集 松雄宣武 濱中喜代
新体系 看護学全書
小児看護学① 小児看護学概論 小児保健
小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護
メヂカルフレンド社

成績評価方法と基準 定期試験

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 急性疾患をもつ子どもの看護
2. 医療処置を受ける子どものプレパレーション
3. 先天障がいをもつ子どもの看護
4. ハイリスク新生児の看護
5. 小児外科疾患の特徴と最新医療
6. 小児慢性疾患の特徴と治療
7. 慢性疾患をもつ子どもの看護

8. 重症心身障害の医療
9. 重症心身障害児の看護
10. 小児保健医療の国際協力
11. 小児がんを持つ子どもへのトータルケア
12. 小児看護専門看護師の役割と機能
13. 子どもと家族への在宅復帰への支援
14. 特別支援学校における訪問教育
15. 予後不良の子どもの看護

小児看護学III

Pediatric Nursing III

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 1 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL
担当教員 ○村端真由美 (医学部看護学科), 仁尾かおり (医学部看護学科, 本田直子 (医学部看護学科)

授業の概要 小児期に特徴的な健康問題が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、成長発達や家族の心理的特徴、家庭的・地域社会的背景を踏まえた、子どもの本来の発達やQOLを保障するための具体的な看護について学ぶ。

学習の到達目標

1. 小児期に特有の疾患やよくある疾患や症状の特徴について理解し、説明することができる。
2. 新生児・乳児・幼児前期・幼児後期・学童期の子どもの看護について理解し、説明することができる。
3. 先天障がい・急性疾患・慢性疾患をもつ子ども、予後不良の子どもの看護について理解し、説明することができる。
4. 事例に基づき、疾患に関する一般的知識と対象に対する看護過程が展開できる。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス、気管支喘息患児の看護
2. 気管支喘息患児の看護
3. グループディスカッション
4. ～7. 事例検討 (事例に基づく看護過程の発表)

程が展開できる。

受講要件 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱを履修済であること。

予め履修が望ましい科目 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ

発展科目 小児看護学実習, 統合実習Ⅰ・Ⅱ

教科書 「小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保 他, 医学書院 「小児臨床看護各論」奈良間美保 他, 医学書院

成績評価方法と基準

出席回数2/3以上であること
定期試験80%, 出席状況5%, 個別学習レポート内容5%, グループ学習レポート内容10%

小児看護学実習

Clinical Practices in Pediatric Nursing

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL
担当教員 ○村端真由美 (医学部看護学科), 仁尾かおり (医学部看護学科)

授業の概要 小児看護学の知識を踏まえて、対象の発達段階・ニーズに応じた看護を実践する能力を養う。望ましい小児の生活環境について理解し、必要な入院環境の調整について学び、小児保健行政の実際と保健医療チームの一員としての看護の役割を学ぶ。

学習の到達目標

1. 小児各期の年代とその特徴について説明できる。
2. 受け持ち患児の身体的・精神的・社会的成長発達段階の特徴と発達課題について説明できる。
3. 年代に合わせたコミュニケーション手段を用いて関係作りを行うことができる。
4. 患児の身体的状況について情報収集ができる。
5. 患児および家族の精神的・社会的状況について情報収集できる。
6. 成長発達段階と病状をふまえた日常生活援助が実践できる。
7. 成長発達段階と病状をふまえた看護が実践できる。
8. 家族のニーズに応じた援助が実践できる。
9. 年代にふさわしい生活環境のための援助ができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

実習内容
小児病棟において、1～2名の患児を受け持ち、看護過程を展開する。
場所
1. 三重大学医学部附属病院小児病棟

10. 安全で清潔な入院環境のための援助ができる。
11. 小児に適応されている小児保健制度について説明できる。
12. 保健医療福祉チームの連携と看護の役割について説明できる。

受講要件 小児看護学Ⅰ, 小児看護学Ⅱ, 小児看護学Ⅲを履修済であること。

予め履修が望ましい科目 それまでに開講しているすべての必修科目

発展科目 統合実習Ⅰ・Ⅱ

教科書 「小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保 他, 医学書院 「小児臨床看護各論」奈良間美保 他, 医学書院

成績評価方法と基準

実習内容75%, 実習記録25%とする。
出席状況・実習記録提出状況を考慮する。

2. 三重大学医学部附属病院周産母子センター新生児・分娩病棟
実習日程
第1週: 小児病棟受け持ち患児看護, 中間反省会
第2週: 小児病棟受け持ち患児看護, NICU見学, 臨床講義, 総合反省会

母性看護学Ⅰ

Maternal Nursing Ⅰ

学期 前期 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 新小田春美（医学部看護学科）、山田奈央（医学部看護学科）、他

授業の概要

1. 女性のライフサイクルにおける、心理、身体、社会的特徴と健康問題について学習する。
2. 社会における女性の位置、女性や子供の健康に影響を及ぼす要因について学習する。
3. 周産期のうち、妊娠期に焦点をあて、身体・心理・社会的側面から理解し、ウェルネスを高めるために必要な看護の視点および介入方法を学習する。

学習の到達目標

1. 人間の発生から誕生までのプロセスの中で、母性看護における生命倫理について考察できる。
2. セクシャリティの多様性を認識し、人間のアイデンティティの構成要素であることを理解できる。

3. 女性のライフステージ各期における心理、身体、社会的特徴とその看護について知識を得る。
4. 妊娠期（妊婦・胎児）の身体・心理・社会的特徴とその看護について知識を得る。

受講要件 看護学科2年生であること

教科書

横尾京子編 ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本 メディカ出版 2009

石村由利子 母性看護技術 医学書院

成績評価方法と基準 出席状況、レポート等提出物、定期試験結果より総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.母性看護の基本となる概念
- 2.母性看護と歴史的変遷
- 3.思春期の健康問題とケア
- 4.成熟期の健康問題とケア
- 5.老年期の健康問題とケア
- 6.母性看護と現代医療(不妊治療 代理母)
- 7.講演：デートDV（ドメスティック・バイオレンス）
- 8.リプロダクティブヘルスケア

- 9.妊娠の成立
- 10.妊娠による母体の変化とマイナートラブル
- 11.妊娠期のケア
- 12.妊婦と胎児のアセスメント
- 13.妊婦と胎児のアセスメント
- 14.ハイリスク妊娠とケア
- 15.講演：妊娠糖尿病とケア
- 16.定期試験

母性看護学Ⅱ

Maternal Nursing Ⅱ

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 井関敦子（医学部看護学科）、南田智子（非常勤講師）、他

授業の概要

1. 母性のライフサイクルのうち、周産期の分娩・産褥・新生児期に焦点をあて、母性の特性を身体・心理・社会的側面から理解し、ウェルネスを高めるために必要な看護の視点および介入方法を学習する。
2. 分娩期・産褥期・新生児に特徴的な健康問題に関する病理機序、検査等について学習する。

学習の到達目標

1. 分娩、産褥期および新生児の生理的特徴を理解し適切なケアを提供するために必要な知識を習得する。

2. 習得した知識を活用・統合し、妊娠・分娩・産褥期、新生児期の事例について看護過程の展開ができる。

受講要件 母性看護学Ⅰを履修済であること

教科書

①横尾京子編 ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本 メディカ出版 2014

②石村由利子編 母性看護技術 医学書院 2013

成績評価方法と基準 講義・演習の参加、レポート提出状況、グループワーク活動と発表、定期試験により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス 成熟期の健康と保健行動
- 2-3. 分娩機序、分娩経過、分娩期の看護
5. 異常分娩
6. 産褥の生理と退行性変化
7. 産褥の生理と進行性変化
8. 産婦の社会心理的特性と母親役割獲得過程
9. 母乳育児支援

10. 分娩が新生児に及ぼす影響・新生児の生理
11. 新生児のケアと胎外生活への適応
12. 異常新生児と家族へのケア
13. 周産期ケアに関する講演
14. 新生児のケア（沐浴演習）
15. 妊娠・分娩・産褥期、新生児期の看護過程（演習）グループワークの発表
16. 定期試験

母性看護学実習

Practicum in Maternal Nursing

学期 後期 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 新小田春美 (医学部看護学科), 井関敦子 (医学部看護学科), 山田奈央 (医学部看護学科), 賤川葉子 (医学部看護学科)

授業の概要 母性の特徴を身体・心理・社会的側面から理解し、性と生殖に関する形態・機能・病態、および母子とその家族への看護ケアと看護過程の実際について学ぶ。

学習の到達目標

【妊娠期】

1. 妊娠により女性に生じるさまざまな変化とそれを体験している妊婦について学習した知識を、事例を通して理解するとともに、個別性に配慮した看護過程を展開できる。

2. パートナーをはじめとする妊婦の家族などの支援について、学習した知識を事例を通して理解するとともに、個別性に配慮した看護過程を展開できる。

【分娩期】

1. 分娩によって生じる心身の変化に対して産婦・胎児がどのように適応しているか情報収集を行い、産婦・胎児がおかれている状況を理解することができる。

2. 産婦・胎児がおかれている状況に合致した看護ケアについて、その根拠と方法を理解し、その一部を実施できる。

【産褥期・新生児期】

1. 対象褥婦の産褥経過について正常な経過可否を判断するための観察の方法を理解し、指導者とともに実施できる。

2. 褥婦の退行性変化および進行性変化を理解し、これを促すための看護過程を展開できる。

3. 早期新生児期にある児が胎外生活に適応するための変化の過程を観察する方法がわかり、胎外生活適応のための看護ケアを指導者とともに実施できる。

4. 新たな家族形成を行う家族の役割適応状態を把握し、これを促す援助を指導者とともに実施できる。

受講要件 母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱのいずれも履修済であること。

教科書

病気がみえる10産科第2版, メディックメディア, , メディカ出版。

成績評価方法と基準 出席状況, 実習内容, グループカンファレンス, 実習記録物により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

実習方法

1) 実習場所

- ・三重大大学医学部附属病院7階 (母性棟) および産婦人科外来
- ・津市内診療所

2) 実習内容

○産婦人科外来実習

・妊婦健康診査: 見学, 一部実施 (1例以上)

・妊婦への面接: 実施 (1例以上)

○母性棟実習

・入院中の褥婦・新生児, あるいは妊婦の看護: 受持ち1例以上

・産婦の看護: 事例があれば1例

○集団指導見学

助産論Ⅰ

Fundamental Midwifery Ⅰ

学期 前期 **単位** 2 **対象** 看護学科助産学課程3年生 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 井関敦子 (医学部看護学科), 他 (非常勤)

授業の概要 助産および助産師の歴史の変遷、周産期医療の現状、助産師の責務、国内外の母子保健の実情を学ぶことにより、助産師に必要な素養を養う。

学習の到達目標

1. 助産の理念、助産および助産師の歴史、助産師の職務と社会的責任、助産にまつわる倫理、助産業務管理と法令について述べることができる。

2. 国際社会における母子保健の現状と助産師の役割について述べるができる。

3. 日本の地域社会において助産師に求められる役割について述べるができる。

4. 日本の周産期医療ならびに母子保健をとりまく現状と課題を考察することができる。

受講要件 2年次までの必修科目の単位を全て習得していること。母性看護学Ⅰおよび母性看護学Ⅱの成績が7以上であること。

発展科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 助産論Ⅱ

教科書

①助産学講座 1~10 医学書院

②助産師業務要覧 (基礎編 実践編) 日本看護協会出版会

成績評価方法と基準 授業参加状況、課題学習、定期試験により総合的に評価する

授業計画・学習の内容

学習内容

1.助産の概念

2.助産の文化的側面・歴史

3.母子保健施策の変遷

4.助産師と職業倫理

5.助産師制度と助産師教育

6.地域母子保健における助産師の役割

7.国際社会における母子保健問題と助産師の役割

8.助産管理とは

9.助産師の組織的活動

10.助産業務管理と関連法規

11.病院での助産業務管理

12.助産所での助産業務管理と開業助産師の地域での活動

13.開発途上国における母子保健の現状

14.個人課題発表

15.母子保健指標とその推移

16.定期試験

助産論Ⅱ

Fundamental Midwifery II

学期 後期 **単位** 3 **対象** 看護学科助産学課程専攻4年生 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習, 実技
授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 新小田春美 (医学部看護学科)

授業の概要 助産学の臨床実習での学びを生かし、助産の機能および助産師の役割について考察を深める。

学習の到達目標

1. 臨床現場で助産師に求められる保健指導技術を習得し、実践できる。
2. 母子保健をとりまく現状と課題を考察し、助産師が果たすべき役割について述べることができる。
3. 助産学実習を通して学習した助産業務管理について考察できる。
4. 地域における子育て支援活動の中で、助産師の果たす役割について考察できる。

受講要件

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1-7.妊産婦への保健指導 (演習)
- 8-12. 母性保健をとりまく現状と問題 (個人課題発表)

助産学課程専攻4年生学生であること。
助産学実習Ⅰ・Ⅱを履修し単位の修得見込みであること。

教科書

助産学講座1～10, 医学書院
助産師業務要覧 第2版 実践編 基礎編, 我部山キヨ子, 日本看護協会 出版会
助産師のためのフィジカルイグザミネーション, 我部山キヨ子, 医学書院
今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第3版, 北川真理子, 南江堂

成績評価方法と基準 参加状況、提出物、定期試験により総合的に評価する。

助産診断学Ⅰ

Midwifery Diagnostics I

学期 前期 **単位** 3 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 新小田春美 (医学部看護学科)

授業の概要 妊娠期・分娩期の助産の実践に必要な知識を教授し、それを活用して助産診断ができる知識と技術を習得する。

学習の到達目標

1. 妊娠期の助産診断に必要な知識をもとに、妊婦及び胎児の健康度をアセスメントできる。
2. 分娩期の助産診断に必要な知識をもとに、分娩経過および予後のアセスメントができる。
3. 妊娠・分娩期の助産過程について、事例をもとに展開できる。

受講要件 2年次までの必修科目の単位を全て習得していること。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 助産診断とは
- 2-7. 妊娠期の助産診断に必要な知識

母性看護学Ⅰおよび母性看護学Ⅱの成績が7以上であること。

発展科目 助産診断学Ⅱ, 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

教科書

病気がみえるvol.10 産科 第3版, MEDIC MEDIA
最新産科学正常編, 荒木勤, 文光堂
最新産科学異常編, 荒木勤, 文光堂
助産学講座 1～10, 医学書院

成績評価方法と基準 出席状況、提出物、定期試験結果より、総合的に判断する。

- 7-14. 分娩期の助産診断に必要な知識
15. 妊娠～分娩期の助産過程の展開
16. 定期試験

助産診断学Ⅱ

Midwifery Diagnostics II

学期 前期 **単位** 3 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 井關敦子 (医学部看護学科)

授業の概要 産褥期の女性および・新生児・乳児の身体・心理・社会的特徴に関する知識および必要な支援方法を習得する。

学習の到達目標

1. 産褥期の助産診断に必要な知識をもとに、産褥経過および予後のアセスメントすることができる。
2. 新生児期の助産診断に必要な医学的知識をもとに、胎外生活への適応状況および予後のアセスメントすることができる。
3. 産褥期・新生児の助産診断について事例展開することができる。

受講要件 2年次までの必修科目の単位を全て習得していること。母性看護学Ⅰおよび母性看護学Ⅱの成績が7以上であること。

発展科目 助産技術学Ⅰ・Ⅱ，助産実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

教科書

助産学講座 1～10 医学書院
最新産科学 正常編・異常編 文光堂

成績評価方法と基準 授業参加状況、課題提出状況、定期試験等から総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.産褥・新生児・乳児の助産診断・助産過程とは
- 2-5.産褥期の助産診断に必要な知識
- 6-9.新生児期の助産診断に必要な知識

- 10-11.乳児期の助産診断に必要な知識
- 12-13.産褥期の事例と助産診断
- 14-15.新生児期・乳児期の事例と助産診断
16. 定期試験

助産技術学Ⅰ

Midwifery Technique I

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 新小田春美 (医学部看護学科)，井關敦子 (医学部看護学科)，山田奈央 (医学部看護学科)，賤川葉子 (医学部看護学科)
他

授業の概要 助産学実習に向け、ハイリスク妊産婦および新生児へのケアに必要な医学的知識を習得する。

学習の到達目標

1. ハイリスク妊産婦のアセスメントに必要な医学的知識を得る。
2. ハイリスク新生児のアセスメントに必要な知識を得る。
3. 新生児の救急蘇生の意義を理解し、新生児蘇生のシミュレーションを実施できる。

受講要件 助産学課程4年生であること。母性看護学実習を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目 助産診断学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 助産学実習Ⅱ・Ⅲ

教科書

最新産科学正常編，荒木勤，文光堂
最新産科学異常編，荒木勤，文光堂
正常分娩の助産術，進純郎・堀内茂子，医学書院
母性看護技術，石村由利子，医学書院
マタニティ診断ガイドブック 第4版，我部山キヨ子，医学書院

成績評価方法と基準 参加状況，レポート内容から総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1-2.正常妊娠
- 3-4.異常妊娠
- 5-6.胎児の異常

- 7-8.周産期のメンタルヘルス
- 9-10.分娩監視装置と胎児モニタリング
- 11-12.新生児の異常（ハイリスク新生児）
- 13-15.新生児の蘇生

助産技術学Ⅱ

Midwifery Technique II

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 4年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 新小田春美（医学部看護学科），井關敦子（医学部看護学科），山田奈央（医学部看護学科），賤川葉子（医学部看護学科）

授業の概要 助産の実践に必要な助産技術の理論および実践方法を学ぶために、主に体験型学習を行う。

受講要件 助産学課程4年生であり母性看護学実習を履修済みであること。

発展科目 助産学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

正常分娩の助産術, 進純郎・堀内茂子, 医学書院
母性看護技術, 石村由利子, 医学書院
マタニティ診断ガイドブック 第4版, 我部山キヨ子, 医学書院

成績評価方法と基準 授業・演習参加状況, レポート, 技術チェックの結果を総合的に評価する。

学習の到達目標

1. 助産学実習に向けて、妊娠・分娩・産褥・新生児に関する基本的な助産技術を習得する。
2. 助産学実習に向けて、妊娠・分娩・産褥・新生児に関する基本的な保健指導技術を習得する。
3. 周産期の母子の健康増進と、妊娠婦の心身の健康を理解するのに必要な知識を習得する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.妊娠期の保健指導（栄養指導，日常のセルフケア，出産準備）
- 2-3.産褥期の保健指導（栄養指導，退院指導，家族計画指導）
- 4-5.産褥期の観察とケア（退行性変化）
- 6-7.産褥期の観察とケア（進行性変化）

- 8-9.出生直後の新生児の観察とケア
- 10-11.妊娠期～産褥期・新生児の助産過程とその展開方法
- 12.1ヶ月健康診査でのケア
- 13.家庭訪問（褥婦と新生児の観察方法）
- 14-15.分娩介助技術とケア

助産学実習Ⅰ

Practicum in Midwifery I

単位 1 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習, 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 新小田春美（医学部看護学科），井關敦子（医学部看護学科）

授業の概要 女性のライフステージのうち、思春期から成熟期に焦点をあて、女性自身がセルフケア能力を高めるための援助方法について考察する。

学習の到達目標

1. 思春期から成熟期の女性の特徴を踏まえた健康支援方法を学ぶ。
2. 対象に合わせた保健指導の展開と評価方法を学ぶ。

受講要件 2年次までの必修科目の単位を全て習得していること。母性看護学Ⅰおよび母性看護学Ⅱの成績が7以上であること。

発展科目 助産学実習Ⅱ・Ⅲ

教科書

最新産科学正常編, 荒木勤, 文光堂
最新産科学異常編, 荒木勤, 文光堂
助産学講座 1～10, 医学書院
助産師業務要覧 第2版 実践編 基礎編, 我部山キヨ子, 日本看護協会出版会
正常分娩の助産術, 進純郎・堀内茂子, 医学書院

成績評価方法と基準 カンファレンスや準備への参加状況, 記録物, 実習態度等から総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.健康教育とは

- 2.健康教育の方法
- 3.健康教育の実施と評価

助産学実習Ⅱ

Practicum in Midwifery II

学期 前期 **単位** 2 **対象** 助産学課程4年生 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 実習

担当教員 新小田春美（医学部看護学科），井関敦子（医学部看護学科），山田奈央（医学部看護学科），賤川葉子（医学部看護学科）

授業の概要

1. 助産学実習Ⅰをふまえ、より質の高い助産診断技術と助産技術を学ぶ。
2. 助産業務や助産管理の実際から日本の周産期医療の実態と助産業務のあり方に学ぶ。

学習の到達目標

1. 助産学実習Ⅰで習得した助産技術を用いて、より個別的で実践的な助産を実施できる。
2. 妊娠・分娩・産褥期・新生児期を通じて、各種制度や法律の活用について説明できる。
3. 助産管理のシテから、産科病棟、助産所における業務について考察できる。
4. ハイリスク事例を通して、助産師が果たす役割について考察できる。

受講要件 助産学課程専攻の学生であり、助産学実習Ⅰを履修済であること。

授業計画・学習の内容

学習内容 助産学実習要項および実習手引きを参照

発展科目 助産論Ⅱ

教科書

最新産科学正常編，荒木勤，文光堂
最新産科学異常編，荒木勤，文光堂
助産師業務要覧 第2版 実践編 基礎編，我部山キヨ子，日本看護協会出版会
正常分娩の助産術，進純郎・堀内茂子，医学書院
助産師のためのフィジカルイグザミネーション，我部山キヨ子，医学書院
今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第3版，北川真理子，南江堂
マタニティ診断ガイドブック 第4版，我部山キヨ子，医学書院

成績評価方法と基準 助産課程の授業で使用した教科書，参考文献，講義資料，自己学習資料を十分に活用すること。実習態度、実習記録物、その他から総合的に評価する。

助産学実習Ⅲ

Practicum in Midwifery III

学期 前期 **単位** 4 **対象** 医学部看護学科 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた

授業，グループ学習の要素を加えた授業，キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 新小田春美，井関敦子，山田奈央，賤川陽子（医学部看護学科）

授業の概要 助産学実習Ⅰで培った基本的助産技術を用いて、対象に応じた助産技術を用いる能力を養う。さらに助産業務や助産管理の実際から助産師活動の在り方について探求する。

学習の到達目標 1. 助産に関する知識を応用し、臨床現場での事例の個性に合わせた助産診断、助産の実践および助産過程の展開ができる。

受講要件 助産学課程専攻4年生であり、助産診断学Ⅰ・Ⅱ，助産

論Ⅰ，助産技術学Ⅰ・Ⅱを履修済であること。

発展科目 助産論Ⅱ

教科書 助産学関連の講義で使用した教科書，参考文献，講義資料，自己学習資料を十分に活用すること。

成績評価方法と基準 実習態度，実習内容，記録によって総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容 助産学実習Ⅰ・Ⅱ要項および実習の手引き参照

公衆衛生看護学Ⅰ

Public Health Nursing I

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6, 7 **単位** 3 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 畑下博世 (医学部看護学科), 西出りつ子 (同)

授業の概要 地域に生活する個人、家族、集団全てを対象とし、健康レベルと地域特性に応じた健康の保持増進や疾病発生および悪化の予防を支援するための看護の基礎を学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 公衆衛生看護の活動領域と対象の特徴について説明できる。
- 2) 生活者である対象への健康支援の意義について説明できる。
- 3) 保健活動における法律や施策の重要性について説明できる。
- 4) 健康の保持増進に向けた公衆衛生看護の役割について説明できる。
- 5) 国際社会における保健の意義と看護の役割について説明できる。
- 6) 保健活動に必要な最新の情報を調べることができる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 産業保健, 学校保健, 国際看護学

教科書 1) 「最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論」編集 金川克子 メヂカルフレンド社, 2) 「最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動」編集 金川克子 メヂカルフレンド社, 3) 「最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②心身の健康問題と保健活動」編集 金川克子 メヂカルフレンド社, 4) 「国民衛生の動向」2015/2016年厚生統計協会

成績評価方法と基準 定期試験, 出席状況, 授業態度を総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) オリエンテーション, 公衆衛生と公衆衛生看護学
- 2) 公衆衛生看護の歴史
- 3) 日本の保健医療福祉, プライマリヘルスケア
- 4) ヘルスプロモーション, 日本の健康増進対策
- 5) 公衆衛生看護と家族看護(1)
- 6) 公衆衛生看護と家族看護(2)
- 7) 公衆衛生看護と家族看護(3)

- 8) 対象別保健活動(1): 成人・高齢者保健
- 9) 対象別保健活動(2): 母子保健
- 10) 学校保健と産業保健
- 11) 公衆衛生看護と政策
- 12) 多文化共生
- 13) 疾病対策(1): 障害者対策
- 14) 疾病対策(2): 精神保健
- 15) 疾病対策(3): 感染症対策, 歯科保健

公衆衛生看護学Ⅱ

Public Health Nursing II

学期 前期 **開講時間** 水 1, 2, 3, 4 **単位** 4 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 西出りつ子 (医学部看護学科), 畑下博世 (同)

授業の概要 地域に生活する個人、家族、集団全てを対象として、健康レベルや地域特性に応じた健康の保持増進を図り、疾病の発生および悪化を予防するための基礎的な看護活動の方法と実際を学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 地域・集団の特性と健康レベルについて分析し、説明することができる。
- 2) 対象(集団・家族・個人)の健康レベルに合わせ、健康の保持増進を図るための方法を選択できる。
- 3) 対象(集団・家族・個人)の特性に合わせた介入方法を工夫することができる。
- 4) グループワークにおける課題の話し合い等において、自分の役割を遂行できる。
- 5) 対象の特性を考慮し、プレゼンテーションを工夫することができる。

きる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 産業保健, 学校保健, 国際看護学

教科書 1) 「最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」編集 村嶋幸代 メヂカルフレンド社, 2) 「最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②心身の健康問題と保健活動」編集 金川克子 メヂカルフレンド社, 3) 「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」編集 平野かよ子 メヂカルフレンド社, 4) 「国民衛生の動向」2014/2015年厚生統計協会

成績評価方法と基準 定期試験, グループワークの学習状況と発表内容, 出席状況を総合して評価する

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) オリエンテーション, 地域保健における保健活動
- 2) 公衆衛生看護管理
- 3) 健康教育(1): 健康行動と行動変容
地域保健法と保健行政
- 4) 健康教育(2): 健康教育の現状と実施計画
保健所保健師活動の実際
- 5) 成人保健活動
- 6) 難病対策と保健師活動
- 7) 母子保健活動

- 8) 健康教育(3): 健康教育の実践
- 9) 地域アセスメント(1)
- 10) 高齢者保健活動
- 11) 地域アセスメント(2)
- 12) 地区組織化活動, 地域ヘルスケアシステムづくり
地域精神保健活動
- 13) 地域アセスメント(3)
- 14) 家庭訪問
- 15) 地域アセスメント(4), 地域特性を活かした保健活動

保健医療福祉行政論

Health and Welfare Administration

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 村瀬 博（非常勤講師），中道 和久（同），小野田 正晴（同）

授業の概要 国民の生活実態に即して、保健・医療だけでなく、社会保障・社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。さらに、保健・医療・福祉の法制度の現状と課題についての認識を得るとともに、生活問題把握の視点も修得する。

学習の到達目標

国民の健康が保障されるための保健・医療・福祉の制度の概要を説明できる。

援助対象者に必要な社会資源を考えることができる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 地域診断学実習, 地域看護学実習

教科書 藤内修二 他 著：標準保健師講座 別巻1保健医療福祉行政論 第3版、医学書院、2012

成績評価方法と基準 出席、レポートの総合評価

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.保健医療福祉行政のめざすもの～社会保障制度の体系から～
- 2.生活保護制度と課題
- 3.保健・医療保障制度と課題
- 4.わが国の保健医療福祉制度の変遷（1）
- 5.わが国の保健医療福祉制度の変遷（2）
- 6.保健医療福祉行政の仕組み
- 7.児童福祉・母子福祉と課題

- 8.障害者福祉と課題
- 9.高齢者の介護問題と介護保険
- 10.ケアマネジメントの現状と課題
- 11.社会福祉実践とその方法
- 12.社会福祉基礎構造改革と社会保障・社会福祉
- 13.社会福祉演習
- 14.社会福祉演習
- 15.まとめ

保健情報統計学

Health Informatics and Statistics

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 谷村 晋（医学部看護学科）

授業の概要 保健と情報科学との関係について理解を深め、保健活動及び健康管理におけるコンピュータの利用や保健医療情報ネットワークシステムの現状と将来について学習する。さらに、地域における保健活動や健康管理に必要な情報検索、情報の収集・分析方法及び統計的方法についての基礎を学習する。

学習の到達目標

地域保健活動における情報科学及び統計学の知識・技術の利用について具体的に説明ができる。
統計的解析方法を用いて練習課題を解くことができる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 情報科学基礎

発展科目 地域保健・疫学

教科書 中野正孝：看護系の統計調査入門、真興交易医書出版部

成績評価方法と基準 出席状況、授業毎のレポート及び定期試験により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.保健と情報科学
- 2.保健活動とコンピュータ
- 3.保健医療情報システム
- 4.統計学の基礎
- 5.保健統計と健康指標
- 6.統計調査方法
- 7.一変数を整理する
- 8.二変数間の関係を見る

- 9.標本調査法
 - 10.確率と標本分布
 - 11.検定と推定の考え方
 - 12.平均値に関する検定と推定
 - 13.相関係数に関する検定と推定
 - 14.各種パラメトリック検定法
 - 15.ノンパラメトリック検定法
- ※ 受講生との協議等により、講義内容を変更することもある。

地域保健・疫学

Community Health and Epidemiology

学期 前期 **開講時間** 月 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 谷村 晋 (医学部看護学科)

授業の概要 地域住民の健康障害の予防・健康増進・環境保全を図るために地域保健学の概要を学ぶ。さらに、保健活動を展開していく上で、基礎となる健康問題の発見・分析・解決に必要な疫学的方法とともに、保健・医療・福祉における統計資料や調査データ等の収集・分析に必要な多変量統計学について学習する。

学習の到達目標

国民衛生の動向を具体的に示すことができる。
看護における保健活動の意義と方法について説明することができる。
疫学の基礎的な理論と方法、さらに地域保健活動への疫学の応用を説明することができる。
健康データの解析方法としての多変量解析の意義を述べるこ

とができる。

受講要件 保健情報統計学と関連付けて履修すること。

予め履修が望ましい科目 情報科学基礎

発展科目 地域看護学実習

教科書

野尻雅美編：保健学―疫学と保健統計学、真興医書出版部
厚生統計協会編：国民衛生の動向

成績評価方法と基準 定期試験80%、出席状況（レポートによる確認）20%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 健康と地域保健
2. 疫学の基礎
3. 疫学調査方法
4. 健康指標と健康水準(1)
5. 健康指標と健康水準(2)
6. 環境と健康
7. 感染と健康
8. 健康管理と方法

9. 母子の健康管理
 10. 成人の健康管理
 11. 高齢者の健康管理
 12. 精神の健康管理
 13. 学校・職場における健康管理
 14. 多変量統計学の基礎
 15. まとめ
- ※ 受講生との協議等により、講義内容を変更することもある。

国際看護学

International Nursing

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 畑下博世 (医学部看護学科), 大西和子 (非常勤講師), 佐藤芙佐子 (非常勤講師) 他

授業の概要 各国の看護・保健・医療・福祉の概要を理解し、さらに国内外での看護に関連する現象を文化や価値観を踏まえて理解することにより、国内外における国際看護の課題や将来展望について考えるための基礎を学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 国際的視点から看護学を比較する意義を説明できる。
- 2) 各国の看護に関連する現象を文化や価値観を考慮しながら説明できる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜提示する。

成績評価方法と基準 出席状況、グループ発表、資料、ディスカッションの参加状況について総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 講義、演習の他、DVDなどの視聴覚教材を用いる。
- 1) 国際保健学、国際看護学の主要概念、国際保健・医療・福祉システムの国際比較と課題
 - 2) 人間の安全保障、ミレニアム開発目標と国際協力
 - 3) リプロダクティブヘルス、母子保健の国際比較

- 4) 感染症看護の国際比較
- 5) 生活習慣病の国際比較
- 6) 看護教育制度の国際比較
- 7) 国際看護活動の国際比較
- 8) 国内での国際看護活動の実例

災害看護学

Disaster Nursing

学期 後期 開講時間 木 7, 8, 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 西出りつ子（医学部看護学科），畑下博世（同），小森照久（同），磯和勲子（同），新小田春美（同）他

授業の概要 災害による社会や地域の人々の生活・健康への影響と災害に関する社会のしくみや対応について理解し、災害各期における人々の健康や生活ニーズに応じた支援活動を行うための看護の基礎を学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 災害の種類、災害サイクル、災害時の健康被害と心理的反応について説明できる。
- 2) 災害看護の定義と基本姿勢、災害各期の看護活動について説明できる。
- 3) 災害時に果たすべき看護の役割、災害時に必要な技術や人的資源について説明できる。
- 4) 避難所における看護活動について、具体的に考えることができる。

る。

- 5) 平時より災害に備える必要性和そのための保健師活動について説明できる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 統合実習Ⅰ・Ⅱ

教科書 小原真理子，酒井明子：災害看護 心得ておきたい基本的な知識，南山堂，2007.

成績評価方法と基準 定期試験、出席状況を点数化し、総合評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) オリエンテーション，災害とは，災害対応と災害看護
- 2) 主要地震の歴史，災害現場と災害支援活動，防災・減災体制づくり
- 3) 急性期の救命救急活動

- 4) 急性期の災害看護の実際
- 5) 要援護者とは，高齢な要援護者への看護
- 6) 災害時の母子の健康とその看護
- 7) 被災者の心理過程とその支援
- 8) 災害に備える看護活動

産業保健

Occupational Health & Nursing

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 4年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 西出りつ子（医学部看護学科）

授業の概要 健康と職業の両立を支える産業保健活動の実際と、労働者の健康の維持増進のための看護支援の方法について学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 働く人々の特徴と職場における健康管理について説明できる。
- 2) 日本の労働者が抱える健康問題の特徴と予測される問題を考えることができる。
- 3) 労働者の健康問題に対する効果的な保健活動を考えることができる。

受講要件 保健師国家試験受験予定者と、産業看護に強く興味をもっている学生は受講してください。

予め履修が望ましい科目 公衆衛生看護学Ⅰ，公衆衛生看護学Ⅱ，地域診断学実習，公衆衛生看護学実習

教科書 「国民衛生の動向」2015/2016年 厚生統計協会

成績評価方法と基準 出席、レポート、グループ発表の内容を総合評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) 産業保健の概要と重要課題
- 2) 作業環境管理と作業管理
- 3) 職域のメンタルヘルス対策
- 4) 小規模作業所の健康管理

- 5) 大規模作業所の健康管理の実際
- 6) 大規模作業所における看護活動
- 7) 労働者の健康問題を考える
- 8) 職域における看護活動を考える

学校保健

School Health & Nursing

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 大野泰子 (鈴鹿短期大学)

授業の概要 学校保健における保健教育、保健管理の実際とその方法を学び、今日的児童生徒の健康課題を理解し、必要な看護援助の方法を学習する。

学習の到達目標

- 1) 学校保健の内容を法的根拠に基づいて、説明できる。
- 2) 学校保健を推進していくに当たり、学校内外や地域連携について理解を深める。
- 3) 学齢期特有の心身の課題から、生涯の健康づくりの実践を考えることができる。

受講要件 保健師国家試験受験予定者と、養護教諭に強く興味をもっている学生が受講してください。

予め履修が望ましい科目 公衆衛生看護学Ⅰ，公衆衛生看護学Ⅱ，地域診断学実習

教科書 「学校保健ハンドブック 第5次改訂」教員養成系大学保健協議会編 ぎょうせい

成績評価方法と基準 レポート・課題(70%)，授業態度(30%)

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1) 学校保健の構造、学校保健の歴史の変遷
- 2) 学校保健室経営とは（学校保健計画、安全計画）
- 3) 児童生徒の心身の健康実態の把握と評価
- 4) 児童生徒の健康障がいとその教育的指導
- 5) 健康相談と校内連携
- 6) 保健教育（保健学習と保健指導）
- 7) 感染症予防、環境衛生、食育
- 8) 危機管理、学校保健活動の評価と展望

地域診断学実習

Community Diagnosis Practice

学期 後期 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 畑下博世 (医学部看護学科)，西出りつ子 (同) 他

授業の概要 地域に生活する多様な健康レベルにある対象（個人・家族・集団）への看護活動の展開に必要な地域診断を行うための知識と技術を学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 地域アセスメントに必要な情報とその収集方法を説明できる。
- 2) 住民の生活や健康に関連する地域特性について説明できる。
- 3) 人口将来予測や地域特性を踏まえ、地域の健康問題を抽出することができる。
- 4) 介入すべき地域の健康問題について、地域資源を活用した保健活動の方向性を説明できる。
- 5) 地域看護学実習に向けた学習上の課題を明確に示すことができる。

受講要件 「公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、地域保健・

疫学」の単位をすべて修得していること。（3年次編入生については、「公衆衛生看護学Ⅰ」の単位を修得見込みであること）

予め履修が望ましい科目 3年次に履修する全ての看護学実習科目（※これらの単位修得状況によっては本科目を履修できない場合がある）

発展科目 公衆衛生看護学実習

教科書 「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」編集 平野かよ子 メヂカルフレンド社

成績評価方法と基準 実習内容、レポート、学内演習・地区視診・レポート作成への取り組み、実習態度、出席状況を総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

詳細については実習要項に提示する。
〔実習スケジュール予定〕※3F掲示に注意してください
平成28年
2月10日 実習オリエンテーション・学内演習

2月12日～17日 学内演習
2月18日～23日 地区視診・実習施設実習
2月12日～29日 情報の整理・分析・統合
3月1日 地域診断レポートの提出

公衆衛生看護学実習

Public Health Nursing Practice

学期 前期 **単位** 4 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** PBL, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 畑下博世 (医学部看護学科), 西出りつ子 (同) 他

授業の概要 地域に生活する多様な健康レベルにある個人・家族・集団を対象とした看護活動の展開に必要な知識と技術を実践的に学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 地域における衛生行政の機能と役割について説明できる。
- 2) 地域住民の健康レベルと地域特性を踏まえた健康問題について、実践的に考察できる。
- 3) 地域特性を踏まえた公衆衛生看護活動の展開方法の実際について説明できる。
- 4) 住民にとっての公衆衛生看護活動の必要性和地域における看護職の役割について説明できる。
- 5) 保健医療福祉の関係機関との連携や協働の実際について説明できる。
- 6) 健康レベルと地域特性を踏まえた公衆衛生看護の具体的な活動方法を考えることができる。

受講要件

授業計画・学習の内容

学習内容

詳細については実習要項等に提示する。
〔実習スケジュール〕
4月14日(火) 実習オリエンテーション
4月24日(金) までに 実習施設・地区視診
5月8日(水) までに 実習計画(案)の提出

以下の単位をすべて修得していること。

- 1) 公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、地域保健・疫学
- 2) 地域診断学実習

予め履修が望ましい科目 3年次に履修する全ての看護学実習科目 (※これらの履修状況によっては本科目を履修できません)

教科書 1) 「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」編集 平野かよ子 メヂカルフレンド社, 2) 「最新保健学講座1 公衆衛生看護学概論」編集 金川克子 メヂカルフレンド社, 3) 「最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術」編集 村嶋幸代 メヂカルフレンド社, 3) 「最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動」編集 金川克子 メヂカルフレンド社, 4) 「最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論②心身の健康問題と保健活動」編集 金川克子 メヂカルフレンド社

成績評価方法と基準 実習指導者の評価内容を考慮し、出席状況、レポート、実習内容、まとめ発表会への取り組み、実習態度を総合して評価する。

老年看護学Ⅰ

Gerontological Nursing I

学期 後期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL
担当教員 磯和勅子 (医学部看護学科), 平松万由子 (医学部看護学科) 他

授業の概要 老年看護学の理念に基づき、対象を全人的に捉え、老年期の発達課題と健康課題について、身体的・心理・社会的な側面から、倫理的配慮の視点をもって看護支援するための基礎的能力を養う。また、高齢者の保健行動の特徴を知り、生活機能の観点から自立的な健康維持・増進及び疾病・事故の予防を目指した健康支援と環境調整の方法を学ぶ。

学習の到達目標

1. 年看護の対象の全人的理解と存在意義について考察し、老年看護学の理念と目標を理解することができる。
2. 老年期にある人の発達課題と健康問題について、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と特徴を踏まえて、生活機能の観点から看護支援のあり方を説明できる。
3. 高齢者をとりまく社会としての家族および保健医療福祉システムの現状と課題を知り、社会適応のための老年看護学の役割について説明できる。
4. 高齢者の倫理的課題と権利擁護について考察し、高齢者の尊厳

と権利擁護のための看護支援のあり方を説明できる。

5. 高齢者の健康目標について、生活機能の観点から自律的な健康維持・増進及び疾病・事故の予防を目指した健康支援および環境調整の方法を説明できる。
6. 高齢者のコミュニケーションの特徴を知り、対象に応じたコミュニケーションのあり方を説明できる。

発展科目 老年看護学Ⅱ、認知症と看護、在宅看護論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ

教科書

系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

成績評価方法と基準

出席、授業態度、定期試験、レポートを総合して評価する。再試は行わない。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 高齢者の理解 (老いとは、老化と加齢、高齢者の捉え方、多様性)
2. 高齢者の身体的変化と生活機能およびアセスメント (身体的変化)
3. 高齢者の身体的変化と生活機能およびアセスメント (高齢者にみられる身体症状とアセスメント)
4. 高齢者の心理・社会的変化と生活機能およびアセスメント
5. 高齢者を取り巻く社会制度①(家族、保健医療福祉システムの動向)
6. 高齢者を取り巻く社会制度②(高齢者の権利擁護)
7. 老年看護学とは (老年看護学の理念と目標、老年看護の対象、

- 老年看護に携わる者、老年看護に関わる諸理論)
8. 高齢者の健康目標およびヘルスプロモーション
 9. 高齢者の移動・運動・活動と看護ケア
 10. 高齢者の栄養・食事と看護ケア
 11. 高齢者の排泄と看護ケア
 12. 高齢者の清潔と看護ケア
 13. 高齢者の生活リズム・睡眠と看護ケア
 14. 高齢者のコミュニケーションと看護ケア
 15. セクシャリティーと看護ケア
 16. 高齢者の社会活動と看護ケア

老年看護学Ⅱ

Gerontological Nursing II

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、○平松万由子（医学部看護学科）、北川亜希子（医学部看護学科）、服部由佳（医学部看護学科）

授業の概要 様々な健康状態にある高齢者について保健・医療・福祉に関わる看護場面から対象の自立支援とQOLを高める視点をもち看護展開できる基礎的能力を養う。

学習の到達目標

1. 医療の場における高齢者への看護を理解できる
2. 高齢者のリハビリテーション看護について理解できる
3. 介護保険施設等入所高齢者の看護について理解できる
4. 介護保険施設入所高齢者の看護過程の展開方法を理解できる
5. 高齢者を介護する家族への看護について理解できる
6. 高齢者のリスクマネジメント・災害看護について理解できる
7. 高齢者の終末期ケアについて理解できる

8. 老年看護に不可欠な看護技術が習得できる

受講要件 老年看護学Ⅰを履修済みであること

発展科目 認知症と看護 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

成績評価方法と基準

出席、授業態度、定期試験、レポートを総合して評価する。再試は行わない。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 医療の場における高齢者の看護（入院時の適応への支援 せん妄予防）
2. 医療の場における高齢者の看護（老年期に多い疾患と看護 検査時の対応、薬剤・服薬管理）
3. 医療の場における高齢者の看護（周手術期の看護 合併症予防 安全管理）
4. 医療の場における高齢者の看護（退院支援、退院後の継続看護）
5. 高齢者に対するリハビリテーションの意義と特徴（生活場面でのリハビリテーション含）、リハビリテーションを受ける高齢者の看護

6. 介護保険施設等入所高齢者の看護（看護職の機能、保健医療福祉の連携）
7. 介護保険施設等入所高齢者の看護展開（事例）
8. 高齢者を介護する家族への看護
9. 高齢者のリスクマネジメント・災害看護
10. 高齢者の終末期ケア1（講義・事例展開）
11. 高齢者の終末期ケア2（講義・事例展開）
12. 老年看護の技術（演習）
13. 老年看護の技術（演習）
14. 老年看護の技術（演習）
15. 老年看護の技術（演習）

認知症と看護

Dementia Nursing

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、○平松万由子（医学部看護学科）北川亜希子（医学部看護学科）、服部由佳（医学部看護学科）

授業の概要 認知症の病態と関連要因を理解し、認知症高齢者の生活の質を高めるケアの視点および家族支援の視点から看護展開できる基礎的能力を養う

学習の到達目標

1. 認知症の病態と関連要因が理解できる
2. 周辺症状と生活への影響のアセスメントの視点が理解できる
3. 認知症高齢者に対する基本姿勢が理解できる
4. 認知症高齢者の心身を活性化させる生活のあり方について理解できる
5. 認知症高齢者の権利擁護について理解できる
6. 認知症高齢者の家族への支援方法について理解できる

予め履修が望ましい科目 老年看護学Ⅰ

発展科目 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ

教科書

新版 認知症の人々の看護 医歯薬出版

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

成績評価方法と基準

出席、授業態度、定期テスト、レポートを総合して評価する。再試は行わない。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 認知症とは 認知症の病態と関連要因（治療、認知機能評価、中核症状と行動・心理症状）
2. 認知症予防と認知症高齢者を取り巻く社会の動向
3. 認知症高齢者に対する基本姿勢
4. BPSD（行動・心理症状）と生活への影響のアセスメントとケ

ア①

5. BPSD（行動・心理症状）と生活への影響のアセスメントとケア②
6. 認知症高齢者の心身の状態に配慮した生活環境の調整
7. 認知症高齢者の心理・コミュニケーション
8. 認知症高齢者の権利擁護、認知症高齢者の家族への支援方法

老年看護学実習Ⅰ

Clinical Practice in Gerontological Nursing Ⅰ

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次 選択/必修 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）、北川亜希子（医学部看護学科）、服部由佳（医学部看護学科）

授業の概要 高齢者の全人的理解を基に、介護老人保健施設で生活する高齢者に看護過程を展開しながら、日常生活の場での看護、安全面に配慮した高齢者の自立支援、QOL向上に向けたケアを実施する。

学習の到達目標

1. 施設で生活する高齢者の健康状態や、社会的背景を総合的にとらえた上で看護展開をしながら実践的に学ぶことができる
2. 施設で生活する高齢者の看護に必要な知識・技術・態度について実践を通して学ぶことができる
3. 施設で生活する高齢者の家族への支援について、入所生活や通所リハビリテーションでの援助を通して学ぶことができる
4. 施設で生活する高齢者を支えるチームケアと看護職としての役割、他職種との連携の在り方について実践を通して学ぶことができる

5. 施設で生活する高齢者やその家族を支える社会制度とケアシステム、社会資源の活用について実践を通して学ぶことができる
6. リスクマネジメントおよび倫理的配慮について実践を通じて学ぶことができる

受講要件

1. 老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、認知症と看護を履修済みであること。
2. 臨地実習であり、事故などの危険が伴うので、学生総合共済・学生賠償責任保険、看護学生総合補償制度に加入すること。

発展科目 老年看護学実習Ⅱ、統合実習Ⅰ・Ⅱ

成績評価方法と基準 出席、実習記録・レポート、実習態度等を総合して行う。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 加齢および老化とそれにともなう健康上の課題を持ちながら生活している対象を全人的に把握する
2. 高齢者の生活場面に沿って、自立支援を目指した個別性の高い看護の必要性を理解する
3. 高齢者の日常生活から安全安楽、リスクマネジメントや倫理的配慮を考慮した、個別性の高い看護計画を立案する
4. 高齢者の生活場面で、計画した看護について安全安楽の視点を持って実施、評価、修正し、次回の看護に発展させる

5. 在宅高齢者通所サービスセンター等の活動に参加し、高齢者の在宅支援の方法や家族の負担軽減および看護の役割について考える
6. 高齢者ケアの場における保健・医療・福祉職員との連携や協同の必要性を理解する
7. 施設で生活する高齢者およびその家族を支える社会制度とケアシステム、社会資源を理解する
8. 高齢者の尊厳など、倫理的配慮の視点を考慮した看護展開を実施する

老年看護学実習 II

Clinical Practice Gerontological Nursing II

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次 選択/必修 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）、北川亜希子（医学部看護学科）、服部由佳（医学部看護学科）

授業の概要 疾病や障害を持ちながら在宅で生活する高齢者（以下在宅高齢者）及び家族の健康状態と生活環境を総合的に捉えた上でケアニーズを把握し、在宅療養を支える社会制度やケアシステムを踏まえて看護を実践できる基礎的能力を養う。

学習の到達目標

1. 在宅高齢者及びその家族の健康状態と生活環境を総合的に捉えた上で看護展開について実践を通して学ぶことができる
2. 在宅高齢者の家族への支援について実践を通して学ぶことができる
3. 在宅高齢者看護に必要な知識・技術・態度について実践を通して学ぶことができる
4. 在宅高齢者看護におけるチームケアと看護の役割、他職種連携のあり方について実践を通して学ぶことができる
5. 在宅高齢者及びその家族を支える社会制度とケアシステム、社

会資源の活用について実践を通して学ぶことができる

6. 高齢者のリスクマネジメントおよび倫理的配慮について実践を通して学ぶことができる

受講要件

1. 老年看護学Ⅰ・Ⅱ、認知症と看護、在宅看護論Ⅰを履修していること。
2. 臨地実習であり、事故などの危険が伴うので、学生総合共済・学生賠償責任保険、看護学生総合補償制度に加入すること。

教科書

系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院

系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

成績評価方法と基準 出席、実習記録・レポート、学習態度、事前学習等を総合して行う。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 在宅看護の展開
 - 1) 在宅高齢者及びその家族の身体的状態、心理・精神的状態および対象をとりまく社会的状態（家族環境、住環境、地域環境等）を総合的に捉えて、健康上のニーズを把握する
 - 2) 明らかにされた健康上のニーズに従って、在宅高齢者及びその家族の個別性、生活環境に合わせた看護計画を立案する
 - 3) 計画した看護を在宅療養の場で、安全安楽の視点を持って実施する
 - 4) 看護計画を対象の変化に合わせて修正する必要性を理解する
 - 5) 実施した看護が、在宅高齢者の健康状態の維持・向上の為や生活環境に適していたかどうかを評価し、次の看護に発展させる

- 6) 高齢者を介護する家族の健康への支援および介護負担の軽減に向けた看護の必要性を考える
- 7) 訪問看護師が行う看護ケアを通して、コミュニケーション技術、個別の環境に合わせた在宅看護技術の具体的な方法、訪問看護に必要な視点（リスクマネジメントおよび倫理的配慮等）について理解する
2. 他職種との連携
 - 1) 在宅高齢者看護におけるチームケアと看護の役割、他職種連携のあり方を学ぶ
 - 2) 在宅高齢者及びその家族を支える社会制度とケアシステム、社会資源を理解する

在宅看護論 I

Home Care Nursing I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）、北川亜希子（医学部看護学科）、服部由佳（医学部看護学科）他

授業の概要 在宅看護の対象とその特徴を知り、質の高い自立した療養生活を継続するために必要な看護の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。また、在宅看護に関わる社会資源の活用と他職種間連携における看護の役割と機能について学ぶ。

学習の到達目標

1. 在宅看護の動向と社会的背景に基づくニーズを知り、在宅看護の目的と特徴について説明できる。
2. 在宅看護の対象者とその特徴を知り、対象者の自立した生活を護るための看護師の役割と機能について説明できる。
3. 在宅看護に関わる制度を知り、社会資源の活用と他職種連携における看護師の役割と機能について説明できる。
4. 在宅看護における看護展開の特徴と家族支援のあり方について

説明できる。

5. 在宅看護におけるリスクマネジメントと対象の権利擁護について説明できる。
6. 在宅看護を実践するために必要とされる生活支援および医療的管理のための技術と応用について説明できる。
7. 対象者の特徴および状態に応じた在宅看護実践のあり方について、説明でき、事例展開できる。

発展科目 老年看護学実習 II

教科書 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

成績評価方法と基準 出席、レポート、定期試験などを合わせて総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

授業計画

1. 在宅看護とは（在宅看護の歴史と発展、社会的背景に伴う在宅看護ニーズ、在宅看護の目的と特徴、在宅看護の対象者）
2. 在宅看護に関わる社会制度（保健・医療・福祉システム、他職種連携）
3. 在宅看護に関わる社会制度（訪問看護の制度と訪問看護ステーションの活動、訪問看護ステーションの役割と機能、諸外国の動向）
4. 入退院時における医療機関（地域連携室）と訪問看護師の連携
5. 在宅における看護過程の特徴と方法①（情報収集とアセスメント、目標と計画、実施と評価）

6. 在宅における看護過程の特徴と方法②（家族看護、他職種連携）
7. 在宅におけるリスクマネジメント（在宅看護におけるリスクと予防、医療事故、感染予防、災害看護）と権利擁護
8. 在宅看護に必要な看護技術（生活支援のための技術と応用）
9. 在宅看護に必要な看護技術（医療技術）
10. 対象別在宅看護の実践（小児疾患患者）
11. 対象別在宅看護の実践（精神疾患患者）
12. 対象別在宅看護の実践（難病患者）
13. 在宅看護の展開方法（事例展開：高齢者）
14. 在宅看護の展開方法（事例展開：高齢者）
15. 在宅看護の展開方法（事例展開：高齢者）

在宅看護論 II

Home Care Nursing II

学期 前期集中 単位 1 年次 学部(学士課程): 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 坂口美和、平松万由子（医学部看護学科）他

授業の概要 在宅看護論 II では人生の終焉を自宅で生きる人と家族のケアを行うための基礎的能力を養うことを目指す。人生の終焉の時期を生きる現代事情を自己に引き当てて考えるとともに、自己の死生の考えを振り返る。自宅や自宅に代わる生活の場で様々な暮らし方をする子ども、成人、高齢者の個人の発達課題、家族の発達課題を押さえながら、人生の終焉を生きる人と家族の理解を深め、在宅ケアの特徴を学ぶ。人生の終焉を生きる家族成員をもつ家族のケアおよび、訪問看護師が行う遺族のケアを学ぶ。

学習の到達目標

- 1) 人生の終焉の時期を生きる現代事情と課題を理解する。
- 2) 様々な死生の考えを知ること、死に近づいたとき何を大事に思うのかを体験することで、自己の死生の考え方を知る。

- 3) 在宅ホスピスケアの流れと援助の視点を理解する。

- 4) 子ども、成人、高齢者それぞれの年代や様々な暮らし方をする利用者と家族の在宅ホスピスケア(エンド・オブ・ライフ・ケア)の実践と特徴を理解する。

- 5) 人生の終焉を生きる家族成員のいる家族のケアと遺族のケアに必要な基礎的知識を理解する。

予め履修が望ましい科目 在宅看護論 I

発展科目 統合実習 I、II

教科書 授業の中で適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席態度、学びの振り返り、レポート、期末試験などを合わせて総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義・演習

- ・人生の終焉の時期を誰と何処でどのように過ごしたいか。人生の終焉の時期を生きる現代事情と課題
- ・死のシュミレーションや死生に関する研究から自己の死生を考える。
- ・在宅ホスピスケア、遺族ケアの流れと支援。

- ・小児の在宅ホスピスケア、遺族ケア。訪問看護師の技を知る。
- ・高齢者の自宅に代わる在宅エンド・オブ・ライフ・ケア
- ・1人暮らしの方の在宅ホスピスケア、遺族ケア。訪問看護師の技を知る。
- ・人生の終焉を生きる家族成員のいる家族のケア。家族の予期不安（予期悲嘆）を知る。
- ・訪問看護師が行う遺族ケア

統合実習Ⅰ

学期 前期 単位 2 年次 学部(学士課程): 4年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 統合実習Ⅰ担当教員（医学部看護学科）

授業の概要 地域社会で暮らす支援を必要とする生活者のニーズを把握し、社会資源を有効に活用しながら、健康と生活を支え、QOLを高めていけるように援助する基礎的能力を養う。

学習の到達目標

1. 老年・成人・精神・母性・小児看護など各専門分野の対象の在宅療養および生活の実際を理解できる。
2. 対象に関わる看護師の活動および役割を理解できる。
3. 対象の健康維持・増進とQOL向上を目指した看護支援のあり方を理解できる。

4. 社会資源の活用や他職種との連携の在り方について理解できる。

5. 在宅で支援を必要とする対象おける看護職の役割と倫理的配慮について理解できる。

受講要件 看護学ゼミナールの所属領域における担当教員が指定する実習を履修済みであること

教科書 指導教員から提示する

成績評価方法と基準 指導教員から提示する

授業計画・学習の内容

学習内容

詳細は、領域別の実習要項に提示する。

実習期間は2週間であり、その具体的進めかたについては各担当教員と調整する。

統合実習Ⅱ

Clinical Practice in Integrated Nursing II

学期 前期 単位 2 年次 学部(学士課程): 4年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 看護学科統合実習Ⅱの指導教員

授業の概要 組織における看護職の役割を理解するとともに、他職種とのチーム医療の重要性や保健・医療・福祉チームとの協働・連携から、患者のQOLを援助する基本的能力を養う。

学習の到達目標

1. 複数の対象者を受持ち、対象の状態から優先順位を考えた行動計画が考えられる。
2. チーム連携により、対象の個別ニーズを充足する連携・協働について理解できる。
3. 医療チーム・看護チームの構成や、その一員としての看護職の活動および役割を理解できる。

4. 社会資源の活用や他職種との連携の在り方について理解できる。

5. 保健医療福祉行政と経済活動の現状を理解できる。

受講要件 看護学ゼミナールの所属領域における担当教員が指定する実習を履修済みであること。

教科書 指導教員の指示による

成績評価方法と基準 出席、実習態度、実習記録、提出課題等の総合得点によって評価される

授業計画・学習の内容

学習内容 実習期間は2週間であり、その具体的な進め方について

は、各実習担当教員との調整を要する。

看護学基礎ゼミナール

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 3年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた

授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 看護学基礎ゼミナール担当教員（医学部看護学科）

授業の概要 主体的・能動的な学習態度を養い、対象の健康問題等に関する文献をもとに看護研究の方法を理解する。

学習の到達目標

- 1) 少人数学生による学習の場において主体的・能動的な学習態度を養う。
- 2) 各専門分野における先行研究の探し方を理解する。
- 3) 看護研究の方法や論文作成上の基本的な知識について理解する。

る。

受講要件 看護研究方法論を受講済みであること

発展科目 看護学専門ゼミナール

教科書 初回講義において提示する

成績評価方法と基準 出席状況、演習への参加度、レポート

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 各受講者は、1名の指導教員に配属される。
2. 授業は原則として、各指導教員に分かれて行われる。学習内容は以下のとおりである。
 - 1) 対象の健康問題や看護に関する文献の検索を体験する。

2) 「看護研究方法論」で学んだことをもとに、検索した文献について検討する。

3) 少人数学生の主体的な文献学習により、看護研究の方法や論文作成上の基本的知識について理解する。

看護学専門ゼミナール

Special Seminar

学期 前期 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 4年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 看護専門ゼミナール担当教員 (医学部看護学科)

授業の概要 これまでの講義・演習・実習内容を基礎的知識とし、看護学基礎ゼミナールの学習内容を発展させて研究テーマを絞り、関連する先行研究から看護研究や研究論文についての理解を深める。

学習の到達目標 研究テーマに関連する専門的な知識を深め、研究の動向を理解できる。

予め履修が望ましい科目 看護研究方法論 (3年次), 看護学基礎ゼミナール (3年次)

発展科目 看護研究 (卒論)

教科書 指導教員の指定するテキスト等

成績評価方法と基準 指導教員の説明する内容で評価が行われる

授業計画・学習の内容

学習内容

- 履修者は、基礎看護学ゼミナール、成人看護学ゼミナール、精神看護学ゼミナール、母性看護学ゼミナール、小児看護学ゼミナール、地域看護学ゼミナール、老年看護学ゼミナールのいずれかに所属し、各ゼミナールは、原則として1名の指導教員が担当する。
- 学習内容は、以下のとおりである。
 - 研究テーマに関する文献をクリティークすることにより、専門

知識を深め、先行研究の動向を探る。

- 看護学実習の体験と文献による学習をもとに、自分の研究テーマを絞る。
- 少人数学習による文献学習を行い、論文をクリティークする能力、論理的な表現能力、創造的な問題解決能力を高め合う。
- 論文作成において必要とされる基本的知識を修得する。

看護研究方法論

Research Methods in Nursing

学期 前期前半 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 3年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 坂口美和, 井関敦子, 今井奈弥, 井村香積, 磯和勅子, 小森照久, 福録恵子 (医学部看護学科) 他

授業の概要 看護実践の質向上を図るために必要な看護学研究の視点と基本的手法、研究プロセスの基礎を学ぶ。

学習の到達目標

- 看護実践に研究を活用する意義や目的、研究の特徴・種類、研究プロセスの概要、研究成果の活用方法が理解できる。
- 看護研究に必要な文献検索の目的と方法について理解できる。
- 質的研究と量的研究における研究手法の基礎が理解できる。
- 看護研究論文のクリティークの視点が理解できる。
- 研究における倫理的問題とそれらの発生を防ぐための配慮や留意点について理解できる。

受講要件 3年次に進級していること。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 看護学基礎ゼミナール, 看護学専門ゼミナール, 看護研究 (卒論)

教科書 「黒田裕子の看護研究 step by step 第4版」黒田裕子著、学習研究社

成績評価方法と基準 学習態度、各回の講義時に提出する出席確認票の記述、小テスト等を総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 研究とは、看護研究の目的、研究の種類・プロセス
- 第2回 看護研究方法論：看護研究における統計的手法と量的研究
- 第3回 看護研究方法論：事例研究
- 第4回 文献検索方法：文献検索の目的と方法 (総合情報処理センター第1教室)
- 1) 5月13日(水)13:00～14:30

- 2) 5月20日(水)13:00～14:30
(※必ず統一アカウントとパスワードの控えを持参すること)
- 第5回 看護研究方法論：質的研究
- 第6回 看護研究方法論：実験・準実験研究
- 第7回 研究論文のクリティークと作成：視点と方法
- 第8回 研究における倫理的問題と倫理的配慮・留意事項

看護研究（卒論）

Nursing Research (Undergraduate Study)

学期 後期 単位 3 年次 学部(学士課程): 4年次 選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 看護研究（卒論）担当教員

授業の概要 専攻した看護学専門ゼミナールにおける学習成果をもとに、自分の研究テーマと目的を明確にし、それに適した方法を用いて研究を進め、論文形式にまとめる。

学習の到達目標

1. 関心のある看護学分野における文献学習と看護実践をふまえて看護研究を行い、その成果をまとめることができる。
2. これまでの看護実践や研究における自己の取り組みを客観的に分

析・評価し、今後の課題を明らかにすることができる。

受講要件 看護学専門ゼミナールを履修済であること。

予め履修が望ましい科目 看護学基礎ゼミナール

教科書 指導教員からの紹介による著書等

成績評価方法と基準 評価表による。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 学習内容
 - 1) これまでの学習や看護体験をもとに研究テーマを設定し、研究倫理を踏まえた研究計画を立てる。
 - 2) 研究方法を実践的に学び、論文としてまとめる。
2. 論文と抄録の作成と提出について
 - ・論文のテーマは指導教員と相談して決定する。

- ・論文の書き方は、別途配布する看護学科卒業研究執筆要領に準じるものとする。
- ・抄録は、論文に準ずる内容を含み、分量はA4版2枚とする。
- ・論文は既製のA4紙ファイルを使い、表紙に所定の用紙を貼り提出する。
- ・論文は2部、抄録は1部提出する。
- ・卒業論文に関しての全体的な発表会は行わない。

看護理論

Nursing Theory

学期 前期 **開講時間** 月 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 ○福録恵子, 今井奈妙, 井関敦子, 村端真由美, 竹内佐智恵, 吉田和枝

授業の概要 研究と実践を導く理論についてその基本構造を理解し、看護実践への適応について検討する。

看護の実践上の現象について、理論を用いて考察することができる。

学習の到達目標

看護研究を行う上での看護理論の必要性和有用性について述べることができる。

教科書 フォーセット看護理論の分析と評価, 太田喜久子・筒井真優美 (監訳), 医学書院

成績評価方法と基準 プレゼンテーション50%, レポート50%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 看護理論とは 看護知識の構造
3. 大理論の概要 (1)
4. 大理論の概要 (2)
5. 大理論の概要 (3)
6. 概念モデルの理解

7. 中範囲理論の概要 (1)
8. 中範囲理論の概要 (2)
9. 中範囲理論の概要 (3)
- 10-15. 看護実践における理論展開 (1) ～ (6) : プレゼンテーション
16. まとめ, レポート作成

看護研究法

Nursing Research Methods

学期 前期 **開講時間** 火 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○林 智子 (医学部看護学科)、小森照久 (同)、新小田春美 (同) 今井奈妙 (同)、磯和勅子 (同)、竹内佐智恵 (同)

授業の概要 看護研究は科学的根拠に基づく看護実践の改善に不可欠であり、看護学の発展に貢献するものである。本科目では、看護研究の基本的な概念と方法、研究に必要な知識と技術、研究倫理について学び、看護実践の場で活用可能な種々の研究手法を修得する。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 看護学特別研究, 看護学課題研究

学習の到達目標

1. 看護研究の意義や研究に必要な基礎的知識と技術について説明することができる。
2. 看護研究の一連のプロセスが説明できる。
3. 看護の視点から研究論文を系統的に検討することができる。

教科書 小笠原知枝, 松木光子(2012)これからの看護研究－基礎と応用第3版, ヌーヴェルヒロカワ

成績評価方法と基準 授業参加状況及びプレゼンテーション・レポートにより評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス 看護研究の基礎
2. 研究課題と研究デザイン
3. 量的研究(1)
4. 量的研究(2)
5. 実験研究(1)
6. 実験研究(2)
7. 質的研究(1)
8. 質的研究(2)

9. 質的研究(3)
 10. 研究計画書と倫理審査
 11. 研究課題と研究方法の明確化
 12. 研究成果の看護実践への応用(1)
 13. 研究成果の看護実践への応用(2)
 14. 課題の発表(1)
 15. 課題の発表(2)
- ※なお、受講生との協議等により、以上の計画を変更する場合もある。

看護倫理

Nursing Ethics

学期 前期 **開講時間** 月 9, 10 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 今井奈妙（医学部看護学科）

授業の概要 生命科学の発展にともなって生じた倫理的諸問題及び医療現場における倫理的問題について理解し、看護職者としての対応を探究する。

学習の到達目標

1. 看護倫理学の発展における歴史上の問題について理解できる。
2. 医療現場で遭遇する諸問題を倫理的意思決定モデルを使用して検討できる。
3. 看護倫理に関する研究と教育に興味を抱くことができる。

受講要件 課題学習、演習（ディベート等）が中心となるため、主体的に取り組む姿勢が求められる。

教科書 看護実践の倫理 第3版 倫理的意思決定のためのガイド、サラT.フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン著、片田範子、山本あい子訳、日本看護協会出版会、2011.

成績評価方法と基準 レポート50%、課題学習・プレゼンテーション・討論への参加状況50%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. コースガイダンス
2. 生命倫理 倫理学とは
3. 医療倫理 医療における倫理問題、歴史的展開
4. 看護倫理学（1）看護における倫理原則

5. 看護倫理学（2）看護師の倫理規定一再考
6. 看護倫理学（3）倫理的意思決定モデル
7. 看護倫理学（4）日本文化における看護倫理
- 8-15. 事例を用いた倫理的問題解決のための演習
16. まとめ、レポート作成

看護管理学

Nursing Administration

学期 前期 **開講時間** 水 9, 10 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 江藤由美（医学部看護学科）、清水房枝（非常勤講師：滋賀県立大学）、阿部祝子（非常勤講師：京都橘大学）

授業の概要 看護サービス提供についてミクロ・マクロの視点から複眼的にとらえ、制度・政策からグループマネジメントに至るまでの全般を通して看護管理の理解を深める。

学習の到達目標

1. 看護管理の本質と特徴を理解する。
2. 看護管理の視点でみた保健医療福祉の動向を理解する。
3. 看護実践の場における看護管理の実際や課題を理解する。
4. 看護に関連する管理諸理論や管理技法を理解し探究する。
5. 看護の質向上に寄与する経営経済的視点から看護マネジメントを探究する。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特になし

成績評価方法と基準

レポート：50%
討論への参加状況・プレゼンテーション：50%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス・看護管理概説
2. 看護マネジメント論①
3. 看護マネジメント論②
4. 看護マネジメント論③
5. 人的資源活用論①
6. 人的資源活用論②
7. 看護組織論①

8. 看護組織論②
9. 看護組織論③
10. キャリア開発
11. 看護情報管理論①
12. 看護情報管理論②
13. 看護情報管理論③
14. 看護経営・経済論
15. まとめ

看護情報統計学

Nursing Informatics and Statistics

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 谷村 晋 (医学部看護学科)

授業の概要 看護における量的研究を行うための基礎である、統計的方法及び情報科学的方法論について論述するとともに、より高度な統計解析技術や最近の情報通信の知識及び技術を、看護における問題解決や援助活動に活用するための方法について教授する。さらに、インターネットによる情報検索や情報の発信を活用し、量的研究におけるテーマや概念枠組みの明確化など、研究方法の選定に必要な看護及び医療文献・情報を検索・分析する能力を育成する。

学習の到達目標

看護における研究の枠組みに従った的確な量的研究方法を提示で

きる。

情報の収集・分析のための知識・技術を利用し、課題データを用いたレポートが作成できる。

受講要件 看護研究法を履修していることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 中野正孝, 他訳: 論文が読める! 早わかり統計学, MEDSI

成績評価方法と基準 レポート80%, 出席状況20%

授業計画・学習の内容

学習内容

1.看護と情報科学

看護及び医療分野における情報科学的方法及び情報通信機器の利用の意義と問題点について論じる。

2.看護情報ネットワークシステム

情報ネットワークについての技術的話題を取り上げ、しくみや将来の看護分野における利用法等について論じる。

3～4.データ解析の基礎

看護研究における統計的方法の意義と問題点について論じるとともに、データ解析の原理と方法について教授する。さらに、看護研究のテーマや概念枠組みの明確化・研究方法の選定にあたっての看護情報や統計資料の活用について教授する。

5～6.相関と関連の分析

研究の基本となる因果関係の推定条件等を論じるとともに、それ

に必要な相関と関連の統計的方法について教授する

7～10.看護研究と推測統計学

看護研究における統計的仮説検定の意義を論じるとともに、検定と推定の知識・技術をコンピュータを使い教授する。

11.看護研究と多変量統計学

多変量統計学の基礎的知識を教授するとともに、看護研究における多変量統計学の意義と問題点について論じる。さらに、統計解析ソフトによる演習を行う。

12～14. 演習課題データ用いて、各自が分析テーマを考え、レポート作成の演習を行う。

15.まとめ・報告書の作成

※なお、受講生との協議等により、以上の計画を変更する場合もある。

国際比較看護論

International Comparative Nursing

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6, 7, 8 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習
授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 畑下博世 (医学部看護学科)

授業の概要 世界的視点から各国の看護・保健・医療・福祉を概観し、看護に関連する現象を文化や価値観を踏まえて考察することにより、国内外における国際看護の課題や将来展望について追及する。

学習の到達目標

- 1) 国際的視点から看護学を比較する意義や方法を理解できる。
- 2) 各国の看護に関連する現象を文化や価値観を考慮しながら国際比較できる。
- 3) 国際看護学の課題と将来展望を説明できる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜提示する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション、レジュメ・資料、ディスカッションの参加状況について総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義およびゼミナール: 院生は文献を読み要約し、プレゼンテーションをする。その後、ディスカッションを行う。

- 1) 国際保健学, 国際看護学の主要概念
- 2) リプロダクティブヘルス, 母子保健の国際比較
- 3) こどもの健康の国際比較
- 4) 生活習慣病の国際比較
- 5) 高齢者ケアの国際比較
- 6) 感染症看の国際比較

- 7) 疼痛看護の国際比較
- 8) メンタルヘルスの国際比較
- 9) 生活習慣病の国際比較
- 10) 看護教育制度の国際比較(1)
- 11) 看護教育制度の国際比較(2)
- 12) 国際看護活動の国際比較(1)
- 13) 国際看護活動の国際比較(2)
- 14) 国内での国際看護活動の実例
- 15) まとめ

フィジカルアセスメント

Physical Assessment

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 成田有吾、吉田和枝、竹内佐智恵

授業の概要 健康関連のフィジカルアセスメントに関する知識・技術を習得することにより、対象者を包括的に評価し、看護の実践に活用できる能力を養う。

学習の到達目標

1. 健康関連のフィジカルアセスメントに必要な基礎的知識と基本となる概念を理解する。
2. 健康歴聴取および適切なフィジカルアセスメント技法を習得する。
3. 身体の系統的で客観的な評価から得られた所見を総合し、対象者を包括的に判断・解釈する方法を理解する。
4. 看護判断・診断に必要な情報を収集し、得た情報を統合的に判断する過程を習得する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 ヘルスアセスメントの概念
- 第2回 ヘルス・フィジカルアセスメントに必要な技法：健康歴・病歴聴取の仕方、臨床看護の面接技法、診察評価の仕方
- 第3回 アセスメントに必要な物品の使用法：一般状態のアセスメント
- 第4回 態度、しぐさから：器質的・非器質的状態のアセスメント
- 第5回 乳房・腋窩系のアセスメント
- 第6回 呼吸器系のアセスメント
- 第7回 腹部・消化器系のアセスメント

- 5. フィジカルアセスメントに必要とされる診察機器を理解し、演習で使用してみる。

予め履修が望ましい科目 人体機能学，人体構造学，看護病態学

教科書

Clinical Examination Skills (Essential Clinical Skills for Nurses) by Philip Jevon
医師・看護師の英語フレーズブック（佐藤 忍，James P.Butler 著，カイ書林，2014）

成績評価方法と基準 試験，レポート，出席率などによる総合評価

- 第8回 腹部・泌尿器系のアセスメント
- 第9回 頸部、耳鼻咽喉、聴覚器系のアセスメント
- 第10回 視覚器系のアセスメント
- 第11回 心臓・血管系のアセスメント
- 第12回 筋肉・骨格系のアセスメント
- 第13回 神経系のアセスメント
- 第14回 統合演習：主要症候/疾患の鑑別診断と症例検討1
- 第15回 統合演習：主要症候/疾患の鑑別診断と症例検討2
- 第16回 フィジカルアセスメントのまとめ：レポート
（コースの順序等は変更される可能性があります）

看護病態機能学 I

medical science for nursing I

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL,
Moodle
担当教員 成田 有吾（医学部看護学科），中瀬 一則（医学部附属病院がんセンター長），竹内佐智恵（医学部看護学科）

授業の概要 教科書（Human Biology (International Edition) Mader 著）から毎回のトピックスを抽出し、当該領域を事前学習のうえ、内容を受講者に解説する。解説に続く質疑、議論においてトピックスの内容を深く理解していく。英語の教科書を用いるものの解説や議論は邦語で行う。各自、トピックスに関連する内容をPortfolio形式にまとめ、開講時の議論の糧とする。

学習の到達目標 人間の病態機能について、自ら問題点を抽出し、

科学的に探究する能力を身につけることが到達目標である。

予め履修が望ましい科目 生物学、生理学、解剖学、生化学、基本的な英文の読解

教科書 1) Human Biology (International Edition) Mader 著

成績評価方法と基準 レポート、出席状況などで総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.オリエンテーション 授業内容およびグループ学習についての概説
- 2.Cell structure and function
- 3.Organization and regulation
- 4.Digestive system and nutrition
- 5.Composition and function of blood
- 6.Cardiovascular system
- 7.Lymphatic and immune system

- 8.Respiratory system
- 9.Urinary system and excretion
- 10.Skeletal system
- 11.Muscular system
- 12.Nervous system
- 13.Endocrine system
- 14.Reproductive system
- 15.Development and aging
- 16.review work

看護病態機能学II

Pathophysiological Nursing

学期 後期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 小森照久 (医学部看護学科)

授業の概要 病態機能の理論を学び、臨床現場での看護実践に応用できる能力を養う。

学習の到達目標

1. 精神神経免疫学を理解できる。
2. サイトカインが各種病態に関与していることを理解できる。
3. 各種薬剤の作用機序、副作用を理解できる。
4. メタボリックシンドロームの意義と病態を理解できる。

5. 癌の病態を理解できる。
6. 病態機能の理論を看護実践に生かせる。
7. 最近解明されてきている各種病態や治療から今後の看護を展望できる。

教科書 その都度資料を配布または紹介する。

成績評価方法と基準 出席・参加状況と課題レポートにより総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1～2.精神神経免疫学の歴史、発展
精神神経免疫学の黎明期からの発展を歴史的に追い、その基本的な考え方と根拠を理解し、こころと身体との関わり、身体機能の調節機構を理解することによって、病態の理解と、その上での看護の基本を学ぶ。
3～4.精神神経免疫学的観点による身体疾患の病態
神経系、内分泌系、免疫系による身体機能の調節を理解した上で、その失調として、高血圧症、糖尿病、喘息、胃十二指腸潰瘍などを含む狭義、広義の心身症の病態、自己免疫疾患をはじめとする免疫系の疾患の病態を理解する。
5～6.メタボリックシンドロームの病態
脂肪組織によるアディポサイトカインの分泌と、いわゆる善玉、悪玉アディポサイトカインによるインスリンや動脈硬化などへの関与を理解することで、メタボリックシンドロームの病態を理解する。
7～8.内分泌系の働きと内分泌疾患
視床下部、下垂体前葉、および各内分泌器官の分泌刺激およびフィードバック調節を理解し、それぞれの機能亢進や低下による病態を理解する。下垂体後葉ホルモンの働きと関連する病態を理解する。

9～10.癌の病態

発がんに関して細胞内シグナル伝達と遺伝子発現制御機構を理解し、がん遺伝子、がん抑制遺伝子の働きなど癌に関する基本的な知識を深め、低酸素誘導因子などの最新の知見を調べて、癌の病態を理解する。
11～12.各種サイトカインと疾患の関係
各種サイトカインについて、その作用、ネットワーク、拮抗作用を理解し、さまざまな身体疾患の病態に関与していることを理解する。
13～15.各種薬剤の作用機序
H1ブロッカーの作用機序とアレルギーの病態の理解、H2ブロッカーの作用機序とプロトンポンプ阻害薬との違い、ベータブロッカーの作用機序と応用範囲、糖尿病患者に使用しない理由、ACE阻害薬の作用機序、プロスタグランジンの概要と応用範囲、利尿剤各種と腎機能の関係、鎮痛剤の種類と作用機序、モルヒネの作用機序など、主要な薬剤の作用機序を理解する。
16. 各種薬剤の副作用
H2ブロッカーによるせん妄など看護上で重要な薬剤の副作用、副作用の発生頻度の高い薬剤、頻度は低いが薬剤の使用頻度が高いために注意を要する副作用、重篤な副作用があって特に注意を要する薬剤について理解する。

看護コンサルテーション論

Consultation

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 川野雅資(心の相談室 荻窪)、辻川真弓 (医学部看護学科)、児玉豊彦 (医学部看護学科)、服部希恵 (名古屋第一赤十字病院)、村木明美(済生会松阪総合病院)、中村喜美子(三重大学医学部附属病院)

授業の概要 コンサルテーションの概念と機能を理解する。リエゾン、直接ケア、教育、スーパービジョンとの相違を明らかにする。実践的にコンサルテーションを学ぶことを通してその機能を発揮する看護職者に必要な能力とスーパーバイズを受けながら成長する必要性を理解する。

2. リピットとリピットのコンサルタントの役割を理解する。
3. コンサルテーションのプロセスを理解する。
4. 実践への応用を理解する。

教科書 川野雅資 コンサルテーションを学ぶ、クオリティア、2012

成績評価方法と基準 クラスへの参加、コンサルテーションのプレゼンテーション、課題レポートで総合評価する。

学習の到達目標

1. コンサルテーションのカプランの4つのモデルを理解する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. コンサルテーションの基本。リエゾン、スーパービジョン、教育、直接ケアとコンサルテーションの差異
2. カプランのコンサルテーションの4つのモデル(原著講読)
3. リピットとリピットのコンサルタントの8つの役割(文献講読)
4. コンサルテーションのプロセス
5. 記録用紙の作成
6. コンサルテーションの実際
7. コンサルテーションの実践報告とスーパービジョン
8. コンサルテーションの実践報告とスーパービジョン
9. コンサルテーションの実践報告とスーパービジョン

10. コンサルテーションの実践報告とスーパービジョン
11. 高度専門分野におけるコンサルタントの役割
12. 高度専門分野におけるコンサルタントの役割
13. 高度専門分野におけるコンサルタントの役割
14. 高度専門分野におけるコンサルタントの役割
15. コンサルテーションに必要な能力
なお集中講義で行います。
日程は①4月27日 (月) 5～8限 28日 (火) 1～6限
②6月29日 (月) 5～8限 30日 (火) 1～6限
③7月20日 (月・祝) 5～8限 21日 (火) 1～6限
以上を予定しています。

看護学セミナー

Seminar in Nursing

学期 通年 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 西出りつ子（医学部看護学科），井村香積（同）

授業の概要 専門領域を問わず、看護学についての最新の知見を得る。

学習の到達目標

- 1) 各セミナーの当該分野における看護の最新の動向や課題を説明できる。
- 2) 10回以上のセミナーに積極的に参加できる。
- 3) 自らの専門領域における学習課題について熟考することができる。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 【看護情報統計学】担当：中野正孝
- 1) テーマの詳細（後日揭示する）講師：葛原茂樹（鈴鹿医療科学大学）
日時：後期（詳細未定），場所：未定（後日揭示する）
 - 【看護教育学】担当：林智子, 井村香積
 - 2) テーマ（看護教育に関するもの），テーマの詳細と講師（後日揭示する）
日時：通年（詳細未定），場所：未定（後日揭示する）
 - 3) 日本看護学教育学会への参加を受講として認める。
 - 【がん看護学】担当：辻川真弓
 - 4) テーマ（がん医療に関するもの），テーマの詳細と講師は未定（後日揭示する）
日時：通年（詳細未定），場所：未定（後日揭示する）
 - 【小児看護学】担当：村端真由美
 - 5) 「国際小児保健医療協力の実際」堀浩樹（三重大学副学長）
日時：後期（詳細は追って揭示する），場所：看護学科棟 第3講義室
 - 6) 「医療処置を受ける子どものプレパレーション」吉崎さやか（三重大学医学部附属病院チャイルドライフスペシャリスト）
日時：後期（月日は追って揭示する）10：30～12：00，場所：看護学科棟 第3講義室
 - 7) 「子ども虐待を理解する～子どもと家族へのケアのために～」鈴木敦子（四日市看護医療大学教授）
日時：前期（詳細は追って揭示する），場所：看護学科棟 第3講義室
 - 8) 「小児看護専門看護師の役割と活動」河俣あゆみ（三重大学医学部附属病院小児看護専門看護師）
日時：後期（詳細は追って揭示する），場所：看護学科棟 第3講義室
 - 9) 「特別支援学校における訪問教育の実際」奥千秋（緑が丘特別支援学校訪問教育部教諭）
日時：後期（詳細は追って揭示する），場所：看護学科棟 第3講義室
 - 10) 「新生児集中ケア認定看護師の役割と活動」藤代朋子（三重中央医療センター副看護師長・新生児集中ケア認定看護師）
日時：後期（詳細は追って揭示する），場所：看護学科棟 第3講義室
 - 11) 「小児のトータルケア」岩本彰太郎（医学部附属病院 小児トータルケアセンター センター長）
日時：後期（詳細は追って揭示する），場所：看護学科棟 第3講義室

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 看護学特別研究，看護学課題研究

教科書 特になし

成績評価方法と基準 受講したセミナーの提出課題の各評価を総合し、本科目の成績評価とする。（但し、受講回数10回以上の者のみが評価の対象となる）

室

- 【老年看護学】担当：磯和勅子, 平松万由子
- 12) テーマ（老年看護に関するもの），テーマの詳細と講師（後日揭示する）
日時：通年（詳細未定），場所：未定（後日揭示する）
 - 13) 日本老年看護学会，日本認知症ケア学会，地域高齢者を対象とした介護予防活動および災害時要援護者対策ワークショップ（日時・場所：詳細未定／後日揭示する）への参加を受講として認める。
 - 【ストレス健康科学】担当：小森照久
 - 14) テーマ（アロマセラピーの医療・看護への応用に関するもの），相原由花（ホリスティックケアプロフェッショナルスクール・学院長）
日時：後期（日時は追って揭示する），場所：未定（後日揭示する）
 - 【地域看護学】担当：中野正孝，畑下博世
 - 15) テーマ（地域保健や保健医療政策に関するもの），テーマの詳細と講師（後日揭示する）
日時：通年（詳細未定），場所：未定（後日揭示する）
 - 16) 日本公衆衛生学会，日本健康医学会への参加を受講として認める。
- （※上記以外の看護学セミナーについては、その都度案内があるので揭示等に注意すること）
- ◎受講および単位認定について
- 1) 「看護学セミナー」のうち10回以上受講した場合、成績評価の対象となる。受講回数が10回に満たない場合、その回数を来年度以降に持ち越すことができる（持ち越す場合、履修届けを再度提出すること）。
 - 2) 専門分野の授業の一部を開放したセミナーの場合、その授業科目を履修済みの者、現在履修中の者、履修予定者はそのセミナーを「看護学セミナー」の回数に含めることができない。
 - 3) 「看護学セミナー」受講票にテーマ・開催月日・開催場所を記入し、受講したセミナーを担当する教員の認印またはサインをもらう。また当日、大学院「看護学セミナー」出席者名簿がある場合、学籍番号、氏名を記入する。
 - 4) 受講したセミナー担当の各教員が課すレポート等の課題を必ず提出する。
 - 5) 10回以上の認印またはサインの得られた受講票を学務グループ大学院担当に提出する。受講票の提出期限は、原則として後期授業開講期間の終わりとする（来年度以降に持ち越す場合、10回以上受講でき次第提出すること）。

看護教育学特論

Nursing Education

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 ○林 智子・井村香積（医学部看護学科），小笠原知枝（関西看護医療大学），松谷美和子（聖路加看護大学）

授業の概要 看護基礎教育の全体構造を理解し、看護職者が教育活動を展開するために必要な基本的知識・技術を習得する。それをもとに、授業設計について学び、講義・演習・実習指導について理解を深める。

学習の到達目標

1. 教育学の基礎理論を学習し、看護職者が教育的機能を果たするための基盤となる知識を得る。
2. 看護基礎教育の教育制度の変遷を学び、基礎教育に求められる教育内容を理解する。

3. 教育方法や教育評価の基礎を学び、看護基礎教育で行なわれている教育に応用することができる。

発展科目 看護生涯教育論

教科書

杉森みどり・舟島なをみ 看護教育学 医学書院
グレッグ美鈴・池西悦子 看護教育学 南江堂

成績評価方法と基準 授業参加度、プレゼンテーション、課題レポートで評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1回目：看護基礎教育と看護学教育
- 2回目：看護教育制度の現状と課題
- 3回目：看護教育課程（カリキュラム）
- 4回目：看護教育カリキュラムと作成過程の概要
- 5回目：看護教育カリキュラム作成の実際
- 6回目：教育方法学の概要
- 7回目：看護学教育での授業設計：現状と課題

- 8回目：看護学教育での授業設計：インストラクショナルデザイン
- 9回目：看護技術教育の概要
- 10回目：看護技術教育の現状と課題
- 11回目：臨地実習指導(1)
- 12回目：臨地実習指導(2)
- 13回目：教育評価と看護教育評価の実際
- 14回目：これからの看護と看護教育
- 15回目：看護教育のための学習理論と学習方法

看護教育学演習Ⅰ

Seminar in Nursing Education

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 演習

担当教員 ○林 智子・井村香積（医学部看護学科）

授業の概要 看護学教育の研究における基礎的な概念および研究方法についての理解を深め、看護学教育の研究に取り組む基礎力を養う。

学習の到達目標

1. 看護学教育に関する文献を系統的に検索することができる。
2. 看護学教育に関する文献を要約し、論点を報告することができる。

3. 看護学教育に関する文献を批判的に検討し、テーマに対して自らの意見を述べることができる。
4. 看護学教育に関する研究課題を設定し、検討した文献をレビューとしてまとめることができる。

発展科目 看護教育学演習Ⅱ

成績評価方法と基準 授業参加度、プレゼンテーション、課題レポート

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス
2. 問題意識の明確化：文献検討①
3. 問題意識の明確化：文献検討②
4. 問題意識の明確化：文献検討③
5. 問題意識の明確化：文献検討④
6. 問題意識の明確化：文献検討⑤
7. 問題意識の明確化：文献検討⑥

8. 研究課題の検討
9. 研究課題に関連する文献検索と文献検討①
10. 研究課題に関連する文献検索と文献検討②
11. 研究課題に関連する文献検索と文献検討③
12. 研究課題に関連する総説の作成①
13. 研究課題に関連する総説の作成②
14. 研究課題に関連する総説の作成③
15. 研究計画の検討

看護教育学演習Ⅱ

Seminar in Nursing Education II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 演習
担当教員 ○林 智子・井村香積（医学部看護学科）

授業の概要 看護学教育に関する研究課題を設定し、計画立案から研究報告まで研究の一連の過程を体験する。

学習の到達目標

- 1.看護教育学演習Ⅰで実施した文献レビューから独自性のある研究課題を設定することができる。
- 2.研究目的を達成するための研究方法検討し、研究計画書を作成することができる。

- 3.研究における倫理的考慮事項を学び、研究計画書を倫理審査に申請することができる。
- 4.研究データを収集し、結果・考察としてまとめることができる。
- 5.一連の研究プロセスを論文として集約し、看護学教育研究の課題や限界を考察できる。

成績評価方法と基準 授業参加度、プレゼンテーション、課題レポート

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.ガイダンス
- 2.看護教育学に関する研究課題の設定
- 3.研究計画の作成①
- 4.研究計画の作成②
- 5.倫理審査書類の作成
- 6.データ収集①
- 7.データ収集②

- 8.データ収集③
- 9.データ収集④
- 10.データ入力
- 11.データ分析
- 12.結果作成
- 13.考察
- 14.論文完成
- 15.論文発表

看護生涯教育論

Continuing Education in Nursing

学期 後期 開講時間 火 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 ○林 智子・井村香積（医学部看護学科），柴田喜幸（産業医科大学）

授業の概要 卒業後の現任教育を生涯学習体系のなかに位置づけながら、継続教育の現状と課題への理解を深める。

学習の到達目標

- 1.看護教育を生涯教育の視点から理解する。
- 2.成人学習の理論や方法を学び、成人学習者の特徴を理解する。

- 3.看護継続教育の実際を検討し、教育の質を高めるための課題を提示できる。

成績評価方法と基準 授業への参加・貢献50%、課題レポート50%、計100%。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.生涯教育からみた看護継続教育
- 2.看護継続教育の現状と課題
- 3.成人学習理論と看護継続教育(1)
- 4.成人学習理論と看護継続教育(2)
- 5.インストラクショナル・デザインの概要と授業設計の方法(1)
- 6.インストラクショナル・デザインの概要と授業設計の方法(2)
- 7.院内教育の現状と課題(1)

- 8.院内教育の現状と課題(2)
- 9.卒後教育計画の立案と評価
- 10.授業設計書の発表と模擬授業(1)
- 11.授業設計書の発表と模擬授業(2)
- 12.看護継続教育の過程における教育と評価の考え方
- 13.看護継続教育の実際の検討(1)（学生のプレゼン）
- 14.看護継続教育の実際の検討(2)（学生のプレゼン）
- 15.看護継続教育の実際の検討(3)（学生のプレゼン）

実践基礎看護学Ⅰ

Fundamentals of Nursing 1

学期 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **他研究科の学生の受講可** **他専攻の学生の受講可**
担当教員 今井奈妙, 坂部貢 (東海大学大学院), 村瀬雅俊 (京都大学大学院), 村瀬智子 (日本赤十字豊田看護大学)

授業の概要 臨床環境看護学という新しい分野の知識を得るための基礎的知識について学ぶ。

学習の到達目標

1. 臨床環境医学の発展と歴史上の課題および最新の知見について理解できる。
2. 臨床環境看護学の基礎的知識と対象をとりまく社会的問題につ

いて理解できる。

教科書

Chemical Sensitivity Vol.1-4, William J.Rea, CRC Press.
生体と電磁波, 坂部貢・羽根邦夫・宮田幹夫著, 丸善出版, 2012

成績評価方法と基準 授業への参加・貢献 50%、課題レポート 50%、計100%。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. コースガイダンス
2. 臨床環境学概論 (1)
3. 臨床環境学概論 (2)
4. 臨床環境看護学概論 (1)
5. 臨床環境看護学概論 (2)
- 6.環境学と臨床環境看護学
7. 臨床環境医学概論

- 8.臨床環境医学の基礎知識 (1)
- 9.臨床環境医学の基礎知識 (2)
- 10.臨床環境看護学の基礎知識 (1)
- 11.臨床環境看護学の基礎知識 (2)
- 13.臨床環境看護学における対象理解 (1)
- 14.臨床環境看護学における対象理解 (2)
- 15.臨床環境看護学における対象理解 (3)
- 16.レポート作成

実践基礎看護学Ⅱ

Fundamentals of Nursing 2

学期 後期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 今井奈妙

授業の概要 実践基礎看護学Ⅰを踏まえ、環境病をとりまく社会的ジレンマを理解した上で、実践的な看護援助を展開する。

学習の到達目標

1. 環境病を取り巻く社会ジレンマの中における看護の役割をアセスメントできる。
2. 実践的な看護援助活動を通して臨床環境看護のあり方についてアセスメントできる。

受講要件 実践基礎看護学Ⅰを履修済みであること。

発展科目 実践基礎看護学Ⅲ,Ⅳ

教科書

Sick Building Syndrome in Public Buildings and Workplaces, Sabah A.Wahab Editor, Springer, 2011.
Multiple Chemical Sensitivity a Survival Guide, Pamela.R.G, New Harbinger Publication, 2000.

成績評価方法と基準 最終レポート50%, 演習および実習課題の提出50%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.コースガイダンス, その他
- 2.環境病を取り巻く社会的ジレンマの考察 (1)
- 3.環境病を取り巻く社会的ジレンマの考察 (2)
- 4.環境病を取り巻く社会的ジレンマの考察 (3)
- 5.環境病をもつ対象への看護実践と看護の役割 (1)

- 6.環境病をもつ対象への看護実践と看護の役割 (2)
- 7.環境病をもつ対象への看護実践と看護の役割 (3)
- 8-11.臨床環境看護学 演習 (1-4)
- 12-15.臨床環境看護学 実習 (1-4)
- 16.レポート作成

実践基礎看護学III

Fundamentals of Nursing 3

学期 前期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **対象** 実践基礎看護学IIを履修した学生が受講 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次
選/必 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 今井奈妙, 福録恵子, 成田有吾, 江藤由美

授業の概要 看護研究の基礎的知識を修得し、看護研究を遂行するための研究計画書を作成する能力を養う。

学習の到達目標

- 1.臨床環境看護学に関する論文を執筆するための基礎的知識を習得できる。
- 2.研究テーマを明確化し、研究計画書を作成することができる。

予め履修が望ましい科目 実践基礎看護学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 実践基礎看護学Ⅳ

教科書

看護研究 原理と方法, D.F.ポーリット&ベック著, 近藤潤子監訳, 医学書院, 2010.
Nursing Research Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice, Polit&Beck, Wilters Kluwer Health.1012.
The Practice of Nursing Research Conduct, Critique&Utilization, Nancy Burns&Susan K.Grove, 2004.

成績評価方法と基準 授業への参加・貢献50%, レポート50%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.コースガイダンス, 自己紹介, その他
- 2.看護研究への誘い
- 3.質的研究と量的研究における重要概念
- 4.質的・量的研究における研究プロセスの概観
- 5.研究問題, 研究設問と仮説
- 6.文献レビューとは何か
- 7.概念的文脈の開発
- 8.量的研究のデザインと厳密性の強化

- 9.様々な目的に応じた量的研究
- 10.質的研究のデザインと方法
- 11.質的デザインと量的デザインの統合
- 12.標本抽出のデザイン
- 13.データ収集法とデータの質の評価
- 14.量的データの分析
- 15.質的データの分析
- 16.レポート作成

実践基礎看護学IV

Fundamentals of Nursing 4

学期 後期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **対象** 実践基礎看護学IIIを履修した学生が受講 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次
選/必 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 今井奈妙, 成田有吾, 福録恵子, 江藤由美

授業の概要 実践基礎看護学IIIで学習した内容を発展させ、サブストラクションによる論文クリティークの方法を習得した上で、看護研究能力を養う。

学習の到達目標

1. 量的・質的研究法におけるサブストラクションの方法を用い

- て、論文クリティークができる。
2. 国内外の学会において、ポスターセッションと口述発表をすることができる。

成績評価方法と基準 授業への参加・貢献50%, レポート50%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.コースガイダンス, その他
- 2.研究成果の公表 (ポスターセッションのポイント)
- 3.研究成果の公表 (口述発表のポイント)
- 4.量的研究法におけるサブストラクションとは

- 5.質的研究法におけるサブストラクションとは
- 6-13.論文のクリティーク・サブストラクション①-⑧
- 14.文献レビューの作成 (1)
- 15.文献レビューの作成 (2)
- 16.レポート作成

がん看護対象論 I

Theoretical Basis of Oncology Nursing I

学期 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **自専攻の学生の受講可**

担当教員 辻川真弓 (医学部看護学科), 坂口美和 (医学部看護学科), 大西和子 (三重大学名誉教授, 鈴鹿医療科学大学), 樋廻博重 (三重大学名誉教授), 中瀬一則 (三重大学がんセンター長)、田口修 (三重大学保健管理センター教授)、山本憲彦 (消化器・肝臓内科助教)、伊井憲子 (放射線治療科副科長)、水野聡朗 (腫瘍内科副科長)、堀木紀行 (光学医療診療部長)、岩本卓也 (医学系研究科臨床薬剤学准教授)、向原里佳 (附属病院薬剤主任)、岡本明大 (附属病院薬剤師)

授業の概要 がんの病態生理・予防・診断・治療にいたる一連の専門的知識を深め、がん看護専門看護師として、対象を理解しアセスメントするために基礎となる能力を養う。

学習の到達目標

1. ストレスが自律神経・ホルモン・免疫に与える影響と発がんとの関連性について探求する。
2. おもながん疾患の病態生理を理解し、予防と診断、標準治療および最新治療情報などの知識を得る。
3. がん患者のフィジカルアセスメントを行うために、病気と治療にともなう症状の出現メカニズムを理解する。
4. がん治療に用いられる薬剤の薬理作用と安全で効果的な使い方を理解する。

教科書

＜教科書＞

- ・資料は講義時に配布
- 大西和子編：がん看護学、ヌーヴェル・ヒロカワ
- 小島操子, 佐藤禮子監訳:がん看護コアカリキュラム、医学書院
- 佐藤禮子監訳:がん化学療法・バイオセラピー 看護実践ガイドライン、医学書院
- 中島、樋廻著：新生化学入門、南山堂
- 樋廻博重著：がんにならない緑茶カテキン、青春出版社

成績評価方法と基準 レポート提出60%、討議（準備・内容・参加度）40%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.: がん看護の役割 (辻川)
がん看護の概念、現状、役割、専門看護師について講義し討論する。がん看護における研究の取り組み、今後の展望について討議する。
- 2.: がんとストレス (大西)
がん疾患とストレス（セリエ、キャノン）の関係を精神・神経・免疫・ホルモンの視点から考える。また、がん患者の理解を危機・ストレス理論（危機、Fink, Aquilera/Messicなどの理論）を用いて講義・討議する。
- 3.: がんの病態 1 (樋廻)
がん疾患の病態生理（発がん遺伝子及び抑制遺伝子など、ゲノム、がん関連遺伝子、遺伝子診断、がんタイプなど）について講義・討議する。
- 4.: がんの病態 2 (樋廻)
がん疾患の病態生理（発がん理論、発がんから転移、血流・リンパなどによる転移）について病理組織を用いながら講義・討議する。
- 5.: がんの病態 3 (樋廻)
疫学的知識を基に多側面からがん疾患予防について講義し、討論する。物理的（紫外線、寒熱など）、科学的（喫煙、ダイオキシンなど）、食生活（動物性脂肪と黄緑色野菜など）ストレス対処などについて討議する。
- 6.: がん治療1 (○中瀬、辻川、坂口)
がん化学療法の歴史、化学療法の種類とそれぞれの特徴、メカニズム、副作用対策などについて教授する。また、疾患による化学療法の効果の違いや、最新のがん医療について討議する。
- 7.: がん治療2 (○伊井、辻川、坂口)
がん放射線治療の種類と特徴・メカニズム、その効果と副作用について講義する。また、重粒子線治療や陽子線治療などの新しい放射線治療についても講義する。また放射線治療の展望や看護のポイントについて討議する。

- 8.: がん治療3 (○田口、辻川、坂口)
肺がんの疫学、種類と特徴について講義する。さらに、肺がんの診断と種類・病期に応じた最新の治療について講義する。これらを基に、がん専門看護師として必要な知識を修得する。
- 9.: がん治療4 (○堀木、辻川、坂口)
胃がんおよび大腸がんの疫学、種類と特徴について講義する。さらに、胃がん・大腸がんの診断と種類・病期に応じた最新の治療について講義する。これらを基に、がん専門看護師として必要な知識を修得する。
- 10.: がん治療5 (○藤田、辻川、坂口)
肝臓がんの疫学、種類と特徴について講義する。さらに、肝臓がんの診断や種類・病期に応じた最新の治療について講義する。慢性疾患としてのがんサバイバーを支えるがん専門看護師に必要な課題を討議する。
- 11.: がん治療6 (○水野、辻川、坂口)
乳がんの疫学、種類と特徴について講義する。さらに、乳がんの診断と種類・病期に応じた最新の治療について講義する。患者の納得いく治療選択とサポートのために、がん専門看護師として必要な知識を修得する。
- 12.: がんの薬物療法1 (○岩本、辻川、坂口)
がん治療や副作用対策に用いる薬剤の薬理作用と安全で効果的な使用について教授する。ー1. がん化学療法に用いる薬物の特徴と薬理作用 2. 抗がん剤の薬効評価と適正な取り扱い
- 13.: がんの薬物療法2 (○向原、辻川、坂口)
がん治療や副作用対策に用いる薬剤の薬理作用と安全で効果的な使用について教授する。ー1. 抗がん剤の薬効評価と適正な取り扱い 2. 放射線療法の副作用対策に用いる薬物の薬理作用
- 14.: がんの薬物療法2 (○岡本、辻川、坂口)
緩和ケアに用いる薬物について、その薬理作用や使用方法について教授する。
- 15.: まとめ (辻川)

がん看護対象論Ⅱ

Theoretical Basis of Oncology Nursing II

学期 前期 **開講時間** 月 1, 2, 3, 4 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 辻川真弓（医学部看護学科）、坂口美和（医学部看護学科）、吉田和枝（医学部看護学科）、大西和子（三重大学名誉教授, 鈴鹿医療科学大学）

授業の概要 がん患者とその家族のストレス・危機状況をアセスメントする方法と指標を探索する能力を養う。

学習の到達目標

1. がん患者と家族の問題に関して、ストレス・危機理論、病みの軌跡理論、その他の理論を用い、全人的視点でアセスメント指標を探究する能力を養う。
2. 手術によってもたらされる身体の器質的、機能的変化に対して、術前から一貫してQOLを高めるようなケアを考慮したアセス

メント指標を探究する能力を養う。

教科書

※資料はその都度配布するとともに、学習内容に合わせた参考書を紹介する。
大西和子、がん看護学、ヌーヴェル・ヒロカワ
小島操子、佐藤禮子監訳、がん看護コアカリキュラム、医学書院

成績評価方法と基準 レポート40%、病棟演習20%、討論（準備・内容・参加度）40%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.: がん患者のアセスメントⅠ（大西）
がん患者と家族を看護理論（ストレス・危機理論、ニード論、適応理論など）を基盤に全人的視点からアセスメントする意義について学ぶ。
- 2.: がん患者のアセスメントⅠ（辻川）
ナイチンゲール看護理論の考え方と、それを伝承した最近のローパー・ローガン・ティアニー（R.R.T）看護モデルに基づいて、がん患者の全体像をとらえアセスメントする方法について学習・討議する。
- 3.: がん患者のアセスメントⅠ（坂口）
がんを慢性の病いとして捉えるときに有効な病みの軌跡理論、そして、強化理論をもとに、がんという病をもって生きる人々の強みに注目し、ウェルネス志向のアセスメントについて学習・討議する。
- 4.: がん患者のアセスメントⅠ（坂口・辻川）ー演習1週目ー
化学療法もしくは放射線療法を受ける患者を1～2例を受け持ち、自身で作成したアセスメントツールを用いて受け持ち患者のアセスメントを行い、看護上の問題点を抽出してみる。実際に使用することにより、あらためてアセスメントの重要性を認識するとともに、使用した理論の特徴、利点・欠点等を考える。＜附属病院：血液内科病棟、呼吸器・消化器内科病棟、耳鼻咽喉科病棟にて3週間演習を行う＞
- 5.: がん患者のアセスメントⅠ（坂口・辻川）ー演習2週目ー
- 6.: がん患者のアセスメントⅠ（坂口・辻川）ー演習3週目ー
- 7.: がん患者のアセスメントⅠ（辻川・坂口）
病棟演習で受け持った患者のアセスメントおよび看護上の問題点について発表する。実際に使用したことにより、アセスメントすることの重要性、患者のセルフケア能力のとらえ方、使用した看

護理論についての利点・欠点等についても討議する。

- 8.: がん患者のアセスメントⅡ（吉田）
大腸がんで人工肛門造設術を受けるがん患者の周術期看護について講義し、病態、症状、診断、治療方法、手術に伴う障害、精神的・社会的側面の問題などをふまえ、全人的視点からアセスメント指標を検討する。
- 9.: がん患者のアセスメントⅡ（辻川）①
前回の病棟演習での学びを活用し、手術を受けるがん患者と家族を全人的視点で捉えるために、看護理論にもとづいたアセスメントツールを学生自身が作成する。作成したアセスメントツールについて、使用した看護理論およびそのツールの特徴等を発表・討議する。
- 10.: がん患者のアセスメントⅡ（辻川）②
前回に引き続き演習を行う。
- 11.: がん患者のアセスメントⅡ（辻川・坂口）ー演習1週目ー
手術を受ける患者を1～2例を受け持ち、自身で作成したアセスメントツールを用いて受け持ち患者のアセスメントを行い、看護上の問題点を抽出してみる。実際に使用することにより、あらためてアセスメントの重要性を認識するとともに、使用した理論の特徴、利点・欠点等を考える。＜附属病院：肝胆膵外科、消化器外科病棟、婦人科病棟にて3週間演習を行う＞
- 12.: がん患者のアセスメントⅡ（辻川・坂口）ー演習2週目ー
- 13.: がん患者のアセスメントⅡ（辻川・坂口）ー演習3週目ー
- 14.: がん患者のアセスメントⅡ（辻川・坂口）
病棟演習で受け持った患者のアセスメントおよび看護上の問題点について発表する。作成したアセスメントツールを評価するとともに、周術期における患者のQOLを高めるケアに焦点をあてたアセスメントについて検討する。
- 15.: まとめ（辻川）

がん看護対象論III

Theoretical Basis of Oncology Nursing III

学期 前期 開講時間 月 5, 6, 7, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 演習 授業の特徴

PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 辻川真弓（医学部看護学科）、坂口美和（医学部看護学科）、馬場俊彦（名城大学名誉教授）

授業の概要

あらためて「ケアとは何か」を考え、自身の看護観を培う。
がん患者と家族のストレス・危機状況をアセスメントする能力、
フィジカルアセスメントする能力を養う。

学習の到達目標

1. 「ケアとは何か」を考えることを通して、がん看護専門看護師としての自己の課題や目標を明確化する。
2. がん患者と家族の問題に関して、看護理論や危機理論等を用い、全人的な視点からアセスメントできる。
3. 治療に伴う症状をもつがん患者のフィジカルアセスメントができる。

受講要件 がん看護対象論Ⅱを履修中であること

教科書

※資料はその都度配布するとともに、学習内容に合わせた参考書を紹介する。

ベナー/ルーベル：現象学的人間論と看護, 医学書院

ミルトン・メイヤロフ：ケアの本質, ゆみる出版

広井良典：ケア学, 医学書院

浜渦辰二：ケアの人間学入門, 知泉書館

成績評価方法と基準 レポート40%、討論（準備・内容・参加度）60%

授業計画・学習の内容

学習内容

1～6回

ケアとは何かを考える（辻川、坂口、馬場）

- ・ケアという意味を考える、ケアとキュアの違いについて
- ・ケアとケアリングについて
- ・ケアすることと、ケアされること
- ・ケアにおける人間理解
- ・ケアの本質

7～10回

がん患者と家族のアセスメント（辻川、坂口）

・1～2つの看護理論を選択し、その理論にもとづいて、実際に病棟で受け持った患者のアセスメントを行い、アセスメント指標を探究する。

11～14回

がん患者のフィジカルアセスメント（辻川、坂口）

・化学療法、放射線療法などの治療を受けるがん患者の病態や治療を理解した上で、治療にともなう症状をもつ患者のフィジカルアセスメントを学習・討議する。

15回

まとめ（辻川、坂口）

がん看護援助論 I

Clinical Basis of Oncology Nursing I

学期 後期 開講時間 火, 8 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 辻川真弓 (医学部看護学科)、坂口美和 (医学部看護学科)、吉田和枝 (医学部看護学科)、竹内佐智恵 (医学部看護学科)、大西和子 (鈴鹿医療科学大学教授、三重大学名誉教授)、丸山一男 (三重大学医学系研究科麻酔集中治療学)、松原貴子 (三重大学医学部附属病院: 緩和センター)、荒尾晴恵 (大阪大学医学系研究科教授)、濱田麻美子 (神戸市民病院)、中村喜美子 (がん専門看護師: 三重大学医学部附属病院)、村木明美 (がん専門看護師: 済生会松阪総合病院)、福永稚子 (がん専門看護師: 三重大学医学部附属病院)、堀口美穂 (がん看護専門看護師: 三重大学医学部附属病院)

授業の概要 がん患者の苦痛に対し、その家族も含めて症状マネジメントを行うための看護介入モデルを探究する能力を養う。

学習の到達目標

1. 症状マネジメントモデル、セルフケア理論を用い苦痛緩和、QOLを高める看護介入を探究する。
2. 集学的治療に伴う症状の管理や、それに伴う心理的・社会的変化に対する看護介入を探究する。

予め履修が望ましい科目 がん看護対象論 I～IIIを履修済みであ

ることが望ましい。

教科書

※資料はその都度、あるいは事前に配布するとともに、学習内容に合わせた参考書を紹介する。

大西和子編集、がん看護学、ヌーヴェル・ヒロカワ

小島操子、佐藤禮子監訳、がん看護コアカリキュラム、医学書院

成績評価方法と基準 レポート提出60%、討議 (準備・内容・参加度) 40%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.: がん看護の概念 症状管理1 (辻川)
症状マネジメントモデル (IASM) の考え方を紹介する。
- 2.: 苦痛緩和 1 (○佐藤、辻川、坂口)
がん性疼痛の基本的な捉え方 (がん性疼痛の特徴、痛みのメカニズム、痛み治療の目標)、痛みをアセスメントする方法について教授する。
- 3.: 苦痛緩和 2 (○佐藤、辻川、坂口)
がん性疼痛の治療に用いる鎮痛剤の作用機序と与薬方法、さらに薬物療法以外の痛み治療についても教授する。
- 4.: 苦痛緩和 3 (○村木、辻川、坂口)
がん患者の苦痛をどのようにアセスメントし、がん看護専門看護師として患者と家族にどう介入し、評価し次につなげていくか、実践例を提示しながら討議・討議する。
- 5.: 苦痛緩和 4 (○中村、辻川、坂口)
痛み以外の症状緩和への看護援助について、実際の事例や文献事例を用いて、症状の定義、その機序、アセスメント、症状緩和のための治療・看護について教授する。
- 6.: 症状管理2 (○荒尾、辻川、坂口、大西)
看護介入のための症状のとらえ方について考えるとともに、症状マネジメントのための統合的アプローチであるIASM (Integrated approach to symptom management) を教授する。
- 7.: 症状管理3 (○荒尾、辻川、坂口、大西)
看護介入のための症状のとらえ方について考えるとともに、症状マネジメントのための統合的アプローチであるIASMを教授する。

- 8.: 症状管理4 (○足利、辻川、坂口、大西)
がん化学療法の症状マネジメントにおけるエビデンスに基づいたより良い看護の可能性について、幅広い視野から講義・討議する。
- 9.: 症状管理5 (○足利、辻川、坂口、大西)
がん化学療法の症状マネジメントにおけるエビデンスに基づいたより良い看護の可能性について、幅広い視野から講義・討議する。
- 10.: 症状管理6 (○堀口、辻川、坂口)
化学療法に伴う症状マネジメントについて、具体的な実践例を示しながら講義・討議する。
- 11.: 症状管理7 (○福永、辻川、坂口)
放射線療法の意義、有害事象への対処方法、セルフケアへの患者・家族教育、症状マネジメントについて講義・討議する。
- 12.: 症状管理8 (○福永、辻川、坂口)
放射線療法に伴う症状マネジメントを、具体的な実践例を示しながら講義・討議する。
- 13.: 症状管理9 (竹内)
集学的治療に伴う症状マネジメントや心理・社会的変化に対する看護援助を学習する。がんの術後に循環呼吸機能不全におちいり集中治療を要する人について事例や研究論文を用いて討議する。
- 14.: 症状管理10 (吉田)
がん性創傷のメカニズムとスキントラブルの特徴、ケアのポイントについて理解する。また、オストメイトへの身体面ケアと心理・社会的サポートについて講義/討議する。
- 15.: まとめ (辻川)

がん看護援助論 II

Clinical Basis of Oncology Nursing II

学期 後期 **開講時間** 木7,8 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 辻川真弓(医学部看護学科)、坂口美和(医学部看護学科)、竹内佐智恵(医学部看護学科)、大西和子(鈴鹿医療科学大学教授、三重大学名誉教授,)、中村喜美子(がん専門看護師: 三重大学医学部附属病院)、中西直也(理学療法士)、秋山正子(株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長)

授業の概要 がん患者と家族への看護介入の方法を考察し、特定状況における看護介入モデルを探求する能力を養う。

学習の到達目標

1. がんサバイバーシップにおける看護介入モデルを探求する。
2. ターミナル期患者とその家族へのトータルなケア、悲嘆教育などの看護介入モデルを探求する。

予め履修が望ましい科目 がん看護対象論Ⅰ・Ⅱ

教科書

※資料はその都度配布するとともに、学習内容に合わせた参考書を紹介する。

大西和子編集: がん看護学、ヌーヴェル・ヒロカワ

小島操子、佐藤禮子監訳: がん看護コアカリキュラム、医学書院
近藤まゆみ、嶺岸秀子: がんサバイバーシップーがんとともに生きる人びとへの看護ケア、医歯薬出版

窪寺俊之: スピリチュアルケア概説、三輪書店

成績評価方法と基準 レポート提出40%、討論準備・参加度60%

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.: がんサバイバー1 (辻川)
がんサバイバーシップの概念やその援助方法について学習し、がんの種類と段階に応じた看護のありかたを理解する。
- 2.: がんサバイバー2 (坂口)
がん患者の家族のおかれている状況を理解し、家族看護理論を用いながら、家族ケアについて学習・討議する。
- 3.: がんサバイバー3 (竹内)
がんサバイバーシップについて、セクシャリティ観点から考える。文献をもとにセクシャリティの意味と看護について検討する。
- 4.: がんサバイバー4 (○中西、辻川、坂口)
がんのリハビリテーションという視点での、看護師としての援助のあり方について学習する。
- 5.: がんサバイバー5 (○中西、辻川、坂口)
がんのリハビリテーションという視点での、看護師としての援助のあり方について学習する。
- 6.: 緩和ケア1 (辻川)
緩和ケアとは何かを探求する。緩和ケア先進国であるオーストラリアの実践例と日本の現状とを比較する。
- 7.: 緩和ケア2 (辻川)
がん患者のトータルペインを理解した上で、スピリチュアルペインの構造とそのケアについて探究する。
- 8.: 緩和ケア3 (坂口)
悲哀・悲嘆の歴史的外観、諸理論について学習し、がん患者や家

族、遺族の悲嘆ケアについて学習・討議する。

9.: 緩和ケア4 (坂口)

家族が看取る力を育む在宅緩和ケアについて、在宅ケア、緩和ケア、家族看護の知識をもちいながら学習、討議をする。

10.: 緩和ケア5 (○秋山、坂口、辻川)

在宅緩和ケアの視点からがん患者と家族の現状と課題、また、その課題を達成するためのCNSの役割について学習、討議する。

11.: 緩和ケア6 (○秋山、坂口、辻川)

在宅緩和ケアの視点からがん患者と家族の現状と課題、また、その課題を達成するためのCNSの役割について学習、討議する。

12.: 緩和ケア7 (○中村、辻川、坂口)

大学病院の緩和ケアチームでのがん専門看護師としての活動についての実践を紹介し、治療と並行した緩和ケアのあり方について討議する。

13.: がん看護とQOL 1 (大西)

セルフケアによりQOLを高める方法をホリスティックな視点から講義する。セルフケアとしてのリラクセス療法、音楽療法について講義・討議する。

14.: がん看護とQOL 2 (辻川)

がん患者のQOL評価について探求する。ターミナル期のQOL評価には多くの課題があることも理解した上で、実際にSTASを用いて演習を行う。

15.: まとめ (辻川)

がん看護援助論III

Clinical Basis of Oncology Nursing III

学期 後期 開講時間 木 9, 10, 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 辻川真弓(医学部看護学科)、坂口美和(医学部看護学科)

授業の概要 がんサバイバーシップの概念にもとづき、がん患者の苦痛を症状マネジメントし、患者と家族への看護介入モデルを探究する能力を養う。

学習の到達目標

1. がんサバイバーシップの概念から看護介入モデルを立案・実践・評価する。
2. 症状マネジメントモデルを理解し、実際にIASMを用いて症状マネジメントを実践し評価することができる。
3. 学生自身の関心領域の研究論文を選択し、クリティークする能力を養う。

授業計画・学習の内容

学習内容

1～6回

症状マネジメント1～6（辻川、坂口）

・化学療法患者、放射線療法患者、在宅ターミナルケア事例、ターミナル患者事例等についてIASMを用いて症状マネジメントをおこなう。IASMで展開した事例を発表し、討議する。

7～10回

看護介入モデル1～4（辻川、坂口）

・がんサバイバーシップ、緩和ケア、家族への支援などに関する

教科書

※資料はその都度配布するとともに、学習内容に合わせた参考書を紹介する。

大西和子編、がん看護学、ヌーヴェル・ヒロカワ

小島操子、佐藤禮子監訳：がん看護コアカリキュラム、医学書院
近藤まゆみ、嶺岸秀子：がんサバイバーシップーがんとともに生きる人びとへの看護ケア、医歯薬出版

窪寺俊之：スピリチュアルケア概説、三輪書店

成績評価方法と基準 レポート提出40%、討論（準備・内容・参加度）60%

事例について、看護介入モデルに基づき実践したことについて発表&討議する。

11～14回

論文クリティーク1～4（辻川、坂口）

・がんサバイバーシップ、緩和ケア、症状マネジメント、家族への支援などの中から自分の関心領域における研究論文を選択し、クリティークしたものを発表する。

15回

まとめ（辻川）

がん看護実習I

Advanced Practice in Oncology Nursing I

学期 後期 単位 2 選/必 選択必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 辻川真弓（医学部看護学科）、坂口美和（医学部看護学科）、中村喜美子（がん看護専門看護師：三重大学医学部附属病院）、福永稚子（がん看護専門看護師：三重大学医学部附属病院）

授業の概要 複雑で対応の難しいがん患者や家族の様々な問題を捉え、苦痛の緩和、日常性の回復や適応を促進するために、看護モデルを適用し、個別性を重視し、包括的なアセスメントに基づいた看護を展開する能力を養う。

学習の到達目標

1. 入院中のがん患者に生じている問題について、専門的な知識をもとに情報を整理し、問題の焦点化ができる。
2. 症状マネジメントが必要な臨床事例をとり、症状マネジメント

モデルを用いて、症状のメカニズム、アセスメント、マネジメント、アウトカムの一連の展開を行い、症状緩和を図るための専門性の高い看護介入ができる。

3. 事例検討から新たな視点や自己の課題を明確にし、より専門性を高めていくことができる。

成績評価方法と基準 実習状況・カンファレンス参加状況50%、実習レポート50%

授業計画・学習の内容

学習内容

複雑で対応の難しいがん患者（治療を受けている患者、あるいはターミナルの患者）を受け持ち、個別性を重視した看護モデルを

適用し、あるいは開発し、看護過程を展開する

実習場所：三重大学医学部附属病院

実習期間：後期10週間（毎週木曜日）

がん看護実習Ⅱ

Advanced Practice in Oncology Nursing II

学期 その他(学習要項・履修要項等を参照してください) **単位** 5 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 辻川真弓（医学部看護学科）、坂口美和（医学部看護学科）、中村喜美子（がん看護専門看護師：三重大学医学部附属病院）、福永稚子（がん看護専門看護師：三重大学医学部附属病院）、小迫富美恵（がん看護専門看護師：横浜市民病院）、細矢美紀（がん看護専門看護師：国立がん研究センター中央病院）、井沢知子（がん看護専門看護師：京都大学医学部附属病院）、服部聖子（がん看護専門看護師：滋賀医科大学附属病院）、上田育子（がん看護専門看護師：大阪医科大学附属病院）、村木明美（がん看護専門看護師：済生会松阪総合病院）、向井未年子（がん看護専門看護師：愛知県がんセンター中央病院）、他

授業の概要 がん看護分野の特殊性を踏まえて、専門看護師としての包括的なアセスメント能力を養う。さらに、関連職種間の連携・ケアマネジメント・コンサルテーション・教育的機能を果たす能力・援助方法の開発推進等の役割について、論理的判断・諸理論を活用して実習し、専門的・総合的能力を培う。

学習の到達目標

【実習Ⅱ－1】

がん専門看護師の指導のもとで、実際に行われている臨床での活動を知り、専門看護師の役割（実践・相談・調整・教育・研究・

倫理）を理解する。

【実習Ⅱ－2】

実習Ⅰおよび実習Ⅱ－1を発展させ、スーパービジョンを受けながら、臨床においてがん専門看護師としての6つの役割を実践し、総合的な実践能力を養う。

受講要件 がん看護対象論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、がん看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、がん看護実習Ⅰを履修済みであること。

成績評価方法と基準 実習参加・カンファレンス参加50%、実習レポート50%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 実習Ⅱ－1では、がん看護専門看護師の指導のもとに、実際の活動を経験し専門看護師の6つの役割を理解する（2週間）。実習終了後、各学生の学びを共有するために、全体発表会を企画・運営する。
2. 実習Ⅱ－2では、スーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師として実際に病棟看護師の教育、コンサルテーション、他職種との調整、臨床研究指導、倫理的問題の解決等を行い、実践能力を養う。（3週間）
3. 課題追求の実習
上記実習を行い実践的研究課題を追求し、その成果を課題レポー

トにまとめる準備をする。

実習場所：

三重大学医学部附属病院

国立がん研究センター中央病院

横浜市民病院

京都大学医学部附属病院

大阪医科大学附属病院

滋賀医科大学附属病院

愛知県がんセンター中央病院

松阪済生会総合病院

成人看護学対象論Ⅰ

Theoretical Basis of Adult Nursing I

学期 前期 **開講時間** 火7,8 **単位** 2 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田和枝、竹内佐智恵（医学部看護学科）

授業の概要 成人看護の現状と問題点を明らかにし、成人看護の専門性および人間の尊厳を支える看護とは何かを探索する。

学習の到達目標

- 1.成人看護学の概念を説明できる。
- 2.成人看護の場・対象・看護実践の特徴を説明できる。
- 3.生命の危機にある人の看護の意味について述べることができる。
- 4.成人看護実践の現状と課題を文献等を活用して明らかにできる。

教科書

【テキスト】

特に指定しない。

随時、参考文献は紹介する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション30%、レポート50%、参加度20%により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.オリエンテーション 本科目の意図および進め方
- 2～14. 成人看護に関連する理論
- ①講義

②事例検討（事例、事例に関連する理論）

③文献レビュー（和文、英文）

④演習

15. 成人看護の課題と展望・まとめ

成人看護学対象論Ⅱ

Theoretical Basis of Adult Nursing II

学期 前期 単位 2 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田和枝、竹内佐智恵（医学部看護学科）

授業の概要 成人期のケアを必要とする人の病態、生理学的な変化、機能障害および回復状況、生活行動や心理的反応の状況を理解し、アセスメントする能力を養うとともに、生体侵襲によって生命危機状態で特殊な環境下にある患者およびその家族の心身のストレス、危機状況について理論的に探求する。

学習の到達目標

1. 生体侵襲について説明できる。
2. 生命危機状態にある人の病態・生理、必要な治療について説明できる。
3. 生命危機状態にある人の心身の状況・ストレス反応について説明

明しアセスメントできる。

4. 生命危機状態における患者の安全・安楽について説明できる。
5. 生命危機状態にある人の家族に生じる問題を説明できる。

教科書

【テキスト】
特に指定しない。
随時、参考文献は紹介する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション50%、レポート30%、参加度20%により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. オリエンテーション
- 2～3. 講義

- 4～7. 事例検討
- 8～12. 演習
- 13～15. 文献レビュー（日本語 英語）

成人看護学援助論Ⅰ

Clinical Basis of Adult Nursing I

学期 後期 開講時間 金 11, 12 単位 2 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 吉田和枝、竹内佐智恵（医学部看護学科）他

授業の概要

成人期のケアを必要とする人の医療的介入・治療処置の効果を判断し、苦痛の緩和、早期離床を促す援助方法について検討する。また、その家族への援助のかかわりについて探求する。

学習の到達目標

1. 医療介入・治療を必要とする人とその家族の苦痛の理解と緩和について説明できる。
2. 医療介入・治療が必要な状況にある人とその家族の緩和ケアに関する理論を説明できる

3. 早期離床の効果と介入について説明できる。
4. 成人期の看護を必要とする人とその家族への援助のかかわりについて説明できる。
5. 成人看護の専門性について説明できる。

教科書

【テキスト】
特に指定しない。
随時、参考文献は紹介する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション30%、レポート50%、参加度20%により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. オリエンテーション

- 2～14. 講義・事例検討
15. まとめ

成人看護学援助論Ⅱ

Clinical Basis of Adult Nursing II

学期 後期 単位 2 選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 吉田和枝、竹内佐智恵（医学部看護学科）他

授業の概要 成人期のケア状況での倫理的ジレンマを明確にし、問題解決する能力を養う。さらに、看護の専門性および人間の尊厳を支える看護とは何かを探求する。

学習の到達目標

1. 成人期のケアにおける倫理的課題を文献等を活用して明らかにできる。
2. 成人期の看護の場における倫理的問題について検討し、実践的な

問題解決の道を探る

教科書

【テキスト】
特に指定しない。
随時、参考文献は紹介する。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション30%、レポート50%、参加度20%により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. オリエンテーション

- 2～14. 講義・事例検討
15. 成人期の看護の課題・まとめ

母性看護・助産学対象論Ⅰ

Maternal Nursing & MidwiferyⅠ

学期 通年 **開講時間** 火 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 井關敦子（医学系研究科看護学専攻），新小田春美（医学系研究科看護学専攻）

授業の概要 現代社会における女性の特徴を理解し、周産期医療の現状と課題について検討する

発展科目 母性看護・助産学対象論Ⅱ

学習の到達目標

1. 現代社会に生きる女性のライフサイクルと発達課題の特徴について説明できる
2. 現代の周産医療の現状と課題について説明できる

教科書 参考文献・資料等はその都度提示する

成績評価方法と基準 出席・参加状況とプレゼン・課題提出状況により総合的に評価する

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス（授業の目的・進行の説明、課題の提案）
- 2-3. 現代社会における女性のライフサイクル
- 4-6. 現代社会の女性と健康問題；乳幼児期・思春期・青年期・成熟期・更年期・老年期における心身・社会的健康、及び健康問題

- 7-8. 女性と就業・育児
- 9-10. 周産期医療の発達と課題（不妊治療）
- 11-13. 周産期医療の発達と課題（未熟児医療 多胎妊娠）
- 14-15. 母性看護・助産学領域における研究の動向

母性看護・助産学対象論Ⅱ

Maternal Nursing & MidwiferyⅡ

学期 通年 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 井關敦子（医学系研究科看護学専攻），新小田春美（医学系研究科看護学専攻）

授業の概要 女性を取り巻く社会や文化的価値観を通して、母子の健康とそれに影響を及ぼす事象について学び、女性と人間理解のための素養を培う

2. 文化や慣習を尊重する姿勢を持ちながら、母子の健康との関連について説明することができる

学習の到達目標

1. 先進国および開発途上国の母子保健の特徴や課題について説明することができる

教科書 参考文献・資料等はその都度提示する

成績評価方法と基準 出席・参加状況とプレゼン・課題提出状況により総合的に評価する

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス（授業の目的・進行の説明、課題の提案）
- 2-3. 先進国の母子保健の現状
- 4-6. AIDSと母子保健

- 7-12. 母子の健康に影響を及ぼす文化的風習
- 9-10. 開発途上国と母乳育児
- 11-13. 開発途上国の家族計画
- 14-15. 人工妊娠中絶と世界の動向

母性看護・助産学援助論Ⅰ

Clinical Basis of Maternal Nursing & MidwiferyⅠ

学期 通年 **開講時間** 木 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 新小田春美、井關敦子（医学系研究科看護学専攻）

授業の概要 理論に基づいた女性とその家族のライフサイクル各期における健康援助のあり方およびその方法について、研究論文、文献等を基に学習する。

予め履修が望ましい科目
母性看護・助産学対象論Ⅰ

学習の到達目標 性周期に支配された女性の生体リズムに着眼した健康課題について、母子保健および周産期看護の援助効果を測定するための方法を探究する。

発展科目 母性看護・助産学援助論Ⅱ

成績評価方法と基準 授業中に課すレポート60%、プレゼンテーション20%、参加度20%により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス；授業の目的、母性看護・助産学領域における研究の動向と援助評価
- 2～3 性周期に基づく生体リズムに着眼した女性のライフサイクルにおける健康課題（研究的視点から見た援助課題の検討）
- 乳幼児期・思春期・青年期・成熟期・更年期・老年期における心身・社会的健康、及び健康問題
- 4-7. 女性とその家族のライフサイクル各期における特徴的な健康問題に対する援助の基盤となる理論

- 8-10. 女性とその家族のライフサイクル各期における特徴的な健康問題に対する援助方法
 - 11-15 母子保健および周産期ケアにおける看護援助評価の検討
- 【留意事項】
- ・講義またはゼミ形式（意見交換等）ですすめる。
 - ・課題の発表形式はプレゼンテーション他。
 - ・学生の研究的基盤に発展していけるような内容に調整しながら展開していく。

母性看護・助産学援助論 II

Clinical Basis of Maternal Nursing & Midwifery II

学期 通年 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 新小田春美、井関 敦子（医学系研究科看護学専攻）

授業の概要 女性のライフステージにおける援助課題とその評価方法を学習する。

発展科目 助産論 II

教科書 参考文献・資料等はその都度提示する。

予め履修が望ましい科目 母性看護・助産学対象論 I, 母性看護・助産学援助論 I

成績評価方法と基準 出席・参加状況と課題提出状況により総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ガイダンス；授業の目的・すすめ方について、課題提示
2-4. 女性のライフステージにおける健康課題とその援助評価
5-15. 以下の内容から、テーマを選択し、文献レビューと資料分析により自身の研究の基礎としての学習を深める。

- ・思春期の健康援助方法とその理論、評価方法
- ・成熟期女性の健康援助方法とその理論、評価方法
- ・更年期女性の健康援助方法とその理論、評価方法
- ・母子、家族の視点からみた医療・看護ケアの具体例と評価方法

小児看護学対象論

Theoretical Basis of Pediatric Nursing

学期 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業
担当教員 〇仁尾かおり（医学部看護学科），村端真由美（医学部看護学科）

授業の概要 最近の小児医療の実際と動向を学び、成長発達理論等をふまえ、子どもとその家族への看護を実践するためのアセスメント能力を養う。

4. 子ども虐待の現状と必要なケアについて説明することができる。
5. 援助理論の実践・研究について理解し、小児看護の実践に活かすことができる。

学習の到達目標

1. 小児看護の理論的枠組みについて説明することができる。
2. 子どもの成長発達理論について説明することができる。
3. 成長発達理論をふまえて、看護実践に必要なアセスメントができる。

発展科目 小児看護学援助論，小児看護学特論 I・II

成績評価方法と基準 授業中に課すレポート内容80%，プレゼンテーション内容20%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 小児看護の理論的枠組み
2. ～5. 子どもの人権，小児看護の専門性と役割・機能
6. ～8. 子どもの成長発達理論

9. ～11. 子どもの心理社会的支援
12. ～14. 子ども虐待を理解する 子どもと家族へのケアのために
15. まとめ

小児看護学援助論

Clinical Basis of Pediatric Nursing

学期 後期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 〇仁尾かおり（医学部看護学科），村端真由美（医学部看護学科）

授業の概要 小児看護学に関する関連文献をもとに、小児医療におけるトータルケア・成育医療・チーム医療を学び、健康問題をもつ子どもと家族への看護を実践するための能力を養う。

- 説明できる。
4. 健康問題をもつ子どもと家族のニーズに沿った看護を実践することができる。

学習の到達目標

1. 健康問題をもつ子どもと家族へのトータルケアについて説明できる。
2. 健康問題をもつ子どもと家族への援助について説明できる。
3. 健康問題をもつ子どもと家族へのソーシャルサポートについて

予め履修が望ましい科目 小児看護学対象論

発展科目 小児看護学特論 II

成績評価方法と基準 授業中に課すレポート内容80%，プレゼンテーション内容20%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ～5. 健康問題をもつ子どもと家族へのトータルケア
6. ～8. 健康問題をもつ子どもと家族へのソーシャルサポート

9. ～10. 小児の在宅看護
11. ～15. 家族看護

小児看護学特論Ⅰ

Topics of Pediatric Nursing I

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 ○仁尾かおり（医学部看護学科），村端真由美（医学部看護学科）

授業の概要 小児慢性疾患をもつ子どもとその家族へのQOLの向上を目指したトータルケア実践能力を養う。

学習の到達目標

1. 小児慢性疾患をもつ子どもとその家族のストレス・危機状況の特徴について説明できる
2. 小児慢性疾患特有の症状や副作用に関する症状マネジメント具体的に述べることができる。

3. 小児慢性疾患をもつ子どもの発達課題の特徴について説明できる。

4. ターミナル・ケア、ソーシャル・サポート、遺族へのケアについて具体的に述べることができる。

発展科目 小児看護学特論Ⅱ

成績評価方法と基準 授業中に課すレポート内容80%，プレゼンテーション内容20%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. ～3. 小児慢性疾患をもつ子どもへの看護
4. ～8. 小児慢性疾患をもつ子どもへの症状マネジメント

9. ～12. 小児慢性疾患をもつ子どもと家族のストレス・危機状況

13. ～15. 小児慢性疾患をもつ子どもの成長発達とQOL

小児看護学特論Ⅱ

Topics of Pediatric Nursing II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 ○仁尾かおり（医学部看護学科），村端真由美（医学部看護学科）

授業の概要

障がいのある子どもとその家族へのQOLの向上を目指したトータルケア実践能力を養う。

低出生体重児とその家族へのQOLの向上を目指したトータルケア実践能力を養う。

学習の到達目標

1. 障がい児の症状マネジメント・日常生活のケアについて説明することができる。
2. 障がい児と家族へのソーシャル・サポートについて述べることができる。

3. 低出生体重児への救命のためのケア・成長発達促進のためのケアについて説明することができる。

4. 低出生体重児の親子関係促進のためのケアについて述べることができる。

予め履修が望ましい科目 小児看護学対象論，小児看護学特論Ⅰ

発展科目 看護学特別研究

成績評価方法と基準 授業中に課すレポート内容90%，プレゼンテーション内容10%

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 障がい児看護の概念
2. ～3. 障がいの特徴による症状マネジメント
4. ～6. 日常生活のケアとソーシャル・サポート
7. 家族へのケアとソーシャル・サポート

8. 低出生体重児の看護の概念

9. ～11救命のためのケア

12. ～14. 成長発達促進のためのケア

15. 親子関係促進のためのケア

老年看護学対象論Ⅰ

Theoretical Basis of Gerontological NursingⅠ

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要

目的：

老年看護学の対象の全人的理解と高齢者の健康に関連する環境の理解を多面的に進めるための理論・知識・技術を学び、高齢者の健康状態を総合的にアセスメントし、健康支援の方針を導き出す能力を養う。老化の影響による健康状態の変化を理解すると共に、自己のもつ老年観について考察する。

目標：

高齢者を全人的に理解できる能力を養う。

高齢者の個別の健康状態に合わせたヘルスアセスメントができる能力を養う。

あらゆる健康状態にある高齢者の健康支援のあり方について考察する。

高齢者の健康支援のための環境調整のあり方を理解する。

学習の到達目標 老年看護学の機能について幅広く理解する。高齢者の全人的理解（理論・知識・技術）、高齢者の心身の機能評価と生活機能評価、高齢者の総合的ヘルスアセスメント、高齢者の健康支援に関連した環境調整の方法を理解する。家族支援の必要性を理解する。高齢者への倫理的配慮・人権擁護の視点を持つことができる。

発展科目 老年看護学対象論Ⅱ、高齢者ケアシステム論Ⅰ・Ⅱ、老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ

成績評価方法と基準 レポート、討論準備・参加、出席などから総合的に判断する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 老年看護学の機能（日本における高齢者の全体像を知り、あらゆる健康レベルにある高齢者への看護の機能と看護の目標を理解する）
2. 高齢者の身体的変化と健康（老化とは？老年期の生理的变化の特徴と健康への影響について理解する）
3. 高齢者の心理的变化と健康（老年期の心理的变化の要因について多面的に理解し、老年期の適応課題と健康との関連を考察する。老年期の精神的成熟とは老年期の発達課題とは老年観）
4. 高齢者の社会的変化と健康（老年期の社会的変化が健康に及ぼす影響を理解し、社会的活動と健康との関連を考察する。社会活動の活性化と健康長寿への支援）
5. 高齢者の健康維持・増進と日常生活 健康長寿のための日常生活（要介護の予防）
6. 高齢者の機能評価 ①高齢者のヘルスアセスメントとその方法について理解する
7. 高齢者の機能評価 ②高齢者の身体的機能評価の方法について理解する。

8. 高齢者の機能評価 ③高齢者の心理・精神的機能評価の方法について理解する。
9. 高齢者の機能評価 ④高齢者の生活機能評価 ICF生活機能分類、CGAの評価方法
10. 高齢者の環境と健康（環境による健康への影響について多面的に理解し、高齢者の健康支援のための環境調整の視点及びその方法について考察する）
11. 高齢者の環境と健康（高齢者ケアにおける環境の実態と健康支援の方法について考察する）
12. 高齢者と家族関係、家族介護者の実態 家族への支援の必要性の理解 看護相談のあり方
13. 高齢者の家族関係の理解と健康支援のあり方について考察する
14. 老年看護における倫理的配慮・人権擁護（老年看護の場における倫理的課題と対応）
15. 老年看護における倫理的配慮・人権擁護（身体拘束・虐待予防の課題について考察する）

老年看護学対象論Ⅱ

Theoretical Basis of Gerontological Nursing II

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要 様々な健康状態にある高齢者と家族を多面的に理解し、諸理論を踏まえて高齢者と家族への適切な健康支援の方法を理解する。

学習の到達目標 様々な健康状態にある高齢者のヘルスアセスメントと健康上の課題を考察できる。様々な健康状態にある高齢者に関わる家族のヘルスアセスメントと健康上の課題を考察できる。様々な健康状態にある高齢者と家族の健康支援のあり方を探求で

きる。

受講要件 老年看護学対象論Ⅰを受講していること

発展科目 老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ

成績評価方法と基準 課題レポート、討論準備・参加、出席率などから総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1.老化と老年病

”①老化と老年病（1）

高齢者の死因、老年病、老年症候群”

”②老化と老年病（2）

疾患および症状に応じたアセスメント”

2.高齢者と家族看護

”③高齢者と家族看護（1）

高齢者と家族に関するケアモデル、家族看護モデル”

”④高齢者と家族看護（2）

入院・治療を受ける高齢者と家族の看護”

”⑤高齢者と家族看護（3）

退院支援・退院調整における高齢者と家族の看護”

”⑥高齢者と家族看護（4）

介護施設における高齢者と家族の看護”

”⑦高齢者と家族看護（5）

在宅介護の現状と課題、家族介護者の実態、介護負担と倫理的課題”

”⑧高齢者と家族看護（6）

在宅介護における高齢者と家族の看護”

”⑨高齢者と家族看護（7）

高齢者の終末ケア、在宅ターミナルケアの現状と家族の看護”

3.地域における高齢者看護の実際

”⑩地域における高齢者看護の実際（1）

ヘルスプロモーション、健康維持・増進・介護予防活動の実際”

”⑪地域における高齢者看護の実際（2）

災害時要援護者および高齢者の災害看護の実際”

4.老人専門看護師の役割と機能

”⑫老人看護専門看護師の役割と機能（1）

役割、機能、目標、米国と日本におけるCNS・NP”

”⑬老人看護専門看護師の役割と機能（2）

看護実践、コンサルテーション、コーディネーション”

5.家族ケアとEBN

”⑭高齢者の家族看護に関するEBN（1）

質的研究の文献検索、質的研究の動向”

”⑮高齢者の家族看護に関するEBN（2）

量的研究の文献検索、量的研究の動向”

老年看護学援助論Ⅰ

Clinical Basis of Gerontological NursingⅠ

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要

目的：

あらゆる健康状態にある高齢者への健康援助の方法について保健医療福祉に関わるケアの現場を通して具体的に理解し、老年看護学的手法による看護介入方法を多面的に探求する能力を養う。

目標：

あらゆる健康状態にある高齢者のヘルスアセスメントを基に個別の対象への質の高い看護を提供できるように総合的な視点をもって援助方法を立案できる能力を養う。

高齢者看護の現場から研究課題を抽出し、効果的な看護介入の手法を考察する能力を養う。

学習の到達目標

高齢者の健康長寿への支援から終末期ケアまで、あらゆる健康状態にある高齢者の健康支援の方法を多面的に理解し、対象の心身機能・環境要因を踏まえて老年看護学的手法による健康支援の方法を具体化できる。

予め履修が望ましい科目 老年看護学対象論Ⅰ・Ⅱ

発展科目 老年看護学援助論Ⅱ

成績評価方法と基準

演習への取り組み、レポート、主体的学習態度などを総合して評価する

授業計画・学習の内容

学習内容

1.地域における高齢者の看護

①地域で生活する高齢者の健康維持・増進への看護（1）

看護師によるヘルスプロモーションの実践

②地域で生活する高齢者の健康維持・増進への看護（2）

ヘルスプロモーションの実践における工夫と留意点、エンパワメント、他職種連携、リスクマネジメント

2.医療施設における高齢者の看護

③入院時および周手術期における高齢者の看護（1）

適応、せん妄予防、周手術期、合併症予防、薬物療法への支援

④回復期における高齢者の看護（2）

心身機能・生活機能の低下予防、リハビリテーション看護、退院調整・退院支援”

3.介護施設における高齢者の看護

⑤介護施設における高齢者の看護（1）

ヘルスアセスメント、健康管理、生活機能の維持・向上、QOLの

向上、家族支援、リスクマネジメント

⑥介護施設における高齢者の看護（2）

他職種連携、倫理的配慮

4.在宅における高齢者の看護

⑦在宅における高齢者の看護（1）

訪問看護の実践、家族のケアマネジメント

⑧在宅における高齢者の看護（2）

他職種連携、倫理的配慮、リスクマネジメント

5.終末期における高齢者の看護”終末期における高齢者の看護（1）

⑨在宅ターミナルケア、高齢者の意思決定と家族ケア

6.老年看護学領域における研究の動向

⑩～⑮

研究課題に関する論文のクリティーク（1）

研究課題の明確化・設定（2）

研究課題に関する文献レビュー（3）

研究デザイン・方法の検討（4）

老年看護学援助論Ⅱ

Clinical Basis of Gerontological Nursing II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要 認知症をもたらす疾患の理解（病態、検査、治療）と認知症高齢者の全人的理解とヘルスアセスメントを基に対象に合わせた個別の健康支援の方法を立案できる。認知症を進行させる要因を総合的にアセスメントし、健康管理、日常生活における心身の活性化、人的環境、物理的環境の調整方法について考察する。認知症の予防方法について考察する。認知症の早期発見・早期対応の方法を考察する。認知症の症状（中核症状・BPSD）への対応方法を考察する。認知症高齢者のケアマネジメントと家族への支援について考察する。認知症ケアの理念について考察する。

学習の到達目標 認知症高齢者及び家族の健康状態を多面的に理

解し、認知症の予防への対応、認知症の進行を遅らせる対応、終末期ケアなどにおいて、認知症高齢者と家族のQOLを高める総合的なケアのあり方を保健医療福祉を統合させて考え、実践できる能力を養う。

予め履修が望ましい科目 老年看護学対象論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅰ、高齢者ケアシステム論Ⅰ

発展科目 老年看護実習Ⅰ・Ⅱ

成績評価方法と基準 レポート、討論準備・討論参加、出席から総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.認知症の理解
 - ①認知症をもたらす疾患、病態、検査・診断、治療
 - ②認知症の症状、BPSDを誘発する要因、適切な対応方法
- 2.認知症のアセスメント
 - ③認知機能の評価方法と活用
 - ④認知症高齢者のアセスメント：全人的理解、ヘルスアセスメント、環境アセスメント
- 3.認知症高齢者の看護
 - ⑤認知症高齢者のケアの理念、適切なコミュニケーション方法
 - ⑥認知症の予防的介入、文献検討
 - ⑦認知症の予防的介入、文献検討
 - ⑧認知症の非薬物療法：BPSDへの看護、進行遅延への看護、事例検討
 - ⑨介護保険施設および地域密着型サービスにおける認知症高齢者

- ケアの実際と看護師の役割
- 4.認知症高齢者の家族看護
 - ⑩認知症高齢者の家族看護：在宅介護の現状と課題、事例検討、文献検討
 - ⑪認知症高齢者の家族看護：介護困難・介護負担と家族支援、ケアマネジメント、事例検討、文献検討
 - 5.認知症高齢者の看護における倫理的配慮
 - ⑫認知症高齢者と家族を取り巻く倫理的課題と支援、認知症高齢者の意思決定を支える制度と活用、終末期ケア
 - ⑬介護保険施設における倫理的課題と支援、看護師の役割
 - 6.認知症高齢者と家族への看護に関する研究の動向
 - ⑭認知症高齢者とその家族への看護実践に関する研究論文のクリティック、文献検討
 - ⑮認知症高齢者とその家族への看護実践に関する研究論文のクリティック、文献検討

高齢者ケアシステム論Ⅰ

Gerontological Care SystemⅠ

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要

目的：

日本における高齢者ケアシステムの動向を知り、ケアの現状から課題を把握し、質の高い高齢者ケアシステムの構築について考察する。高齢者ケアシステムに関する研究の動向を把握する。

目標：

高齢者ケアの継続と職種間・他機関との連携における課題を把握し、保健医療福祉のケアシステムの今後の目標を明らかにする。

高齢者ケアの質に関わる看護職の人材育成の目標を明らかにする。

学習の到達目標 高齢者ケアシステムの具体的理解 ケアシステム構築の方法について理解する。

発展科目 老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、高齢者ケアシステム論Ⅱ

成績評価方法と基準 レポート、討論準備・参加、出席率などから総合的に評価する

授業計画・学習の内容

学習内容

1.高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革

”①高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（1）

高齢社会の統計的变化と課題、健康寿命、地域格差”

”②高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（2）

保健医療福祉システムの変革と課題”

”③高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（3）

諸外国における高齢者保健医療福祉システム”

”④高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（4）

地域における高齢者ケアシステムと課題、介護予防、地域づくり、社会参加”

”⑤高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（5）

医療施設における高齢者ケアシステムと課題、高齢者看護の質保証”

”⑥高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（6）

保健・福祉施設における高齢者ケアシステムと課題、他職種連携、高齢者看護の質保証”

”⑦高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（7）

在宅における高齢者ケアシステムと課題、高齢者看護の質保証”

”⑧高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（8）

継続看護における高齢者ケアシステムと課題、高齢者看護の質保証”

”⑨高齢者ケアと保健医療福祉制度の変革（9）

権利擁護、終末期医療、チームアプローチ”

2.地域における高齢者看護の実際

”⑩地域における高齢者看護の実際（1）

産学官民連携による地域高齢者ケアシステムの実際”

”⑪地域における高齢者看護の実際（2）

産学官民連携による地域高齢者ケアシステムの実際”

3.高齢化社会とエイジング教育

”⑫高齢化社会とエイジング教育（1）

初・中等教育におけるエイジング教育の現状と課題”

”⑬高齢化社会とエイジング教育（2）

諸外国におけるエイジング教育の現状”

4.高齢者ケアの質保証・質管理とEBN

”⑭高齢者ケアの質保証・質管理とEBN（1）

質的研究の文献検索、質的研究の動向”

”⑮高齢者ケアの質保証・質管理とEBN（2）

量的研究の文献検索、量的研究の動向”

高齢者ケアシステム論Ⅱ

Gerontological Care System II

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要 老人保健医療福祉の制度、それらに関する政策の現状について理解し、よりよい高齢者ケアシステム構築に向けて今後の政策への提言について考察する。老年看護の動向と現状を理解し、より質の高い看護を提供するための今後への発展のあり方を考察する。また、高齢者ケアに関わる質の高い看護職・介護職の人材育成のあり方について考察する。

学習の到達目標 高齢者ケアに関わる保健医療福祉制度、政策の現状を具体的に理解し、高齢者ケアの質を向上させる政策への提言ができる。老年看護の今後の発展のあり方を提言できる。高齢

者ケアに関わる看護職・介護職の人材育成のあり方、環境調整について提言できる。

予め履修が望ましい科目 老年看護学対象論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅰ、高齢者ケアシステム論Ⅰ

発展科目 老年看護実習Ⅰ・Ⅱ

成績評価方法と基準 レポート、討論準備・討論参加、出席から総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1.国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変革と現状

①高齢者保健医療福祉制度・政策：諸外国との比較、課題と今後のあり方への提言、文献検討

②高齢者保健医療福祉制度・政策：諸外国との比較、課題と今後のあり方への提言、文献検討

2.様々な場における高齢者ケアを支えるサポートシステムの課題と今後の制度・政策への提言

③地域における高齢者の健康維持・増進を支援するケアシステムの課題と今後のあり方への提言：看護職の役割、文献検討

④地域における高齢者の健康維持・増進を支援するケアシステムの課題と今後のあり方への提言：看護職の役割、文献検討

⑤医療施設における高齢者と家族のケアシステムの課題と今後のあり方への提言：チーム医療、保健医療福祉専門職との連携、文献検討

⑥高齢者の保健・福祉における高齢者と家族のケアシステムの課題と今後のあり方への提言：他職種連携、看護職の役割、文献検討

⑦高齢者の保健・福祉における高齢者と家族のケアシステムの課題と今後のあり方への提言：他職種連携、看護職の役割、文献検討

⑧在宅ケアにおける高齢者と家族のケアシステムの課題と今後のあり方への提言：家族支援サポートシステム、文献検討

⑨在宅ケアにおける高齢者と家族のケアシステムの課題と今後のあり方への提言：家族支援サポートシステム、文献検討、事例検討

3.高齢者ケアシステムを踏まえた退院支援

⑩医療機関および保健・福祉施設と在宅の継続ケアを支えるサポートシステムの課題と今後のあり方への提言、文献検討、事例検討

⑪医療機関および保健・福祉施設と在宅の継続ケアを支えるサポートシステムの課題と今後のあり方への提言、文献検討、事例検討

4.高齢者ケアシステムおよび高齢者ケアの質保証

⑫高齢者ケアに関わる看護職・介護職の人材育成における課題と今後のあり方への提言：高齢者ケアの実践、文献検討、事例検討

⑬高齢者ケアに関わる看護職・介護職の人材育成における課題と今後のあり方への提言：倫理的調整、文献検討、事例検討

5.高齢者ケアシステムおよび高齢者ケアの質保証に関する研究の動向

⑭高齢者ケアシステムおよび高齢者ケアの質保証に関する研究論文のクリティーク、文献検討

⑮高齢者ケアシステムおよび高齢者ケアの質保証に関する研究論文のクリティーク、文献検討

老年看護実習 I

Advanced Practice in Gerontological Nursing I

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要 実習において、さまざまな健康状態にある高齢者を全人的に理解し、高齢者の総合的機能評価を基に、対象のヘルスアセスメントを的確に実施し、看護過程を展開しながら対象に合った質の高い看護を実践する。高齢者ケアに関わる他職種との連携・協働を実践し、家族への支援を踏まえて保健医療福祉の総合的視点で、質の高いケアを継続するためのケアマネジメント力と看護実践力を養う。

学習の到達目標

老年看護の対象理解が全人的に総合的に実施できる。高齢者の総合的機能評価を基にヘルスアセスメントが的確にできる。看護過

程を展開して、対象の個別性に合わせた質の高い看護を実践できる。

高齢者ケアに関わる他職種と効果的に連携し、保健医療福祉の総合的視点をもって、ケアマネジメントができる。老人専門看護師の機能を看護の現場から認識する。

受講要件 老年看護学対象論Ⅰ・Ⅱを履修していること。

発展科目 老年看護実習Ⅱ

成績評価方法と基準 実習内容、カンファレンス参加状況、ケースレポートを総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

高齢者の保健医療福祉に関わる総合施設において、医療施設（療養型医療施設、リハビリテーション病院）老人保健施設、特別養護老人ホーム、認知症専門の特別養護老人ホーム、グループホーム、ケアハウス、経費老人ホーム、地域密着型サービス（サテライト型特別養護老人ホーム）、地域包括支援センター、種々の高齢者在宅支援サービスの実施状況を幅広く、具体的に理解する。現状の高齢者ケアシステムを理解し、さまざまな健康状態にある高齢者と家族の全人的理解、総合的機能評価を基に、対象のヘルスアセスメントが的確に実施でき、対象の健康・QOL向上にむけた質の高い看護を老年看護の専門の立場から保健医療福祉の総合的視点で展開し、ケースレポートを作成する。在宅療養者への訪問看護及び介護老人保健施設など介護保険の施

設で実習し、看護過程を展開しながら高齢者と家族への看護を実践し、保健医療福祉の職種間の連携・協働を実践し、よりよいケアが継続できるようにケアマネジメントを実践する。（在宅の訪問看護及び老人保健施設の実習は、合わせて5～6週間）ケアに関わる職種間の連携の中での看護職のあり方について考察する。

職種間で効果的な連携ができるための環境調整、人材育成のあり方について考察する。

高齢者と家族への健康支援を総合的に実施でき、質の高い高齢者看護、家族支援のあり方について考察する。

実践した高齢者看護の質を総合的に評価し、今後のよりよい看護について考察する。

高齢者ケアの質を高める老人専門看護師の機能について考察する。

老年看護実習 II

Advanced Practice in Gerontological Nursing II

学期 前期 単位 4 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL

担当教員 磯和勅子（医学部看護学科）、平松万由子（医学部看護学科）

授業の概要 認知症高齢者のケア、高齢者の終末期ケアなど総合的なケアを必要とする対象に関わり、ヘルスアセスメント、看護の実践、ケアマネジメント、環境調整、家族への支援、関連職種との連携、ケアに関わるスタッフへの教育的関わりと各種の相談、倫理的調整、看護の質を向上させる援助方法の開発などの研究的視点を持ち、老年看護の専門看護師としての総合能力を養う。

学習の到達目標 複雑な健康状態にある高齢者及び家族の全体像を把握し、対象のQOLを向上させる看護の計画を総合的な視点で立案し、実践できる。ケアに関わる他職種との連携、教育、相談、

調整、倫理的配慮など質の高いケアが提供できる環境調整に関わる能力を養う。実践の場から、老年看護の実践力を高める看護研究の課題を追求するなど、老年看護の専門的総合能力を養う。

受講要件 老年看護学対象論Ⅰ・Ⅱ、老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ、高齢者ケアシステム論Ⅰ・Ⅱ、老年看護実習Ⅰを履修済みであること

成績評価方法と基準 実習計画、実習内容、カンファレンスへの参加状況、ケースレポートを総合して評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 認知症高齢者のケア、高齢者の終末期ケアなど複雑なケア環境にある高齢者のケアに関わり、高齢者と家族のヘルスアセスメント、看護の計画、実施評価、ケアマネジメントを実践し、質の高い老年看護のあり方を探求する。

2. 高齢者のケアに関わる他職種との連携・協働を実践しながら、ケアスタッフへの教育的関わり、相談、調整、倫理的調整の役割を現場から認識すると共にそれらを実践し、老人看護専門看護師の機能を具体的に理解した上で、実践した内容を評価し、今後のあり方を考察する。

3. 実践の場から、老年看護の質を向上させる実践的研究課題を見出し、具体的な研究方法について考察する。

4. 実習の全体像から、老人看護専門看護師の機能のあり方を確認し、今後への課題を明確にする。

実習場所：各自のテーマに合わせて、老人保健施設、訪問看護、病院（療養型医療施設）などで、合わせて4週間以上の実習をする。

（老人看護専門看護師の看護実践の状況を身近に知る機会が得られ、老人看護専門看護師からの指導が得られる実習施設で、実習する。）

精神看護学対象論

Theoretical Basis of Psychiatric Nursing

開講時間 月 7, 8 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 小森照久（医学部看護学科）、児玉豊彦（医学部看護学科）

授業の概要 精神の健康に関する理解を深め、人の精神的諸問題をライフサイクルに沿ってアセスメントする能力を探究する。

う。
3. ライフサイクルに沿って生じる人の精神的諸問題について探究する。

学習の到達目標

1. 精神障害者の病態や生理を理解し、最新の知識を踏まえてアセスメントする。
2. 対人関係論、精神力動看護論に基づいた看護を探究する能力を養

教科書 開講時に提示する。英文文献を予定している。

成績評価方法と基準 出席状況、レポート、授業中の状況から総合的に判断する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1～5. 精神障害者の病態や生理を理解し、最新の知識を踏まえてアセスメントする。
- 6～10. 対人関係論、精神力動看護論に基づいた看護を探究する能力

- を養う。
11～15. ライフサイクルに沿って生じる人の精神的諸問題について探究する。
16. 試験

精神看護学援助論

Clinical Basis of Psychiatric Nursing Research

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6, 7, 8 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習, 実習
担当教員 小森照久（医学部看護学科）、児玉豊彦（医学部看護学科）

授業の概要 精神障害者の社会復帰を支援し、地域において広く精神保健活動を展開できる能力を修得する。

成績評価方法と基準 出席、レポート、授業中の状況を総合的に判断する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. 精神障害者の実態と医療サービスの現状の把握および入院時におけるリハビリテーション看護の実践を学習する。
- 2～3. 法に基づく精神障害者の社会復帰の概念および国、地方行政サービスの実情と課題について探究する。
- 4～5. 精神科リハビリテーションにおける看護プログラムの策定について探究する。
- 6～7. 精神科医療・福祉・地域サービスを展開するコメディカルとの連携について探究する。

- 8～9. 社会資源の運営と活用の実践を体験し、学習する。（作業所、デイケア、保健所、グループホーム、セルフヘルプグループ、クラブハウスなどの活動を学ぶ）
10. 研究テーマに関連した実践活動を見学し、精神看護のあり方を探究する。
- 11～15. 見学および実習してきた実践活動の報告（プレゼンテーションとディスカッション）
16. 試験

リエゾン精神看護

Psychiatric Liaison Nursing

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 小森照久（医学部看護学科）、児玉豊彦（医学部看護学科）

授業の概要 リエゾン精神看護学の機能と役割を学び、精神看護学の技術・知識を応用して患者・家族の心身の健康問題を解決する実践能力を養う。

1. リエゾン精神看護の機能と役割を理解する。
2. リエゾン看護援助の技術を学ぶ。

学習の到達目標

成績評価方法と基準 出席、レポート、授業中の状況を総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

1. リエゾン看護の歴史
2. リエゾナーズの活動
3. コンサルテーションの理論

4. コンサルテーション技法と関連理論
- 5～10. 事例検討
- 10～15. コンサルテーション演習

精神看護学特論

Topics of Psychiatric Nursing Research

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 授業の方法 講義, 演習
担当教員 小森照久（医学部看護学科）、児玉豊彦（医学部看護学科）

授業の概要 精神看護学における専門的な知識を習得し、学術論文を作成する能力を養う。

を深めるとともに、精神看護のあり方について探求する。
3. 自己の研究テーマに焦点をあてた的確な論文校正能力を養う。

学習の到達目標

1. 最新の情報を文献検索などから学び、知識を深める。
2. 海外のトピックスなど関連領域の情報、専攻研究から専門知識

成績評価方法と基準 出席、レポート、授業中の状況から総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.論文作成の基本的知識
- 2.テーマを絞って関連領域の論文構成を学習
- 3～5.関連領域の文献検索
- 6～8.国内外の精神看護に関連したトピックスを発表する（文献要

旨のまとめ）
9～12.文献内容を解析し、クリティークする。
13～15.先行文献から自己の研究テーマを絞り込む。
16.研究計画発表

ストレス科学概論

Introduction to Stress Science

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 小森照久（医学部看護学科）

授業の概要 ストレスの意味とストレスによる心理的、生物学的反応について学び、看護実践や研究に応用できる能力を養う。

6.ストレスをめぐる研究計画を立てられる。
7.看護における患者、医療スタッフのストレスを理解し、看護実践に生かせる

学習の到達目標

- 1.ストレスの意味を正しく理解できる。
- 2.ストレスによる心理的反応と測定法を理解できる。
- 3.ストレスによる生物学的反応と測定法を理解できる。
- 4.ストレスと各種疾患の関係を理解できる。
- 5.ストレスをめぐる最近の研究動向を文献検索し、理解できる。

発展科目 健康科学特論

教科書 その都度資料を配布または紹介する。

成績評価方法と基準 出席・参加状況と課題レポートにより総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1.ストレスによる心理的反応と科学的測定法
- 2.ストレスによる生物学的反応と科学的測定法
- 3.ストレスによる生物学的反応を用いた模擬実験

4.看護における患者、医療スタッフのストレス
5～12.ストレスをめぐる最近の研究動向の文献検討
13～15.ストレスをめぐる研究計画の立案
16.まとめ

健康科学特論

Advanced alternative medicine

学期 後期 開講時間 月 11, 12 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 小森照久（医学部看護学科）

授業の概要 精神、身体、健康および健康増進に関して、精神医学、運動科学、栄養学、生理学など幅広い視点から探求する。

4.和文、英文の論文を読解できる。

学習の到達目標

- 1.精神の健康について理解できる。
- 2.身体、健康について、運動科学、栄養学などの視点から理解できる。
- 3.健康の増進について理解できる。

予め履修が望ましい科目 ストレス科学概論

教科書 その都度資料を配布または紹介する。

成績評価方法と基準 出席・参加状況と課題レポートにより総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 1～4.精神の健康と健康増進
- 5～7.運動科学からみた健康と健康増進

8～10.栄養学からみた健康と健康増進
11～15. 健康と健康増進について文献検討
16. まとめ

代替医療概論

Introduction to Alternative Medicine

学期 前期 **開講時間** 金 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 小森照久 (医学部看護学科)、丸山一男

授業の概要 東洋医学（漢方、鍼灸、気功など）全般、アロマセラピー、アーユルヴェーダ、ホメオパシーなど代替医療とされているもの全般について、批判も含めて概観する。特に、アロマセラピーについては初級検定に必要な知識の習得を図る。

学習の到達目標 代替医療全般にわたって概要を理解し、科学的、批判的に捉えながら、利点や可能性も考えることができる。

発展科目 代替医療特論

教科書 その都度資料を配布または紹介する。

成績評価方法と基準 出席・参加状況と課題レポートにより総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義をもとに、代替医療に関する文献を検索して読み、その内容を発表する。

1～2.東洋医学（漢方医学）

3～4.鍼灸、指圧、その他の東洋医学

5～9.アロマセラピー初級；歴史、精油の基礎知識

10～11.アロマセラピーの応用；基礎編

12.リフレクソロジー、オステオパシー、カイロプラクティック

13.間香療法、ホメオパシー、アーユルヴェーダ

14.サプリメント

15～16.文献検索と発表

代替医療特論

Advanced Alternative Medicine

学期 後期 **開講時間** 金 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 小森照久 (医学部看護学科)、丸山一男、相原由花

授業の概要 代替医療について文献的な検討を行いながら、一部のアロマセラピーや一部のサプリメントなど代替医療の中で科学的根拠があるものについて理解を深め、研究能力の養成と学術論文の作成能力を修得する。アロマセラピー2級検定試験に対応する内容を含む。

学習の到達目標 代替医療に関する基礎的な知識から応用的な知

識に進み、実践的な応用力を身につけ、研究能力を身につける。

予め履修が望ましい科目 代替医療概論

教科書 その都度資料を配布または紹介する。

成績評価方法と基準 出席・参加状況と課題レポートにより総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

講義に基づいて、文献を検索し、その内容を発表する。

1～5.アロマセラピー2級検定対応；精油の基礎知識、安全性、応用

6～7.アロマセラピーの応用；実技編

8～11.アロマセラピーについて文献検討

12～13.サプリメント（特に、オメガ-3多価不飽和脂肪酸）について文献検討

14～15.東洋医学について文献検討

16.まとめ

地域看護学対象論

Community Health Assessment

学期 前期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 畑下博世（医学部看護学科）、中野正孝（同）、西出りつ子（同）他

授業の概要 個々住民や家族の生活と健康に関する看護学の歴史的背景、発展過程や理論を文献検討により考察する。また、実践に用いる家族看護アセスメントモデルや介入モデルを学ぶことにより個々住民や家族看護介入に必要な理論と具体的技術を修得する。

学習の到達目標

- 1) 家族看護学の歴史的発展経緯と理論について考察できる。
- 2) 家族看護介入に必要な理論やモデルを理解し、実際に用いることができる。
- 3) 家族看護学の将来展望を考察できる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 地域看護学援助論，地域保健学特論Ⅱ

教科書

適宜提示するが、次のテキストは購入すること。
森山美知子編集：ファミリーナーシングプラクティス、医学書院

成績評価方法と基準 プレゼンテーション、レジュメ・資料、ディスカッションの参加状況について総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

ゼミナール：院生は文献を読み要約し、プレゼンテーションをする。その後、ディスカッションを行う。

1. 家族看護学における家族の概念と歴史的経緯
2. 家族看護学の発展経緯
3. システム理論、家族看護システムの概要と理論背景
- 4～9. 家族看護モデル

- 1) 家族生活力量モデル
- 2) 家族危機モデル
- 3) カルガリー家族アセスメントモデル
- 4) カルガリー家族介入モデル
- 10～11. 家族看護実践事例（国外）
- 12～14. 家族看護実践事例（国内）
15. まとめ

地域看護学援助論

Community Health Care

学期 後期 単位 2 年次 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 畑下博世（医学部看護学科）、中野正孝（同）、西出りつ子（同）

授業の概要 地域集団の健康課題を明らかにし、課題解決に向けて計画・介入・評価するための理論・モデル・具体的技術について文献を用いながら検討する。さらに、事例を用いながら実践に必要な支援方法を考察する。

学習の到達目標

- 1) 地域看護学の歴史的発展経緯と理論について説明できる。
- 2) 地域看護計画や介入に必要な理論やモデルを理解し、実際に用いることができる。
- 3) 地域看護学の将来展望を考察できる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 地域看護学対象論，地域保健学特論Ⅰ

発展科目 看護学特別研究

教科書

適宜提示するが、次のテキストは購入すること。
金川克子編集：コミュニティ・アズ・パートナー、医学書院

成績評価方法と基準 プレゼンテーション、レジュメ・資料、ディスカッションの参加状況について総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

学習内容

ゼミナール：院生は文献を読み要約し、プレゼンテーションをする。その後、ディスカッションを行う。

1. 地域看護学の歴史的経緯
2. プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション
3. 客観的データと主観的データ
4. 地域住民の文化を考慮したアプローチ（エスノグラフィー）
5. 同上
- 6～12. 地域看護過程モデル

（主としてコミュニティ・アズ・パートナー）

- 1) アセスメントモデル
- 2) 分析と診断
- 3) 介入計画立案
- 4) 介入
- 5) 評価
13. 地域看護倫理
- 14～15. 実践事例を考察する。

地域保健学特論Ⅰ

Topics of Community HealthⅠ

学期 前期 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業
担当教員 谷村 晋 (医学部看護学科)

授業の概要 地域集団に対して有効かつ合理的な保健政策の策定の基礎となる行政科学の理論と方法を学習するとともに、実例を通して、保健・医療政策の立案から評価に至る過程において、必要な知識・技術を修得する。

学習の到達目標

地域における健康政策の意義を理解し、その策定に必要な基礎理論と技術を述べることができる。
地域における健康政策の策定、効果予測、選択、実施、評価などの一連のプロセスが説明できる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 地域保健学特論Ⅱ

教科書 水嶋春朔：地域診断のすすめ方，根拠に基づく生活習慣病対策と評価，第2版，医学書院

成績評価方法と基準 課題に関する発表80%、出席状況20%

授業計画・学習の内容

学習内容

1～3.政策の基礎理論
地域保健政策の策定の基礎となる行政科学の理論と方法を学習するとともに、政策研究、生命倫理や法的問題などについて考究する。さらに、地域における健康情報及びデータについて理解を深める。
4～5.保健政策策定の基礎
地域集団の健康問題や健康水準を明確化するために必要な知識・技術について学習するとともに、健康ニーズや保健・医療サービスの現状などの分析を通して、保健政策のあり方・方法について理解を深める。
6～7.保健政策の効果予測
これまでの保健政策に関する先行研究を分析し、そうした政策の適用や実行の可能性、そして、効果や問題点などを学習する。

8～9.保健政策の選択
立案した様々な政策及び実施計画を検討し、優先順位を設定し、定量的評価を行うための知識・技術について学習する。
10～11.保健政策の実施
政策の実施にあたっての展開方法や問題点について学習する。
12～13.保健政策の評価
政策及び実施計画について、設定した目標がどの程度達成されたかについての評価方法について学習する。
14～15.保健政策の実践
事例をとおして、実際の保健政策及び実施計画について検討し、政策の立案から評価までのプロセスを実践的に修得する。
※なお、受講生との協議等により、以上の計画を変更する場合もある。

地域保健学特論Ⅱ

Topics of Community HealthⅡ

学期 後期 **開講時間** 火 11, 12 **単位** 2 **年次** 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習
授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 谷村 晋 (医学部看護学科)

授業の概要 地域集団に対して有効かつ合理的な保健政策の策定に必要な調査の理論と方法を学習するとともに、実例を通して、統計調査の企画・実施・評価、データの分析方法などについて、必要な知識・技術を修得する。

学習の到達目標

地域における健康調査の意義を理解し、それに必要な基礎理論と技術を説明することができる。
地域における健康調査方法の知識・技術を具体的な事例に応用できる。
健康に関する統計調査の企画から結果の検討までの一連のプロセスを示すことができる。

統計的手法を用いて、健康に関する調査データの基礎的な分析ができる。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 地域保健学特論Ⅰを履修済であることが望ましい

発展科目 特になし

教科書 講義資料を配付する。

成績評価方法と基準 課題レポート80%、出席状況20%

授業計画・学習の内容

学習内容

1～5.健康調査と疫学
地域における健康調査の意義及び方法に関して、保健学及び疫学の視点から論じるとともに、疫学の原理と方法及び疫学調査方法論について学習する。
6～10.地域健康調査方法
地域保健政策を立案して計画を実践していくには、地域住民の健康状態を把握するための調査が不可欠となる。そこで、疫学調査の原理と方法を踏まえ、健康と生活に関する調査を行うために必要な理論と実際について学習する。すなわち、仮説の構築、研究

デザイン、対象選択、調査の企画・実施などである。
11～15.地域健康調査データ解析
地域健康調査方法で論じたことを基に、サンプリングや調査結果の処理に必要な統計学の知識と技術について学習する。具体的には、集団を対象とした場合の、対象選択の方法、標本抽出方法、記述統計学、推測統計学、多変量解析法、ICT（情報通信技術）の活用などについて修得する。さらに、実例を通して、健康調査方法について理解を深める。
※なお、受講生との協議等により、以上の計画を変更する場合もある。